

長岡山遺跡

長岡山東遺跡

発掘調査報告書

長岡山遺跡・長岡山東遺跡発掘調査報告書

2013年3月

山形県南陽市教育委員会

な が お か や ま
長岡山遺跡

な が お か や ま ひ ご し
長岡山東遺跡

発掘調査報告書

南陽市埋蔵文化財調査報告書第7集

平成25年3月
山形県南陽市教育委員会



長岡山遺跡 第4次調査時全景（北から）



長岡山遺跡出土 有孔鉗付土器（赤彩有り）



長岡山遺跡出土 縄文土器

序

この度、「長岡山遺跡・長岡山東遺跡 発掘調査報告書」を発行する運びとなりました。

本書は、県立高校の統廃合に係る県立赤湯園芸高等学校の校舎解体及び同跡地における南陽市立赤湯小学校建設工事に伴うものと、市道稻荷森古墳線整備工事に伴う南陽市教育委員会が実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

長岡山遺跡は、市内赤湯地区南部の長岡地区にあり、現在は市立赤湯小学校が建築されている所にあります。平成4年に分布調査を、平成10年に第1次調査を5月から、第2次調査を9月に実施し、平成12年に第3次調査を5月に、第4次調査を11月に実施しました。

長岡山東遺跡については、長岡山遺跡の東南側に位置し、試掘調査を平成3年5月に、本調査を同年6月に実施しました。これらの調査結果から、縄文時代から中世に亘るこの地域の生活の様子について理解できるものと存じます。

本市は、旧石器時代から、須刈田にある縄文時代の大野平遺跡等、古墳時代の前方後円墳である国指定史跡「稻荷森古墳」や全国的にも極めて珍しい合掌形石室を持つ市指定史跡「松沢古墳群」や同指定の「蒲生田山古墳」など数多くの遺跡を抱えております。この貴重な財産を後世に受け継ぎ顕彰し、本市の将来を考察する礎とすることが、この地に育ち生きていく私たちの責務と考えております。

結びに、本調査及び報告書を作成するにあたり、ご協力及びご指導いただいた佐藤鎮雄先生と佐藤庄一先生、そして公益財団法人千葉県教育振興財団文化財センターの白井久美子先生をはじめとする関係各位に厚く感謝を申し上げます。

平成25年3月

南陽市教育委員会

教育長 猪野 忠

本書は、南陽市立赤湯小学校建設工事に係る「長岡山遺跡」及び市道稻荷森古墳線整備工事に係る「長岡山東遺跡」の発掘調査報告書である。

既刊の年報、現地調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

調査は南陽市教育委員会が実施した。

出土遺物・調査記録類は、報告書作成終了後、南陽市教育委員会が保管する。

調査要項

遺跡名 ①長岡山遺跡
②長岡山東遺跡

遺跡番号 ①1228

②昭和60年度登録

所在地 ①山形県南陽市大字長岡字小生堂・金屋神
②山形県南陽市大字長岡字西田中・西田中南

調査主体 南陽市教育委員会

調査実施機関 南陽市教育委員会社会教育課

調査期間 ①平成4年8月21日～平成12年12月8日
②平成3年5月18日～平成3年7月16日

調査担当者

| | | | | |
|-------|--------|------|----------|-------|
| 平成3年度 | 社会教育課長 | 渡部昌久 | 社会教育課長補佐 | 山口光幸 |
| | 文化係長 | 吉野一郎 | 主 任 | 井上紗智子 |
| | 主 事 | 角田朋行 | | |

| | | | | |
|-------|--------|------|----------|-------|
| 平成4年度 | 社会教育課長 | 菅利夫 | 社会教育課長補佐 | 山口光幸 |
| | 文化係長 | 吉野一郎 | 主 事 | 高田美佐子 |
| | 主 事 | 角田朋行 | | |

| | | | | |
|--------|----------|--------------|----------|--------------|
| 平成10年度 | 社会教育課長 | 高橋与一 | 社会教育課長補佐 | 須藤房雄（社会教育担当） |
| | 社会教育課長補佐 | 羽山正一（社会体育担当） | | |

| | | | | |
|--|-------|------|-----|------|
| | 文化財係長 | 吉野一郎 | 主 任 | 高橋正恵 |
|--|-------|------|-----|------|

| | | | | |
|--------|--------|------|----------|------|
| 平成12年度 | 社会教育課長 | 土屋幸一 | 社会教育課長補佐 | 須藤房雄 |
| | 文化財係長 | 吉野一郎 | 主 事 | 戸田賢司 |

報告書作成担当者

| | | | | |
|--------|------------|------|------------|--------------------------|
| 平成24年度 | スポーツ文化課長 | 江口和浩 | スポーツ文化課長補佐 | 熊坂正規 |
| | 埋蔵文化財調査推進係 | 鈴木義三 | 嘱 託 | 吉田江美子、山田 諦 岩瀬順子、佐藤加奈子 |

調査指導 山形県教育委員会文化財課 佐藤巖雄

調査協力 南陽市学校教育課

南陽市都市整備課

凡　例

1 本書の執筆は熊坂正規（第Ⅰ章）、佐藤龍雄（第Ⅱ章）、山田渚（第Ⅲ章、第Ⅳ章）吉田江美子（第Ⅲ章第3節（2）、第Ⅲ章第4節「方形周溝墓」の項目、第Ⅳ章第3節（2））が担当した。

2 遺構図に付す高さは海拔高で表す。方位は磁北を示す。

3 本書で使用した遺構の分類記号は下記のとおりである。

| | | |
|---------|----------|-------------|
| SD・・・溝跡 | SK・・・土坑 | SX・・・性格不明遺構 |
| SH・・・墓抗 | SP・・・ピット | |

4 遺構実測図及び遺物実測図の縮尺は各図に示し、各々スケールを付した。

5 写真図版は任意の縮尺で採録した。

6 基本層序および遺構覆土の色調記載については、1997年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色帖」によった。

7 発掘調査及び本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。（敬称略）

佐藤龍雄 佐藤庄一 大塚初重 藤沼邦彦 秦昭繁 黒坂雅人 角田朋行 烏貫幹子

また、菅原哲文氏からは縄文土器の分類をご教示いただいた。白井久美子氏からは鉄製品についての解説を寄稿していただき、永嶋正春氏からは鉄製品のX線写真を撮影していただいた。

8 委託業務は下記のとおりである。

①長岡山遺跡

基準杭設置業務 株式会社マエダ（平成4年度・10年度・12年度）

4次調査 航空写真遺構測量業務 株式会社バスコ

鉄製品保存処理 株式会社バスコ

遺物実測 株式会社バスコ

②長岡山東遺跡

基準杭設置業務 株式会社マエダ

目 次

| | | | |
|-------------|----|------------------|----|
| I 調査の経緯 | 1 | 3 出土遺物 | 53 |
| 1 長岡山遺跡 | 1 | 4まとめ | 59 |
| 2 長岡山東遺跡 | 3 | IV 長岡山東遺跡 | 70 |
| II 遺跡の立地と環境 | 4 | 1 遺跡の概要 | 70 |
| 1 地理的景観 | 4 | 2 検出遺構 | 77 |
| 2 歴史的景観 | 5 | 3 出土遺物 | 85 |
| III 長岡山遺跡 | 8 | 4まとめ | 88 |
| 1 遺跡の概要 | 8 | 付編 南陽市長岡山遺跡出土鉄製品 | |
| 2 検出遺構 | 35 | 報告書抄録 | |

表

| | | | |
|-----------------------|----|-------------------------|----|
| 表1 長岡山周辺の遺跡 | 6 | 表7 長岡山遺跡 石製品観察表 | 66 |
| 表2 長岡山遺跡 縄文土器分類表 | 54 | 表8 長岡山東遺跡 縄文土器分類表 | 71 |
| 表3 長岡山遺跡 縄文土器観察表 | 61 | 表9 長岡山東遺跡 縄文土器観察表 | 90 |
| 表4 長岡山遺跡 土器(古墳・古代)観察表 | 65 | 表10 長岡山東遺跡 土器(古墳・古代)観察表 | 91 |
| 表5 長岡山遺跡 土製品観察表 | 65 | 表11 長岡山東遺跡 土製品観察表 | 92 |
| 表6 長岡山遺跡 鉄製品観察表 | 65 | 表12 長岡山東遺跡 石製品観察表 | 92 |

図 版

| | | | |
|-----------------------------------|----|-------------------------------------|----|
| 第1図 長岡山周辺の遺跡位置図 | 7 | 第10図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ図(2) | 17 |
| 第2図 長岡山遺跡 調査区 | 9 | 第11図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ図(3) | 18 |
| 第3図 長岡山遺跡 試掘調査 トレンチ位置図 | 10 | 第12図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ図(4) | 19 |
| 第4図 長岡山遺跡 試掘調査 テストピット・トレンチ図(1) | 11 | 第13図 長岡山遺跡 第2次調査 トレンチ位置図 | 20 |
| 第5図 長岡山遺跡 試掘調査 テストピット・トレンチ図(2) | 12 | 第14図 長岡山遺跡 第2次調査 トレンチ図(1) | 21 |
| 第6図 長岡山遺跡 試掘調査 テストピット・トレンチ図(3) | 13 | 第15図 長岡山遺跡 第2次調査 トレンチ図(2) | 22 |
| 第7図 長岡山遺跡 試掘調査 テストピット・トレンチ図(4) | 14 | 第16図 長岡山遺跡 第2次調査 No.46 精査区 遺構配置図 | 23 |
| 第8図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ位置図 | 15 | 第17図 長岡山遺跡 第2次調査 No.46 精査区 遺構配置図 | 24 |
| 第9図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ図(1) | 16 | 第18図 長岡山遺跡 第2次調査 No.46 精査区 SH 53 | 25 |
| | | 第19図 長岡山遺跡 第3・4次調査区 位置図 | 26 |

| | | | |
|---------------------------------------|----|---|----|
| 第 20 図 長岡山遺跡 第 3 次調査 トレンチ図 | 27 | 第 42 図 長岡山遺跡 出土遺物 (15) | 51 |
| 第 21 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 遺構配置図 | 28 | 第 43 図 長岡山遺跡 出土遺物 (16) | 52 |
| 第 22 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 SD1 平面図 | 29 | 第 44 図 長岡山遺跡 出土遺物 (17) | 53 |
| 第 23 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 SD1 遺構断面図 (1) | 30 | 第 45 図 長岡山遺跡 | 60 |
| 第 24 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 SD1 遺構断面図 (2) | 31 | 第 46 図 長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場用地内 調査区位置図 | 67 |
| 第 25 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 SD2 平面図・断面図 | 32 | 第 47 図 長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場用地内 遺構配置図 | 67 |
| 第 26 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 SP 遺構断面図 | 33 | 第 48 図 長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場用地内 土層断面図 | 68 |
| 第 27 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 SX1 平面図・断面図 | 34 | 第 49 図 長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場用地内 土層断面図・遺構平面図 | 69 |
| 第 28 図 長岡山遺跡 出土遺物 (1) | 37 | 第 50 図 長岡山東遺跡・長岡山東遺跡 遺跡範囲図 (調査当時) | 70 |
| 第 29 図 長岡山遺跡 出土遺物 (2) | 38 | 第 51 国 長岡山東遺跡 調査区 位置図 | 71 |
| 第 30 国 長岡山遺跡 出土遺物 (3) | 49 | 第 52 国 長岡山東遺跡 テストピット柱状図 | 72 |
| 第 31 国 長岡山遺跡 出土遺物 (4) | 40 | 第 53 国 長岡山東遺跡 南区 遺構配置図 | 73 |
| 第 32 国 長岡山遺跡 出土遺物 (5) | 41 | 第 54 国 長岡山東遺跡 南区 遺構断面図 (1) | 73 |
| 第 33 国 長岡山遺跡 出土遺物 (6) | 42 | 第 55 国 長岡山東遺跡 南区 遺構断面図 (2) | 74 |
| 第 34 国 長岡山遺跡 出土遺物 (7) | 43 | 第 56 国 長岡山東遺跡 南区 遺構断面図 (3) | 75 |
| 第 35 国 長岡山遺跡 出土遺物 (8) | 44 | 第 57 国 長岡山東遺跡 北区 遺構図 | 76 |
| 第 36 国 長岡山遺跡 出土遺物 (9) | 45 | 第 58 国 長岡山東遺跡 出土遺物 (1) | 78 |
| 第 37 国 長岡山遺跡 出土遺物 (10) | 46 | 第 59 国 長岡山東遺跡 出土遺物 (2) | 79 |
| 第 38 国 長岡山遺跡 出土遺物 (11) | 47 | 第 60 国 長岡山東遺跡 出土遺物 (3) | 80 |
| 第 39 国 長岡山遺跡 出土遺物 (12) | 48 | 第 61 国 長岡山東遺跡 出土遺物 (4) | 81 |
| 第 40 国 長岡山遺跡 出土遺物 (13) | 49 | 第 62 国 長岡山東遺跡 出土遺物 (5) | 82 |
| 第 41 国 長岡山遺跡 出土遺物 (14) | 50 | 第 63 国 長岡山東遺跡 出土遺物 (6) | 83 |
| | | 第 64 国 長岡山東遺跡 出土遺物 (7) | 84 |

写真図版

| | | | |
|--------------|-----------------|--------------|--------------------------|
| 巻頭写真 1 | 長岡山遺跡 第 4 次調査全景 | 写真図版 18 ~ 51 | 長岡山遺跡出土 繩文土器 (1) ~ (34) |
| 巻頭写真 2 | 長岡山遺跡出土 繩文土器 | 写真図版 52 | 長岡山遺跡出土 士器・須恵器 |
| 写真図版 1 ~ 2 | 長岡山遺跡 試掘調査 | 写真図版 53 ~ 54 | 長岡山遺跡出土 士偶・土製品 |
| 写真図版 3 ~ 5 | 長岡山遺跡 第 1 次調査 | 写真図版 55 ~ 62 | 長岡山遺跡出土 石器 (1) ~ (7)・石製品 |
| 写真図版 6 ~ 11 | 長岡山遺跡 第 2 次調査 | 写真図版 63 | 長岡山遺跡出土 鉄製品 |
| 写真図版 11 | 長岡山遺跡 第 3 次調査 | 写真図版 63 | 長岡山遺跡 4 次調査 SX1 出土遺物 |
| 写真図版 12 ~ 13 | 長岡山遺跡 第 4 次調査 | 写真図版 64 ~ 69 | 長岡山東遺跡出土 繩文土器 (1) ~ (6) |
| 写真図版 14 | 長岡山遺跡 | 写真図版 70 ~ 74 | 長岡山東遺跡出土 士器・須恵器 |
| | 稲荷森古墳駐車場予定地内調査 | 写真図版 75 | 長岡山東遺跡出土 士偶・土製品 |
| 写真図版 15 ~ 17 | 長岡山東遺跡 南区調査 | 写真図版 76 ~ 79 | 長岡山東遺跡出土 石器 (1) ~ (4) |
| 写真図版 17 | 長岡山東遺跡 北区調査 | | |

I 調査の経緯

1 長岡山遺跡

(1) 調査に至る経過

長岡山遺跡が立地する長岡山一帯は、縄文時代や古墳時代を中心とした大規模な「周知の遺跡」として知られていた。当時この場所は山形県立赤湯園芸高校の敷地となっており、同校舎造成時にはたくさんの遺物が出土した記録が南陽市史に残されている。

平成2～3年度の同校舎解体に伴い、平成3年度に県による「埋蔵文化財立会調査（試掘調査）」が実施され、2カ所で遺構・遺物が検出されている。

高校跡地利用について議論されるなか、平成4年度、将来の小学校設置候補地として、「遺跡の残存範囲概要確認」の目的で、山形県有地全域について、比較的粗い配置の試掘穴による試掘調査を実施した。

その結果、全体で4カ所の遺跡残存範囲が確認された。これは、主として校舎造成工事で削られなかった部分であり、もともとは長岡山全域が遺跡であったと推定される。

残存範囲4カ所の内、最も南の「稲荷森古墳の東隣接地区」は、当古墳築造に係る部分で、本来ならば「国指定史跡の範囲に含まれるべき場所」である（稲荷森古墳が国指定史跡となった昭和55年当時は、校舎等で試掘調査ができなかった）。これ以外の3地区は、記録保存の発掘調査により工事可能との結論が出された。

平成9年に市立赤湯小学校改築計画が確定したことにより、遺跡の保護と開発計画との調整について関係課が協議の結果、遺跡残存地区以外に建物配置計画を策定すれば、記録保存としての発掘調査が不要となることから、遺跡残存範囲を更に確認する調査を平成10年度に実施することとなった。

上記の県と市の調査結果を踏まえ、建物建設予定地の北半にある2地区について、調査範囲を更に明確にする目的で、平成10年5月より第1次調査を実施した。

第1次調査の結果、西部と南東部で概ね推定通りに遺

跡残存範囲が確認でき、当初の目的を果たした。これら北側2地区の残存遺跡は縄文時代を中心とする通常のものであり、仮にこれらに学校校舎配置が計画されても、記録保存の発掘調査終了後は工事が可能であった。しかし、一部から「古墳の主体部」と思しき遺構が検出され、県教育委員会に指導を仰いだところ、古墳やその主体部が1基だけではなくもっと存在している可能性もあることから、更に広い範囲の調査が必要であるとの指導を受けた。

このため、同年9月から第2次調査を行ったが、主体部は検出されなかった。その他にはコの字もしくはロの字型の溝が4基と、幅6m程の大溝が1基検出された。平成12年度に行われた第3次、第4次調査は、この大溝を対象とした調査である。

なお、主体部周辺の地区は、保存地区として保護・活用する場所とされた。

(2) 調査の概要

調査は事業地区内58,000m²を対象として実施された。試掘調査は平成4年8月21日から9月4日まで、のべ11日間。第1次確認調査を平成10年5月11日から6月9日までのべ13日間、第2次確認調査を同年9月17日から10月16日及び10月21日から23日までのべ19日間、第3次調査を平成12年5月25日から6月1日まで、のべ6日間。第4次調査を同年11月1日から12月8日までのべ30日間実施した。以下に調査の経過を略記する。

試掘調査

8月21日 TP杭の設置とグリッド杭の確認作業。

8月24日 重機による表土剥離。TP掘下げ。

8月25日～9月3日 TP掘下げ、終了したものから記録。

9月2日～4日 TT設定および振り下げ、終了したものから記録。

9月4日 撤収作業

第1次調査

- 5月11日～12日 基準杭の確認とトレーンチ位置設定。
- 5月13日～15日 重機によるトレーンチの表土剥離。終わったものから手掘り。
- 5月18日～25日 トレーンチ掘下げ。終わったものから記録作業
- 5月26日 トレーンチNo.12にサブトレーンチを入れ掘下げ。残りのトレーンチは埋戻し。
- 6月1日 県教育委員会の現地指導。
- 6月9日 埋戻し完了。

第2次調査

- 9月17日 トレーンチ位置設定。
- 9月18日 トレーンチ位置の線引き。中央精査区の設定。
- 9月21日 重機による表土剥離。
- 9月22日 重機による表土剥離。終了したトレーンチから面整理と記録作業。
- 9月24日 トレーンチの面整理と記録作業。
- 9月25日 館堀確認のためトレーンチを増設。重機による表土剥離。
- 9月26日 重機による表土剥離と、記録が完了した一部のトレーンチの埋戻し作業。
- 9月29日 重機による表土剥離。終了したトレーンチから掘下げと面整理、記録作業。
- 9月30日 重機による表土剥離。
- 10月2日 中央精査区の重機による表土剥離、後人力で掘下げ。トレーンチの掘下げ。
- 10月5日～13日 トレーンチの面整理、記録作業。中央区の掘下げ、面整理、記録作業。
- 10月21日～23日 SD5に試掘溝を設ける。掘下げの後記録作業。

第3次調査

- 5月25日 重機による表土剥離。
- 5月26日 トレーンチ設定。
- 5月29日 重機によるトレーンチの掘下げ。

5月30日 トレーンチ壁削りと記録作業。

5月31日 トレーンチ壁の記録作業。撤収

6月1日 埋戻し。

第4次調査

- 11月1日 基準杭による発掘調査区の設定作業。
- 11月2日 重機による表土剥離作業。
- 11月3日 調査区の排水作業。重機による表土剥離。
- 11月4日 排水用の溝掘り。重機による表土剥離。
- 11月6日～9日 北区の面整理。重機による表土剥離。
- 11月10日 南区の溝にベルト設定、掘下げ。遺構確認状況写真撮影。
- 11月11日～13日 北区重機による表土剥離。南区ベルト掘下げ。
- 11月14日 北区の面整理。南区ベルト掘下げ、記録作業。
- 11月15日 北区面整理と記録作業。南区手掘りと重機による表土剥離。
- 11月16日～22日 SD1・2の記録作業後、重機によるベルト除去。
- 11月22日 SX1掘下げ。
- 11月23日～28日 SD1・2のベルト外しと面かき、記録作業。SX1掘下げ。
- 11月29日 SD1内P1～4掘下げと記録。
- 11月30日 遺構に白線でマーキングを行う。
- 12月1日～4日 空撮に向けて遺構の削除とマーキング。プレハブ西側斜面の重機による表土剥離。
- 12月5日 プレハブ西側斜面の遺物掘り。SDの写真撮影。
- 12月6日～8日 プレハブ西側斜面の遺物掘り。
- 12月8日 午後から撤収作業。

2 長岡山東遺跡

(1) 調査に至る経過

長岡山東遺跡は、南陽市赤湯地区南部の長岡地区にあり、通称長岡山の東側から南側にかけて長岡字西田中及び西田中南に所在し宅地及び畑である。

市道稻荷森古墳線の整備工事にともない、試掘調査を実施し、主に北側から遺物が出土した。これを踏まえて精査区を設定し、本調査を実施した。

(2) 調査の概要

調査は事業地区内 1700 m²を対象として実施された。試掘調査は平成3年5月16日から20日まで、のべ4日間行われ、本調査は平成3年6月13日から7月16日ののべ20日間実施した。以下に調査の経過を略記する。

試掘調査

- 5月16日 地表面踏査を行い、試掘穴の位置を設定した。順次試掘・記録を行い、TP1・2・4・6・7・8の記録が完了。
- 5月17日 TP3・5・9・10の記録完了。
- 5月18日 TP11を掘り下げ、TT1をTP3の南側に設定し掘下げを行う。TP12の記録完了。
- 5月20日 TT1、TP11の記録完了。撤収作業。

本調査

- 6月13日 資材運搬と調査範囲にテープを張る作業を行う。
- 6月14日 南区の重機による表土剥離作業。
- 6月18日 試掘時のTPを掘り起し、荒掘りを開始。
- 6月19日 荒掘り及び面整理作業。調査区四方の壁切作業。
- 6月21日 荒掘り続行。土層確認のため擾乱部を掘り下げる。
- 6月24日 荒掘りと面かき作業。SX1・2について、半裁掘下げ。文化財保護審議会の視察あり。
- 6月25日 面かき作業SX1・2の掘下げ、記録完了。

- 6月26日 面かき作業SX3・4の掘下げ、記録完了。
- 6月27日 面かき作業 焼土の記録作業。
- 6月28日 SD1にベルトを設定し掘下げ。
- 7月1日 調査区東壁、北壁記録作業。柱穴ナンバーリング。SD1記録完了。
- 7月3日 SX5、SK1～4掘下げと記録。北区荒掘り開始。
- 7月4日 SX5、SK1・3・4、調査区西壁、南壁記録作業。北区荒掘り。
- 7月5日 SX5記録作業。
- 7月9日 SX5ベルト外し。南区平面図作成。北区壁切、面かき作業。
- 7月11日 南区平面図作成、地山掘下げ。北区水抜き作業。
- 7月15日 写真撮影のため面かき作業。北区壁記録作業。
- 7月16日 道具整理、図面整理。

註)

TP・・・テストピット（試掘坪塙穴）

TT・・・テストトレーナー（試掘溝）

II 遺跡の立地と環境

1 地理的景観

南陽市の地理的景観を簡単に表現すると「北に丘陵、南に沃野」と言える。北の丘陵とは、山形県南部の置賜地方の米沢盆地周辺域の北部を限る白鷹山（標高994m）の南に広がる白鷹山系丘陵をさす。白鷹山は新生代第四紀の火山である。白鷹火山の活動の噴出物を主体とする丘陵が周囲に広がるが、その南部丘陵が南陽市域の北部丘陵である。

白鷹山の麓に源を発する吉野川は、ほぼまっすぐ南流し、上流域の吉野地区、上中流域の金山地区を貫流して宮内地区に至る。宮内地区で山間を抜け出て広大な扇状地を形成する。扇頂部から扇尖部が宮内地区、扇尖部から扇端部が沖郷地区である。その東隣の赤湯地区にある。

位置的には、赤湯地区南部の長岡で、西隣は沖郷地区郡山及び中ノ目である。JR奥羽本線赤湯駅から奥羽本線は東北に進み、東進して赤湯地区北部山麓を大きく廻り山形方面に路線を伸ばす。また、赤湯駅から北進して宮内に至り、さらに西進するフラーー長井線が路線を伸ばしている。長岡はこうした鉄道から大きく離れて、JR赤湯駅の東南1.4kmほどのところにある。

ところで、吉野川の扇状地は宮内地区西部を南流する上無川、宮内地区西隣の漆山地区を南流する織機川の冲積作用をも複合した合成扇状地である。この扇状地を「宮内扇状地」と呼称している。

宮内扇状地を形成した主力は吉野川であるが、吉野川はかつて宮内東部からまっすぐ南下して沖郷地区内を流れていた。しかし、現在は沖郷地区北部で流路を東南に変えて赤湯地区へ流れる。赤湯地区西部の三間通、二色根、樋塚を経て、大谷地境で流路を西に変えて姐柳・大橋を通り、鍋田の南で最上川に合流する。沖郷地区内を流れたかつての本流と赤湯方面を迂回する現在の本流は中世まで存在したが、梅雨時や豪雨時期を除いた平时の水量はさほどでなく、近世になって現在の本流一本になった。

このような吉野川の流れは、約1100万年前頃の火山性陥没地形と関係する。この陥没地形はいわばカルデラで、宮内地区的東南から沖郷地区的東半分がカルデラ内部とみられる。そのため最初は、低い沖郷地区的東側へ吉野川に流れ込んだのである。そのための堆積作用は10万年ほど前の氷河期から後氷期の1万年前頃まで続いた。しかし堆積層が厚くなるにつれ、カルデラの中心がある赤湯地区南部により多く流れるようになったのである。このカルデラの遺存したところの低湿地が大谷地である。吉野川の東南に流れた先の大谷地には東から屋代川も流れ込み、東南から押され流路を西へ変えたのである。米沢盆地で一番低い陥没地形に流れ込んだものの、平時の水量が少ないとめき止められたような状況になったが、堆積した土砂を超える梅雨時や豪雨時の水量を吉野川も屋代川も西へ排水したので、このような流路ができたものとみられる。

赤湯地区的長岡は、東南に流れる吉野川の南にあり、その作用を受けて、その多くが沖積地である。しかし、陥没地形ができた時に陥没しなかったのが長岡山の基盤である。そのため、上部に洪積層が残り、南北に長い長岡山が洪積台地として存在する。したがって、山上は洪積層、周辺は沖積層という特異な立地状況が生まれたのである。

このような地層の背景には、吉野川が南下した地形と東南に流れを変えた地形の接点にあたる宮内地区開口と長岡山を結んだラインに沿うように傾斜変換線が何条にもみられる。そのラインから赤湯地区にカーブしながら蛇行して現在の流路に至ったのである。

この吉野川の沖積作用は1万年前頃には全程落ち着いてきたものの、人が居住できる環境ができるにはさらに数千年近く時をようしたようで、5800年前といわれる押出遺跡の集落立地基盤層ができたのが早い方で、吉野川流域では5000年前頃の縄文時代中期初頭以降の遺跡が立地する。

このような扇状地の状況とは別に洪積台地の長岡山ではもっと古い時期からの人類の痕跡がみられる。

2 歴史的景観

(1) 繩文時代

南陽市で最古とみられる遺跡が長岡山遺跡で、旧石器時代後期とみられるナイフ型石器が発見されている。さらに縄文時代草創期とみられるエンドスクレイバーも採集されている。

縄文時代草創期の遺跡は、大谷地を挟んだ対岸の高畠町日向洞窟、一ノ沢岩陰、火箱岩洞窟、大立洞窟などの遺跡で発見されているが、赤湯地区松沢遺跡や北町遺跡でも確認され、大谷地縁辺に最初の縄文人の活動が展開したことは間違いない。

さらに北町遺跡から近い赤湯地区月ノ木B遺跡や漆山地区でも山間部の大野平遺跡などでも早期の遺跡が確認されている。

いずれも長岡山遺跡からは遠いが、赤湯地区的東部と漆山地区織機川流域の西部に早期以降の古い時期の遺跡が発見されている。吉野川上流部のほの木平遺跡でも前期の石器が発見されているが、吉野川中流域・下流域では中期以降の遺跡しか確認されていない。

中期以降になると宮内扁状地吉野川流域を含めて北部丘陵地域でも縄文遺跡が数多く分布する。

(2) 弥生時代

赤湯地域の上野山山頂遺跡・月ノ木B遺跡、宮内扁状地沖郷地区の沢田・百刈田・萩生田の各遺跡、漆山地区的矢ノ目庚塙遺跡、梨郷地区的掛在家遺跡で、中期から後期の遺跡が確認されている。ただし、後期の遺跡といっても天王山式期までで、その後の弥生遺跡は確認されていない。

(3) 古墳時代

前期4世紀の前半に属する蒲生田山古墳群4号墳・3号墳をはじめそれに続く後半の稻荷森古墳や天王山古墳群、大塚古墳・方形周溝墓群など前期の遺跡は大変多い。長岡山遺跡や長岡南森遺跡も前期の遺跡である。

中期になっても宮内扁状地には、沖郷地区的沢田遺跡や百刈田遺跡・植木場一遺跡などが見られ、梨郷地区的経塚山の周辺4山頂から南斜面にかけて中期後半から後期にかけての古墳群が分布する。また、梨郷地区的清

水ノ下遺跡など後期の集落遺跡も発見されている。

さらに異質な古墳群ではあるが、合掌型箱式石棺の積石塚の松沢古墳も後期の古墳である。

(4) 飛鳥・奈良・平安時代

7世紀末から9世紀にかけて宮内扁状地やその北東部山麓周辺に集落遺跡や古墳群が多く分布する。集落遺跡は沢田遺跡など沖郷地区郡山周辺に濃密に分布し、古代置賜郡衙の所在をうかがわせる。そこから2kmほど北東部の沖郷地区蒲生田と赤湯地区北西部にまたがる山間地には二色根古墳群はじめ数多くの終末期古墳群が分布する。また、宮内扁状地には古代条里制が施行され、要所々々に8世紀から10世紀にかけての集落遺跡が分布する。長岡山や稻荷森古墳にも平安時代の須恵器が分布する。

(5) 鎌倉・室町時代

室町時代の置賜は伊達氏の支配下にあり、北条荘といわれた南陽市域には数多くの集落が営まれ、城館が築かれた。宮内扁状地の一角を占める長岡周辺でも郡山の矢野目館、俎柳の内城館・鶴の木館が確認されており、長岡山にも城館が築かれたと伝えられている。稻荷森古墳に中世の墓地がつくられ、墓坑も検出されている。また、墳丘の1段目に大きな五輪塔が立てられていた。

(6) 江戸時代

米沢城下から北上して赤湯を経て山形にいたる街道が整備されたが、宿駅の大橋から赤湯にいたる道筋に長岡があり、長岡と柄塚境には一里塙があった。長岡丘陵の南端・南森はキリストン処刑場にされたが、後に神社が祀られている、また、長岡山や稻荷森古墳にも雲南稻荷神社などの神社が祀られている。

(7) 近現代

昭和17年、昭和2年創立の赤湯実業公民学校が赤湯小学校敷地から長岡山に移転し、昭和23年に山形県立赤湯園芸高等学校となる。昭和17年の新校舎建築にあたり出土した多くの出土遺物が風也塾(現結城豊太郎記念館)に収蔵された。昭和23年の高校校舎建築の際の出土遺物も風也塾に寄りの赤湯公民館に集められて

る。

長岡山は、赤湯実業公民学校・赤湯園芸高等学校の建築以前に長岡館造りに際し削平されたが、さらに上記両校の建築にも削平されるという、繰り返しての遺跡破壊が行われた。そのうえ、赤湯園芸高等学校時代に実習用

畑の造成が行われ、また長岡墓地の造成もあり、長岡山の大半が古墳時代までの現況を失ったものとみられる。

参考文献

- 菅井敬一郎 1990 「第Ⅰ章南陽市のおいたち」『南陽市史上巻』南陽市
 柏倉亮吉 1961 「東北地方の条里制」『古代文化Ⅶ-4』古代学協会
 佐藤耕雄 1987 『南陽市史考古資料編』南陽市
 佐藤耕雄・佐藤庄一 1990 『南陽市史上巻』南陽市
 角田明行 2001 「南陽市域の条里制及び古墳等について」『山形県地域史研究 26号』
 川崎利夫編 2004 『出羽の古墳時代』
 佐藤耕雄 2010 「出羽国ができるころ」山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
 佐藤耕雄 2011 「やまがたの古墳時代」山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
 佐藤耕雄 2012 『平安初頭の南出羽考古学』山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
 中沢 実 1992 「第五章 学校教育のあゆみ」『南陽市史下巻』南陽市

表 1 長岡山周辺の遺跡

| 番号 | 道路名 | 種別 | 時代 | 番号 | 道路名 | 種別 | 時代 |
|----|---------|---------|------------------|----|-------|---------|----------------|
| 1 | 長岡山 | 集落跡 | 旧石器・縄文・古墳・奈良・平安 | 41 | 西中上 | 散布地 | 平安 |
| 2 | 長岡山東 | 散布地 | 旧石器・縄文・古墳・奈良・平安 | 42 | 将監屋敷 | 散居地 | 奈良・平安 |
| 3 | 馬場 | 馬場 | 中世 | 43 | 上河原 | 散布地 | 平安 |
| 4 | 久松崎 | 集落跡 | 縄文 | 44 | 鳥貫 | 集落跡 | 奈良・平安 |
| 5 | 源兵工山 | 散布地 | 縄文・古墳 | 45 | 沢田 | 集落跡 | 奈良・古墳・奈良・平安・中世 |
| 6 | 内源三 | 散居地・古墳群 | 古墳（終末期） | 46 | 郡山中腹 | 散布地 | 奈良・平安 |
| 7 | 山田原山C | 散布地 | 平安 | 47 | 西原東 | 集落跡 | 奈良・平安 |
| 8 | 蒲生田山古墳群 | 古墳群 | 古墳（終末期） | 48 | 沢江 | 集落跡 | 奈良・平安 |
| 9 | 山田原山A | 散布地 | 平安 | 49 | 前畑 | 散布地 | 平安 |
| 10 | 山田原山D | 包蔵地 | 平安 | 50 | 間々ノ上 | 散布地 | 奈良 |
| 11 | 山田原山B | 散居地 | 平安・古墳 | 51 | 矢ノ目館 | 集落跡・城館跡 | 奈良・平安・中世 |
| 12 | 蒲生田館 | 館 | 中世 | 52 | 東六角 | 散布地 | 縄文（中期）・平安 |
| 13 | 蒲生田館南 | 散布地 | 縄文・奈良・平安 | 53 | 早稲田 | 散布地 | 奈良 |
| 14 | 当時作 | 散布地 | 縄文・奈良・平安 | 54 | 李の木 | 包蔵地 | 縄文・平安 |
| 15 | 鶴堂 | 散布地 | 縄文・平安 | 55 | 鶴塚館 | 城館 | 中世 |
| 16 | 上野道跡 | 集落跡 | 縄文・平安・中近世 | 56 | 鶴塚館ノ山 | 集落跡・城館跡 | 縄文（後期）・中世 |
| 17 | 齊山古墳群 | 古墳群 | 弥生・古墳（終末期） | 57 | 百引田 | 集落跡 | 縄文・弥生・古墳・奈良・平安 |
| 18 | 上野山古墳群 | 散布地・古墳群 | 弥生・古墳（終末期） | 58 | 前小屋 | 散布地 | 縄文 |
| 19 | 若狭郷屋敷 | 館 | 中世 | 59 | 長岡館 | 館 | 中世 |
| 20 | 中屋敷 | 散布地 | 奈良・平安 | 60 | 稲荷森古墳 | 散布地・古墳 | 旧石器・縄文・古墳・平安 |
| 21 | 唐越 | 散布地 | 縄文（中期）・奈良・平安 | 61 | 長岡西田 | 散布地 | 縄文 |
| 22 | 東唐越館 | 館跡 | 中世 | 62 | 長岡南森 | 散布地 | 縄文・古墳・平安 |
| 23 | 横沢 | 散布地 | 縄文（中・後期）・奈良 | 63 | 太子堂 | 散布地 | 平安 |
| 24 | 二色古墳群 | 古墳群 | 古墳（終末期） | 64 | 寺田 | 包蔵地 | 古墳 |
| 25 | 二色根館 | 城館跡 | 中世 | 65 | 大屋敷 | 散居地 | 平安 |
| 26 | 中野山館 | 館 | 中世 | 66 | 南屋敷館 | 城館跡 | 中世 |
| 27 | 夷平 | 散布地 | 縄文（陶期）・中世 | 67 | 馬ノ森 | 散布地・古墳 | 古墳・奈良・平安 |
| 28 | 北町 | 散布地 | 縄文（前期） | 68 | 鶴内城館 | 館 | 中世 |
| 29 | 福荷前 | 散布地 | 縄文（前期） | 69 | 鶴内田 | 散布地 | 平安 |
| 30 | 西田 | 散布地 | 平安 | 70 | 窪田尻 | 散布地 | 平安 |
| 31 | 萩生田 | 集落跡・散布地 | 弥生・奈良 | 71 | 中野日下 | 散布地 | 奈良・平安 |
| 32 | 諫訪前 | 散布地 | 縄文（中期）・古墳（前期）・平安 | 72 | 鶴ノ木館跡 | 集落跡・城館跡 | 古墳・平安・中近世 |
| 33 | 上野山館 | 館 | 中世 | 73 | 内城館 | 館 | 中世 |
| 34 | 鳥帽子山古墳 | 古墳 | 古墳（終末期） | 74 | 熊の前館 | 館 | 中世 |
| 35 | 鳥帽子山経塚 | 経塚 | 平安 | 75 | 水上 | 散布地 | 奈良・平安 |
| 36 | 上ノ山 | 散布地 | 縄文 | 76 | 東畠 A | 散布地 | 平安 |
| 37 | 梅ノ木 | 散布地 | 奈良・平安 | 77 | 東畠 B | 散布地 | 平安 |
| 38 | 井戸尾 | 散布地 | 奈良・平安 | 78 | 鶴柳館 | 城館 | 中世 |
| 39 | 大塚 | 集落跡・散布地 | 縄文・古墳・奈良・平安 | 79 | 大槻城 | 城館 | 中世 |
| 40 | 古屋敷 | 散布地 | 平安 | 80 | 御跡跡 | 館 | 中世 |



第1図 長岡山周辺の遺跡位置図(国土地理院発行2万5千分の1地形図「赤湯」使用)

III 長岡山遺跡

1 遺跡の概要

長岡山遺跡は、南陽市の東南に位置する赤湯地区の中央部南寄りに位置している。遺跡の立地する長岡丘陵は、標高 220 m ほどの洪積台地で、遺跡の発見は古く昭和初期には既に知られていたが、本格的な調査はなされていなかった。過去に表採された遺物は、旧石器時代後期のナイフ形石器や尖頭器、石歯や磨製石斧などの縄文時代の石器、縄文時代中期の土器、古墳時代の土師器、古代の土師器・須恵器などである。このことから、遺跡周辺では旧石器時代から長期間にわたって人々が生活していたことが分かっている。

長岡山丘陵は、

- ①古墳等の築造による「古墳時代」の部分的改变
- ②齋跡築造による「中世」の中規模改变
- ③昭和 17 年の赤湯実業公民学校（後の赤湯園芸高校）校舎建築による大規模改变
- ④平成 2 年の赤湯園芸高校統廃合に伴う盛り土（整地）による全面的改变

と、大きく分けて 4 度の改变が行われている。これら の改变により遺跡の上部は削られてしまったため、残存しているのは丘陵の裾部分と窪地である。また、丘陵を削平する際に、平地を増やすために土を東西の斜面に押し出しており、そのため東西両端部は相当の盛土がなされている。丘陵の南側は標高が高かったことから、相対的に深い削削がなされているため、南側は遺構・遺物ともほとんど失われている状態である。赤湯園芸高校の果樹園として南側を造成した際には、地山の表面近いところに竪穴式住居の平面形とおもわれる落ち込みが多数発見されている。

丘陵の南西には国指定史跡「稻荷森古墳」が存在する。稻荷森古墳は全長 96 m、高さ 9.6 m の三段築成の前方後円墳で、4 世紀後半の古墳である。この古墳は、長岡山丘陵を古墳の後円部の東隣一帯で切断し、あわせて周囲の丘陵を削り出してから盛り土して古墳の形に仕上げたものである。また、古墳の築段の下から 2 段目

までは、当時の長岡山丘陵をそのまま利用している。さらに丘陵の西には郡衙推定地の郡山地区が隣接し、これららの遺跡との関係性も窺わせる。

今回の調査対象範囲は主に旧赤湯園芸高校の敷地であった 58,000 m² で、まずは試掘調査として 1 m 四方のテストピット 26 カ所と、1 m × 6 m のテストトレチ 2 カ所を入れた。

試掘調査の結果、遺構残存範囲は大きく 4 つに分けられた（主として造成工事で削られなかった部分）が、その後の調査対象となったのは、市立赤湯小学校改築整備事業の対象範囲に含まれる北側の 2 地区である。

第 1 次調査では、大きく丘陵の南部、西部、北部に分けてテストトレチを入れた。その結果、南部からは遺構らしきものはほとんど検出されず、遺物は西側斜面付近からはある程度の数が出たものの、削平された部分からはほとんど検出されなかった。対して遺跡の北部では複数の溝が検出され、北西部の斜面付近からは多くの遺物が出土した。

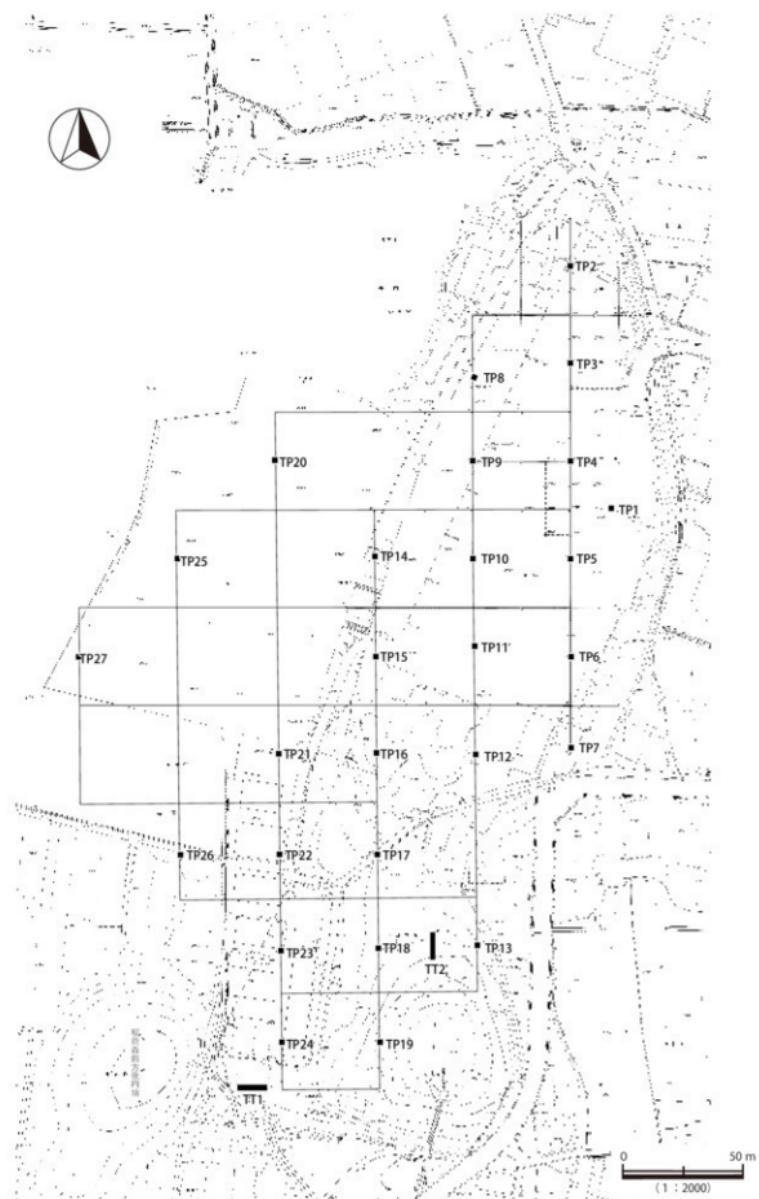
第 2 次調査では遺跡の北側全体に 4 m 間隔で 1.5 m のトレチを 12 本入れ、その他確認用のトレチを 10 本入れた。また、古墳の主体部らしき溝が見つかった中央部は、700 m² の範囲の全面剥離を行った。

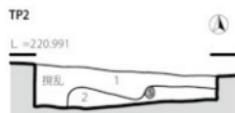
第 3 次調査は東側の溝の確認調査で、2 本のトレチを入れた。

第 4 次調査では、3 次調査の範囲を含む東側一帯に、南北に長く調査区を設定した。その結果、長さ 100 m にも及ぶ溝が検出された。

なお、稲荷森古墳駐車場用地内地区は、平成 4 年の 10 月から 11 月にかけて行われた調査であり、2 カ所のテストピットと 1 カ所の精査区を調査したものである。

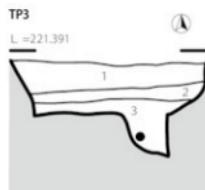






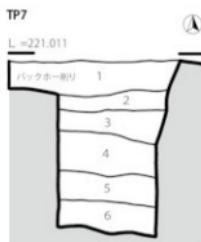
テストピット TP2

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土 細砂粒混入
- 2 5YR8/2 灰白色細砂 粘土混入



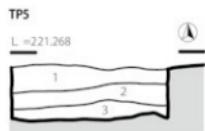
テストピット TP3

- 1 うすい黄褐色中砂 表土
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂 粘土混入
- 3 10YR8/6 黄褐色細砂 粘土混入 (●は鉄斧出土位置)



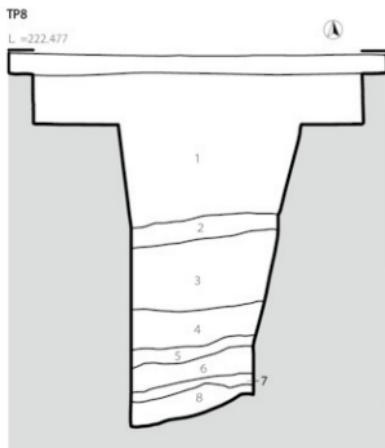
テストピット TP7

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 細砂粒混入 しまりあり (耕作土)
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 細砂粒混入 しまりあり (耕作土)
- 3 10YR3/2 黒褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり
- 4 10YR3/3 暗褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり
- 5 10YR2/2 黑褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり (包含層)
- 6 10YR2/1 黒色粘土 細砂粒混入 しまりなし (遺構標準面)



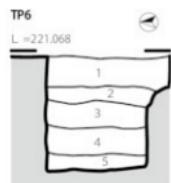
テストピット TP5

- 1 山土
- 2 砕石
- 3 2.5YR8/3 淡黄色細砂
粘土混入 しまりあり



テストピット TP8

- 1 盛上
- 2 10YR5/2 底褐色細砂 粘土混入 しまりあり
- 3 7.5YR3/1 黑褐色細砂 粘土混入 しまりあり
- 4 7.5YR3/4 暗褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり
- 5 7.5YR4/4 褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり (赤味かかる)
- 6 10YR2/3 黑褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり
- 7 10YR2/3 黑褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり 炭化物多く含む
- 8 10YR2/3 黑褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり

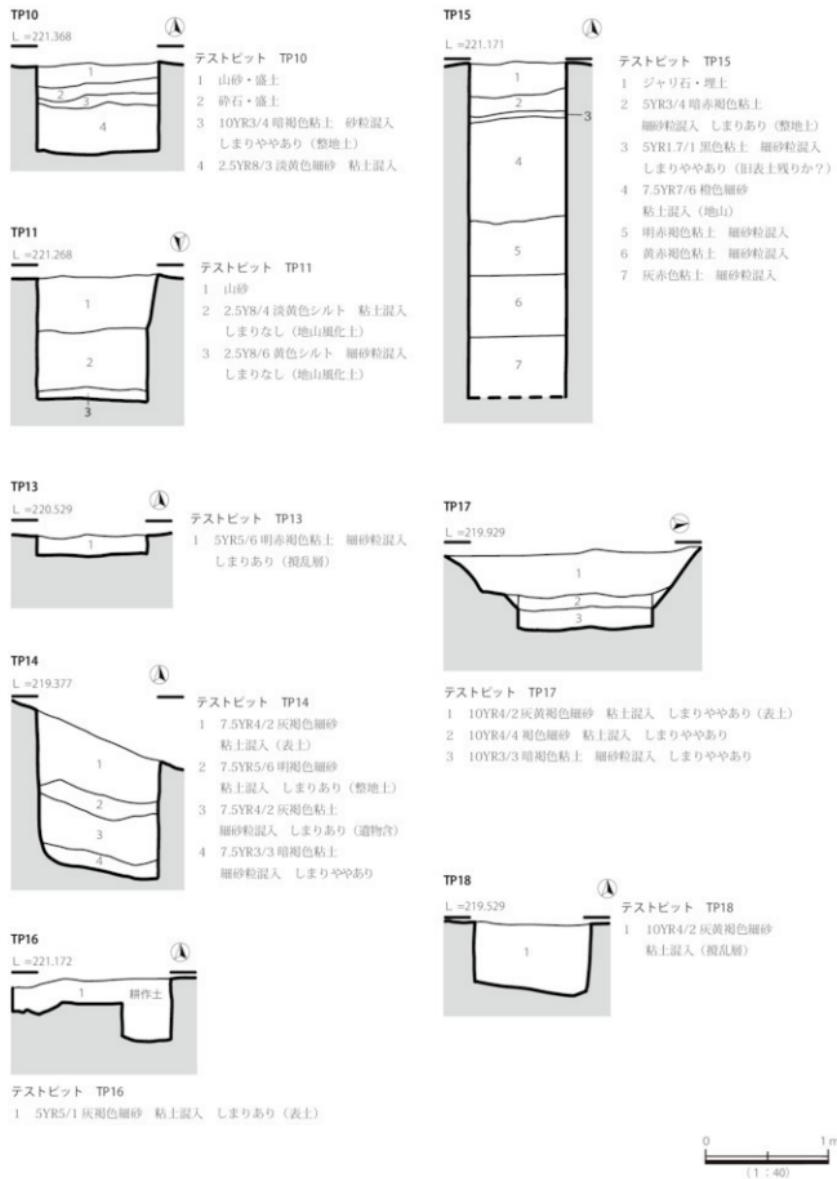


テストピット TP6

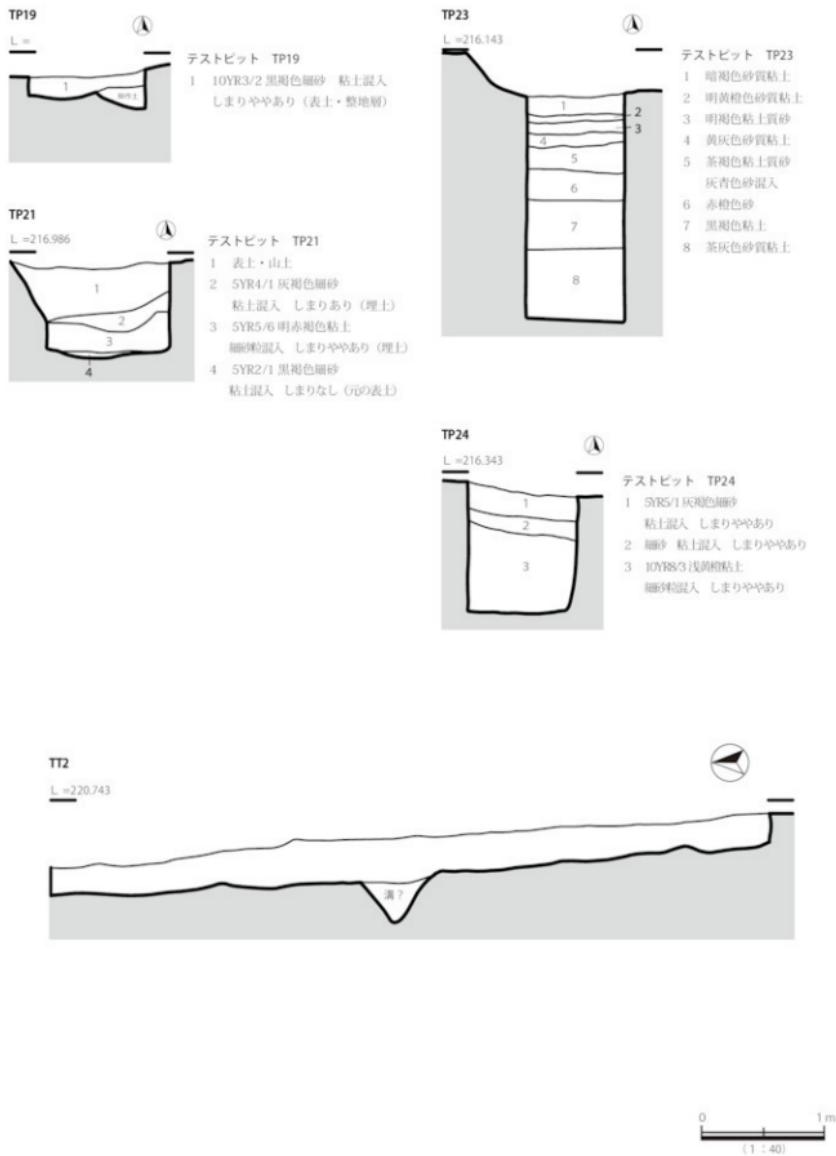
- 1 山土
- 2 10YR3/2 黑褐色細砂 粘土混入 しまりあり (整地上)
- 3 10YR2/2 黑褐色細砂 粘土混入 しまりあり (整地上)
- 4 10YR3/4 暗褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり (整地上)
- 5 10YR3/2 黑褐色粘土 細砂粒混入 しまりややあり (包含層)
- 6 2.5YR8/3 淡黄色



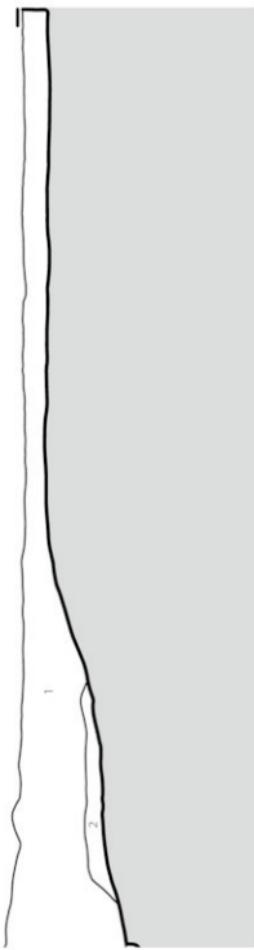
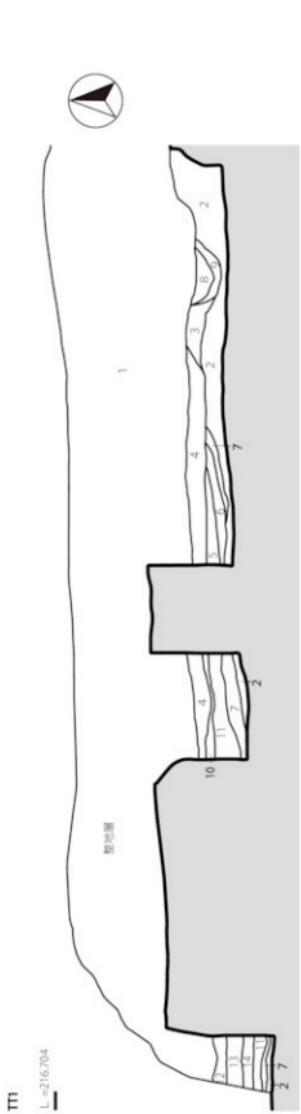
第4図 長岡山遺跡 試掘調査 テストピット・トレンチ図(1)



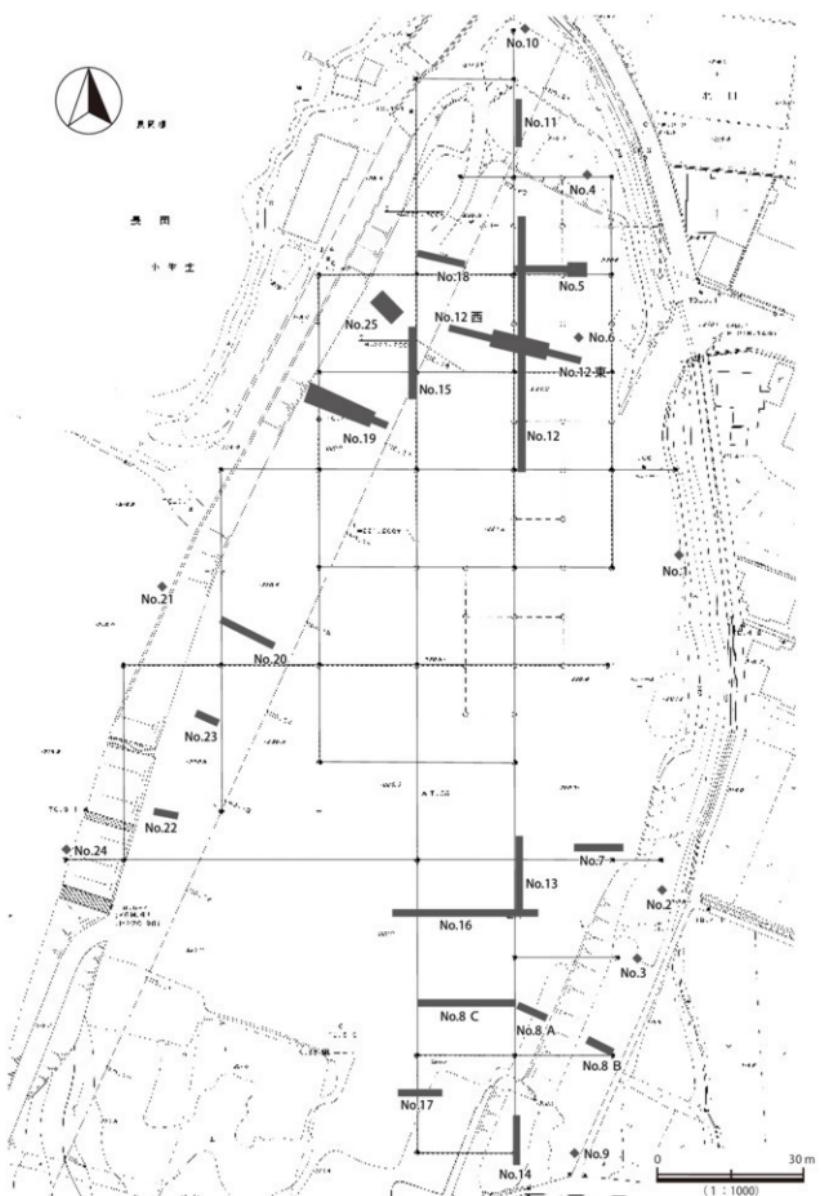
第5図 長岡山遺跡 試掘調査 テストビット・トレンチ図（2）



第6図 長岡山遺跡 試掘調査 テストビット・トレンチ図（3）



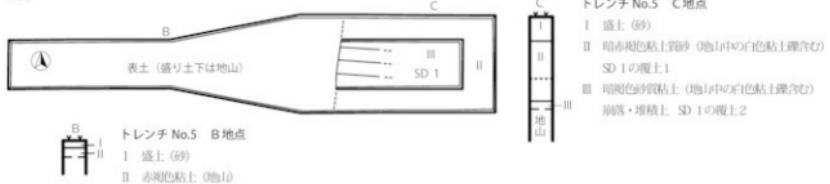
| テストランチ | ランチ番号 | 試験地 | 試験地記述 | しまりやさしさ |
|--------------|--------|-----|---------------------|---------------------------------|
| 1 | 10NBG1 | 砂利地 | 粘土混入、しまりやさしく | 7 75R2/1 地表土 粘土混入、しまりやさしく |
| 2 | 10NBG4 | 砂利地 | 粘土混入、しまりやさしく | 8 10NBG2 黒褐色の細砂 粘土混入、しまりやさしく |
| (10NBG4 黒褐色) | | | | 9 10NBG3 黒褐色細砂 粘土混入、しまりやさしく |
| 3 | 75R3/3 | 砂利地 | 粘土混入、しまりやさしく | 10 10NBG4 黑褐色地 |
| 4 | 10NBG1 | 砂利地 | 粘土混入、しまりやさしく | 11 10NBG2 黑褐色地 粘土混入、しまりやさしく |
| 5 | 75R2/2 | 砂利地 | 粘土混入、しまりやさしく (小土まじ) | 12 10NBG3/3に泥 黑褐色地 粘土混入、しまりやさしく |
| 6 | 75R3/2 | 砂利地 | 粘土混入、しまりやさしく | 13 10NBG2 黑褐色地 粘土混入、しまりやさしく |
| | | | | 14 10NBG2 黑褐色地 粘土混入、しまりやさしく |



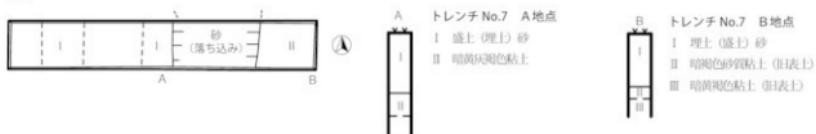
第8図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ位置図

III 長岡山遺跡

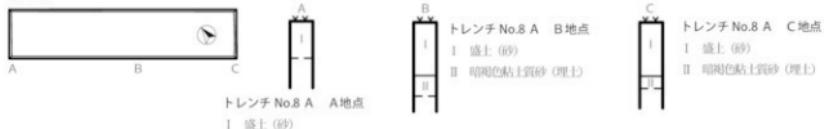
No.5



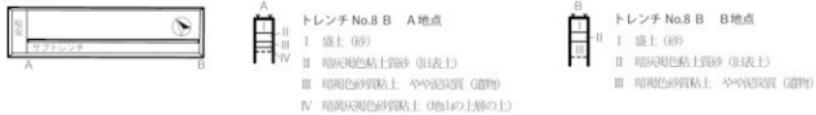
No.7



No.8 A



No.8 B



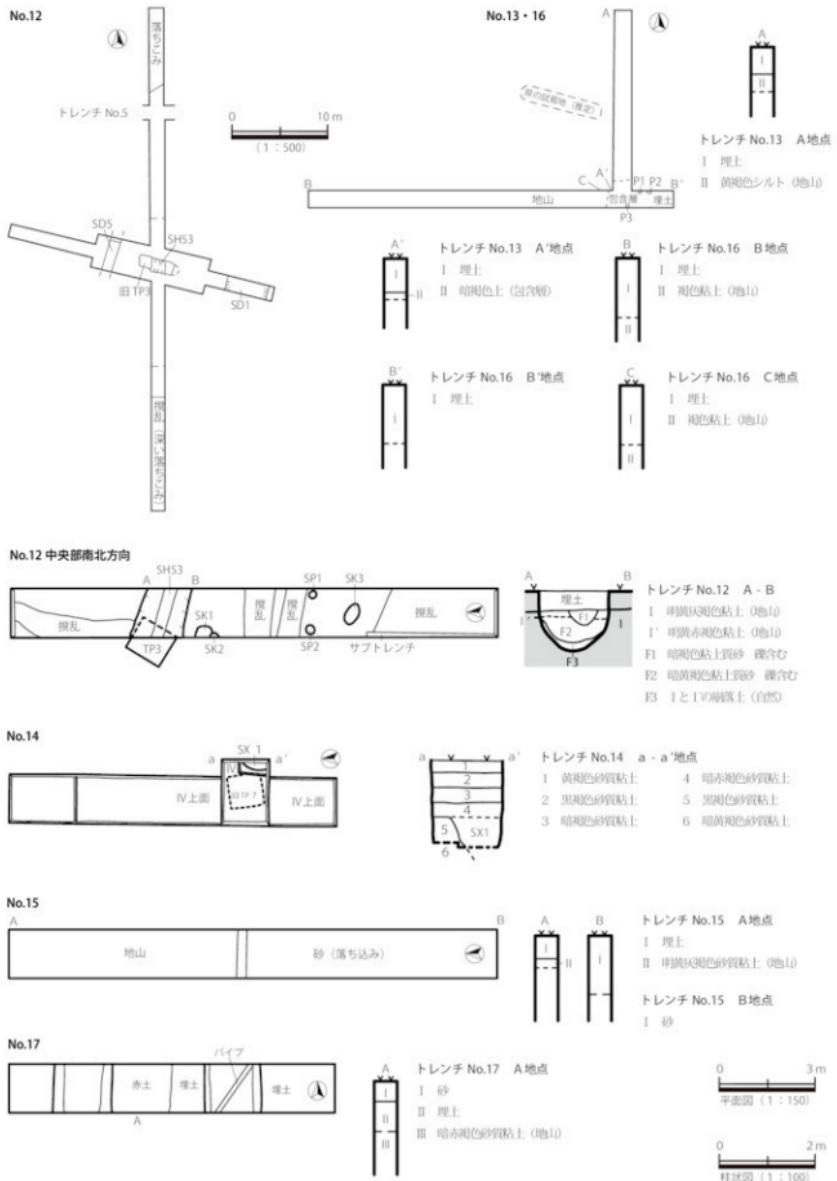
No.8 C



No.11



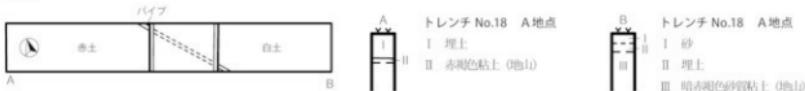
第9図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ図 (1)



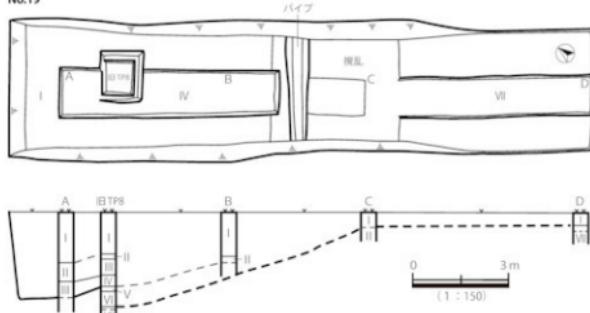
第10図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ図(2)

III 長岡山遺跡

No.18



No.19



トレンチ No.19 A地点

- I 整地上
- II 埋土
- III 暗褐色砂質粘土

トレンチ No.19 旧 TP B

- I 整地上
- II 灰褐色粘土質砂(Ⅲ表)
- III 黑褐色質砂
- IV 喀褐色砂質粘土
- V 暗褐色砂質粘土
- VI 黑褐色砂質粘土
- VII 暗褐色砂質粘土(地1)

トレンチ No.19 B地点

- I 整地上
- II 暗褐色砂質粘土

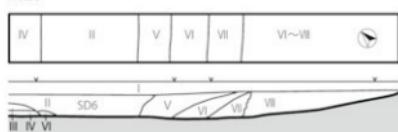
トレンチ No.19 D地点

- I 整地上
- VII 褐色砂質粘土(地1)

トレンチ No.19 C地点

- I 整地上
- II 暗褐色砂質粘土(地1)

No.20



トレンチ No.20

- I 埋土・整地上
- II 暗褐色砂質粘土(SD6の覆土1)
- III 暗黃褐色砂質粘土
- IV 赤褐色粘土(地1)ただし動いている?
- V 暗黃小塊褐色砂質粘土(SD6のF2か?埋土か?)
- VI 黑褐色砂質粘土(SD6のF3か?)
- VII 黄褐色粘土(地1)
- VIII 捣乱(部分的)

No.22



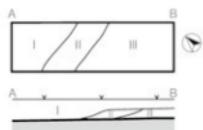
トレンチ No.22 A + B地点

- I 整地上
- II 明暗褐色粘土(地1)



第 11 図 長岡山遺跡 第 1 次調査 トレンチ図 (3)

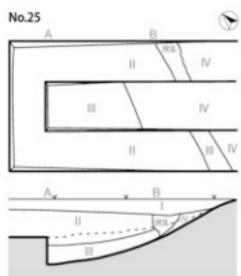
No.23



トレンチ No.23

- I 懸地上（砂、黒土）
II 暗褐色砂質黏土（Ⅲ表土下の層）
III 赤褐色粘土（地山）

No.25

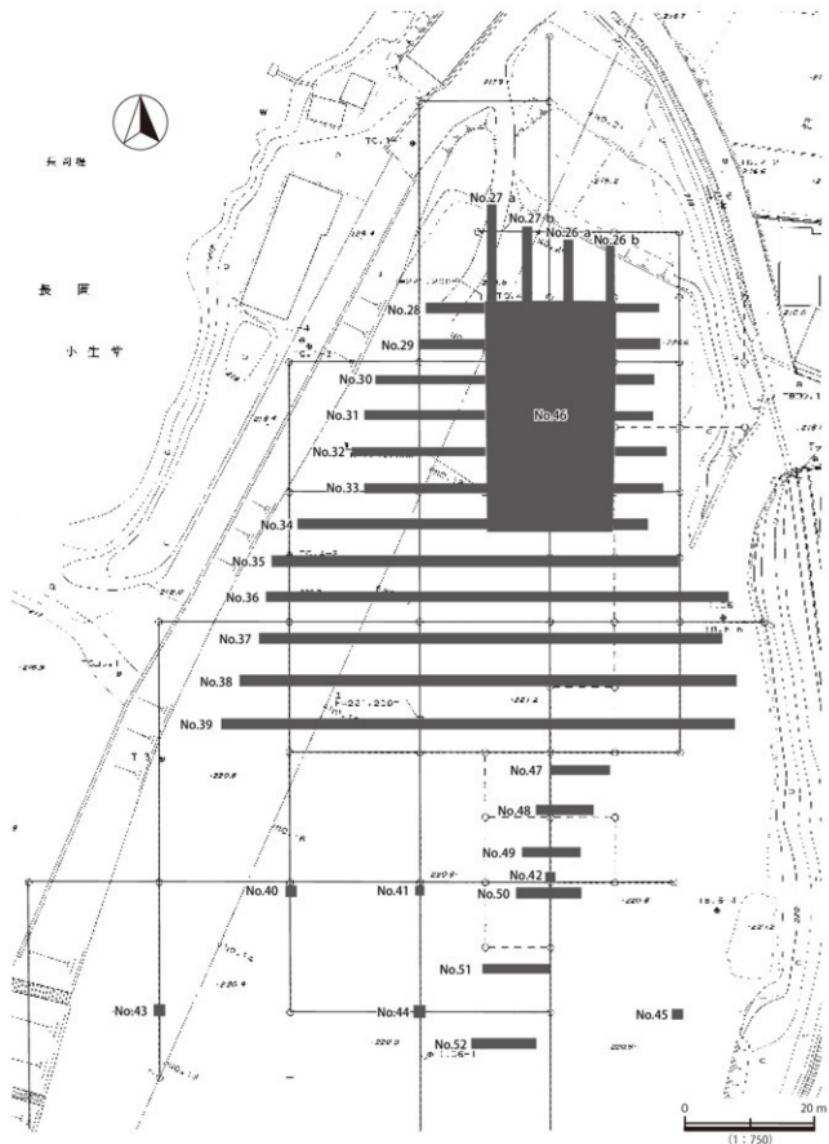


トレンチ No.25

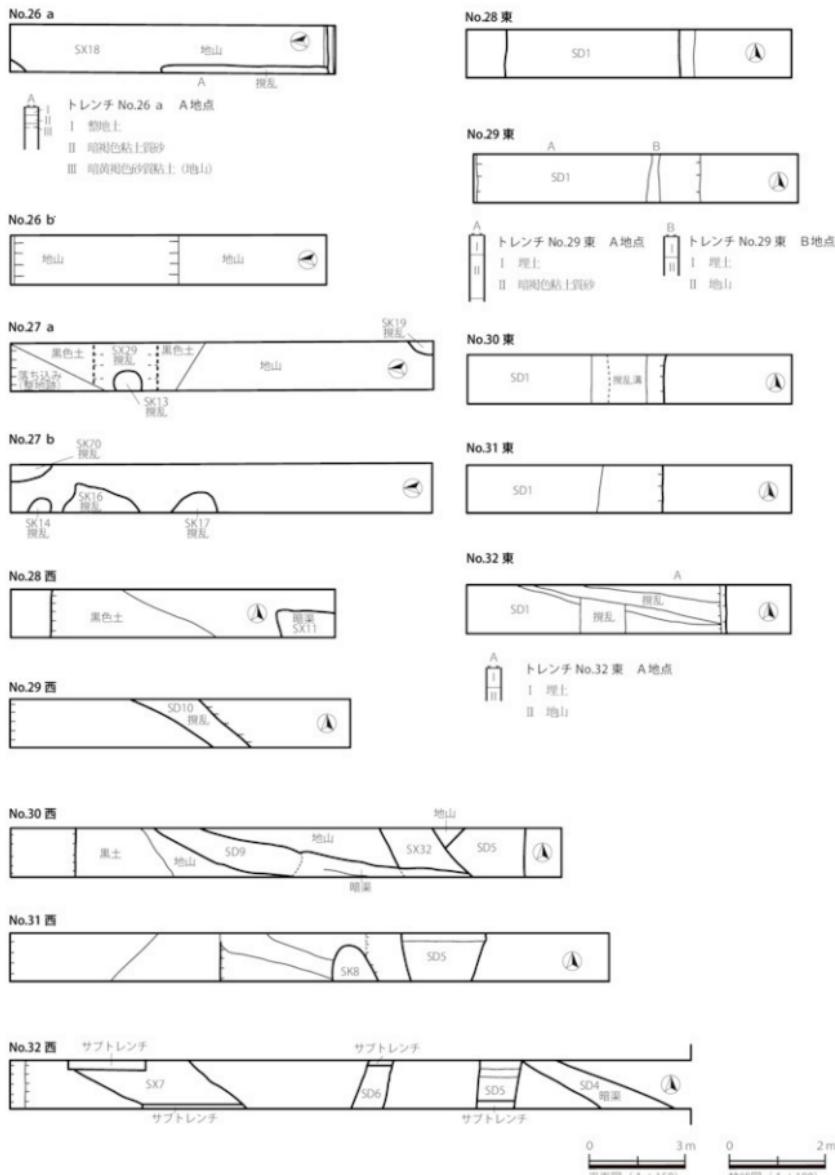
- I 懸地上（砂）
II 懸地上（地山）
III 暗褐色粘土質砂・所々に黄色土ブロックを含む（覆土か）
IV 暗灰褐色粘土質砂



第12図 長岡山遺跡 第1次調査 トレンチ図（4）



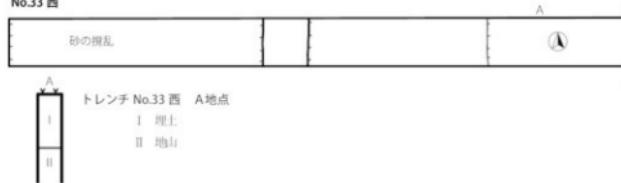
第13図 長岡山遺跡 第2次調査 トレンチ位置図



第14図 長岡山遺跡 第2次調査 トレーニング (1)

III 長岡山遺跡

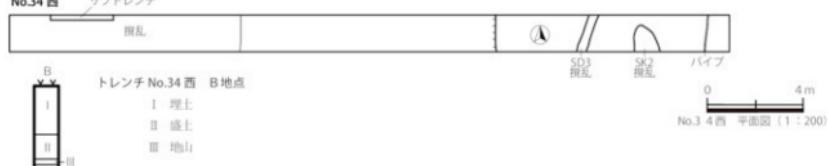
No.33 西



No.33 東



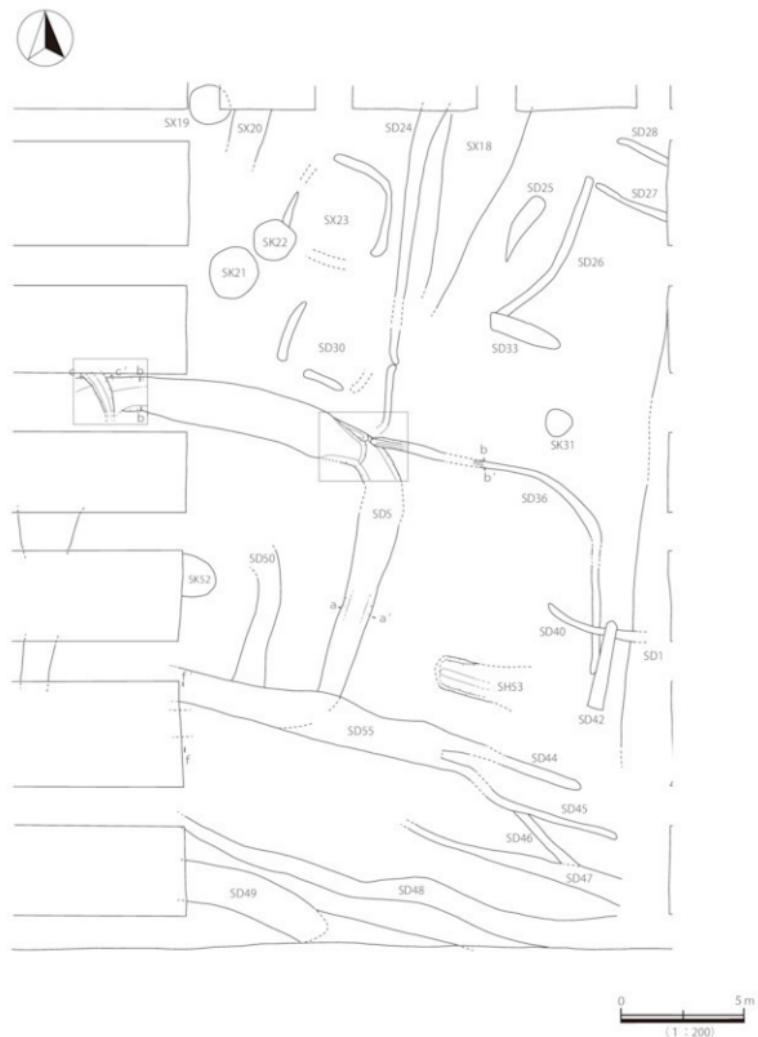
No.34 西



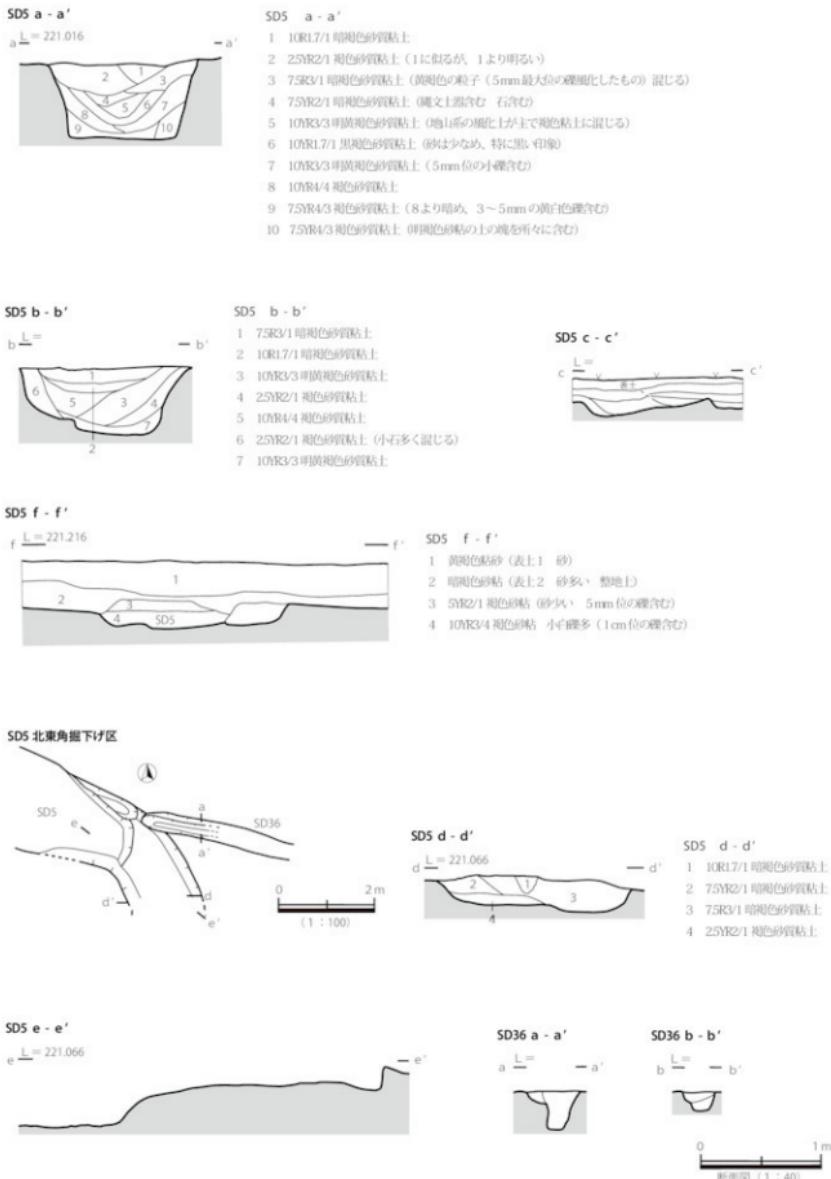
No.34 東



第 15 図 長岡山遺跡 第 2 次調査 トレンチ図 (2)

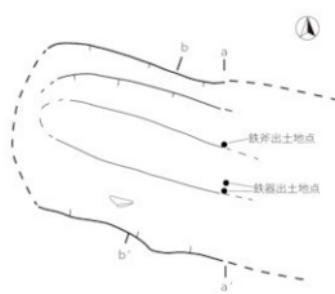


第16図 長岡山遺跡 第2次調査 No.46 精査区 遺構配図

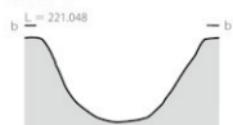


第17図 長岡山遺跡 第2次調査 No.46 精査区 遺構断面図

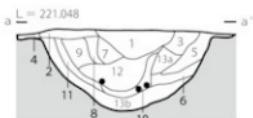
SH53 墓坑



SH53 b - b'



SH53 a - a'

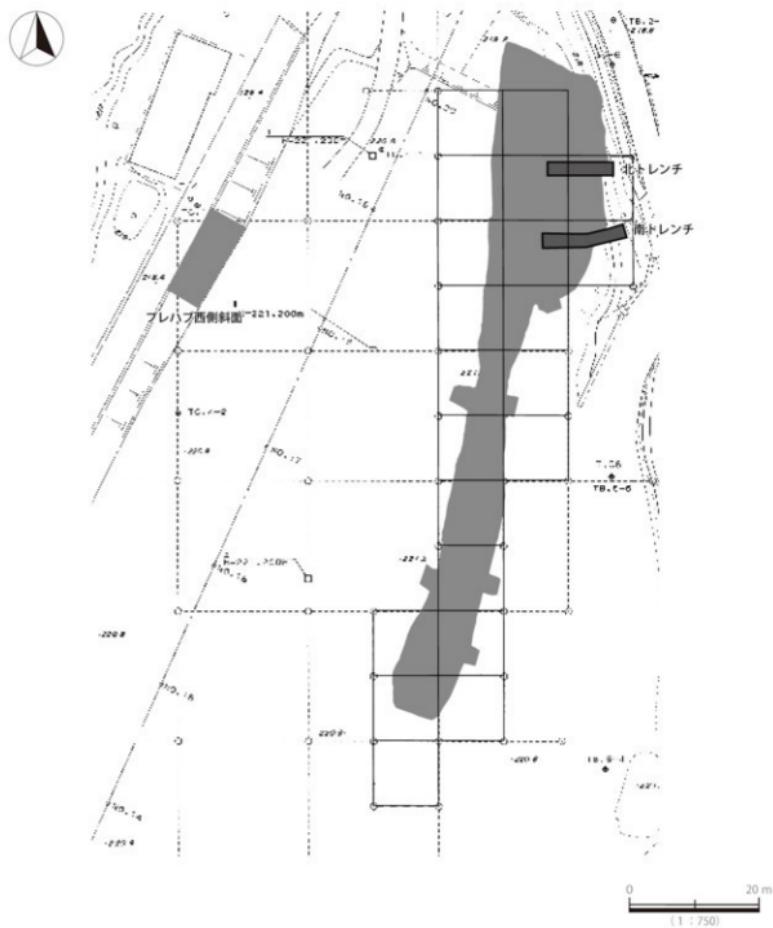


SH53 a - a'

- 1 7.5B3/2 黒褐色 地山上 2~3m ブロック
- 2 7.5R4/2 黒褐色
- 3 7.5B4/2 黒褐色 地山土多
- 4 7.5R4/2 黒褐色 地山白土少
- 5 7.5R2/1 黒褐色 地山黄色土少
- 6 10Y5/4/4 黄褐色 黑土多
- 7 10Y5/6 黄褐色 喀斯特上
- 8 10Y5/6 黄褐色粘砂 白土ブロック少
- 9 10Y6/6 明褐色粘砂 黄ブロック
- 10 10Y2/3 黑褐色粘砂 ● 鉄器出土地点
- 11 10Y4/4 褐色粘砂
- 12 7.5B6/6 棕色粘砂 黑土土多
- 13 a 7.5Y6/8 棕色粘砂 黑土地山
- 13 b 7.5Y6/8 棕色粘砂 地山地土ブロック



第18図 長岡山遺跡 第2次調査 No.46 精査区 SH53



第19図 長岡山遺跡 第3・4次調査区 位置図

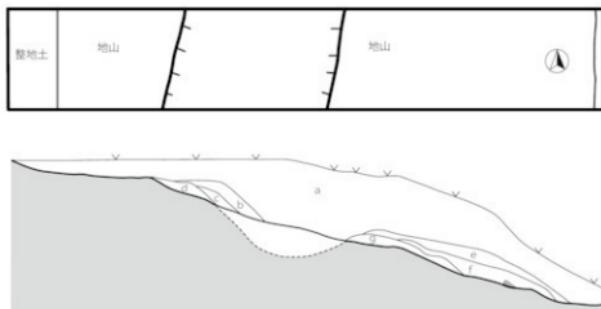
北トレンチ



北トレンチ 北壁

- a 整地上
- b 暗赤褐色砂質粘土
- c 暗赤褐色砂質粘土
- d 黄褐色粘土
- e 煙土か
- f 噴灰褐色砂質粘土

南トレンチ

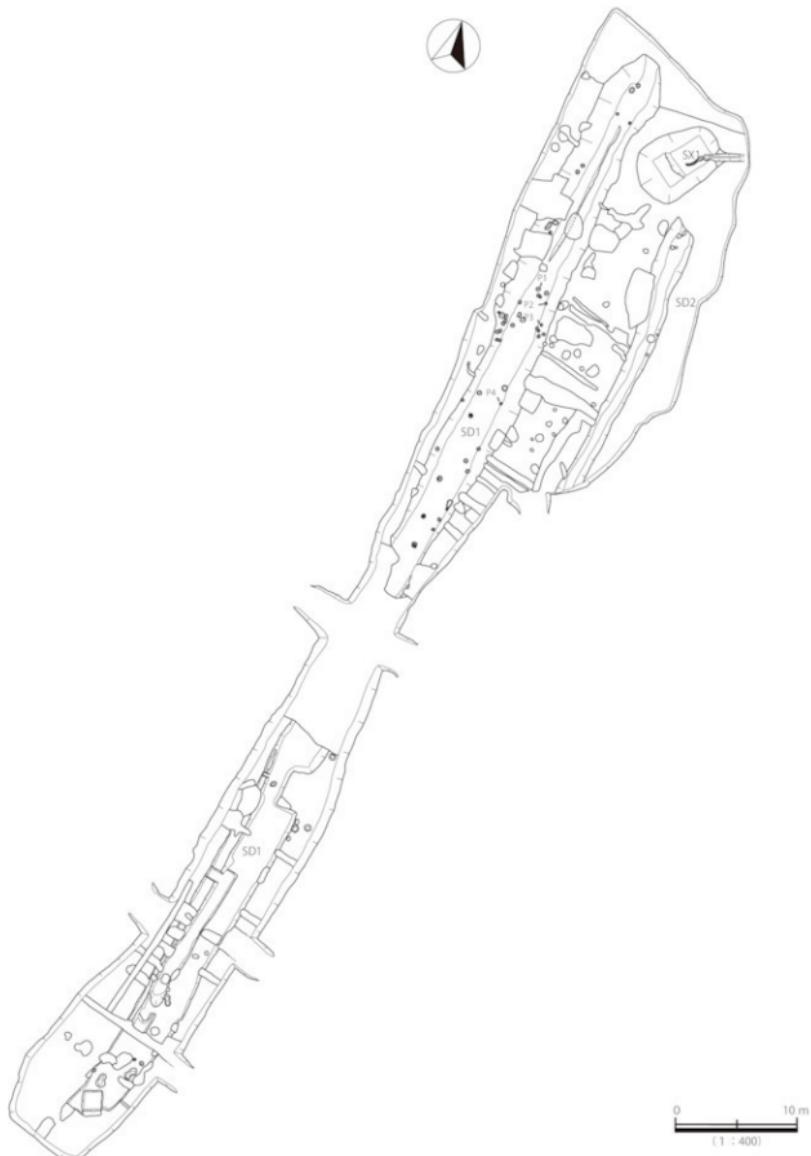


南トレンチ 北壁

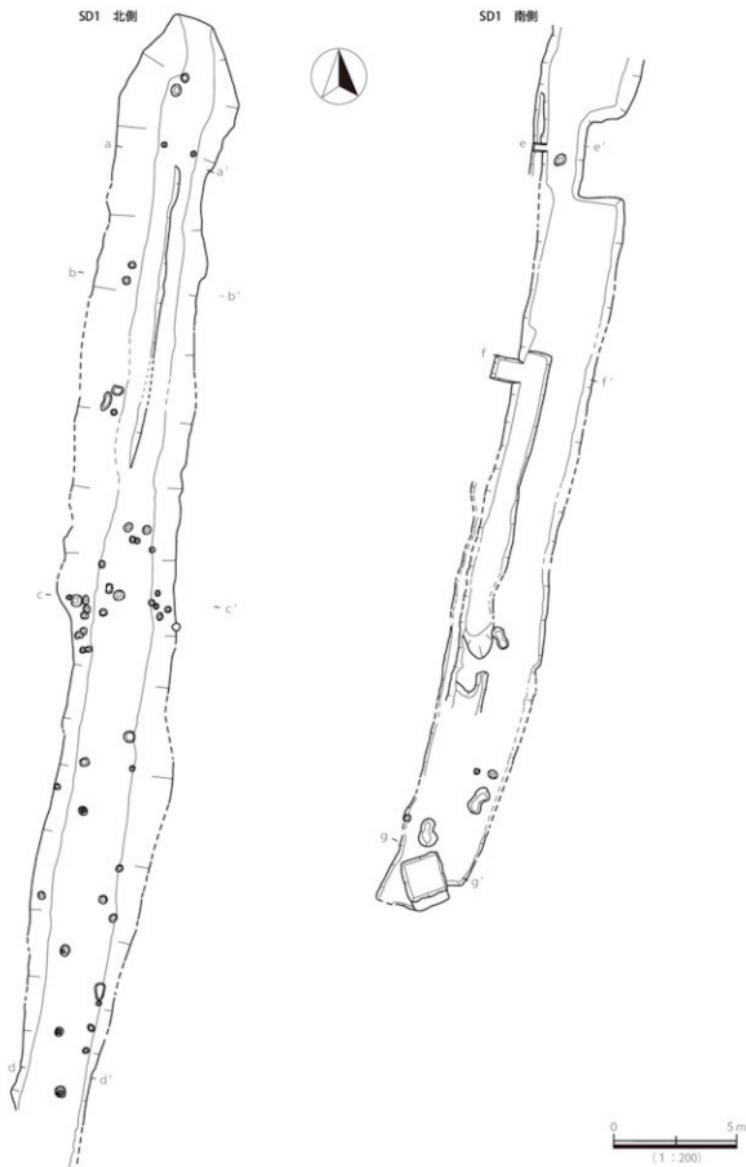
- a 整地上
- b 暗赤褐色砂質粘土
- c 暗黄褐色砂質粘土
- d 黄褐色粘土
- e 噴灰褐色砂質粘土 (烟土か)
- f 噴灰褐色砂質粘土
- g 明灰褐色粘土

0 2m
(1 : 100)

第 20 図 長岡山遺跡 第 3 次調査 トレンチ図

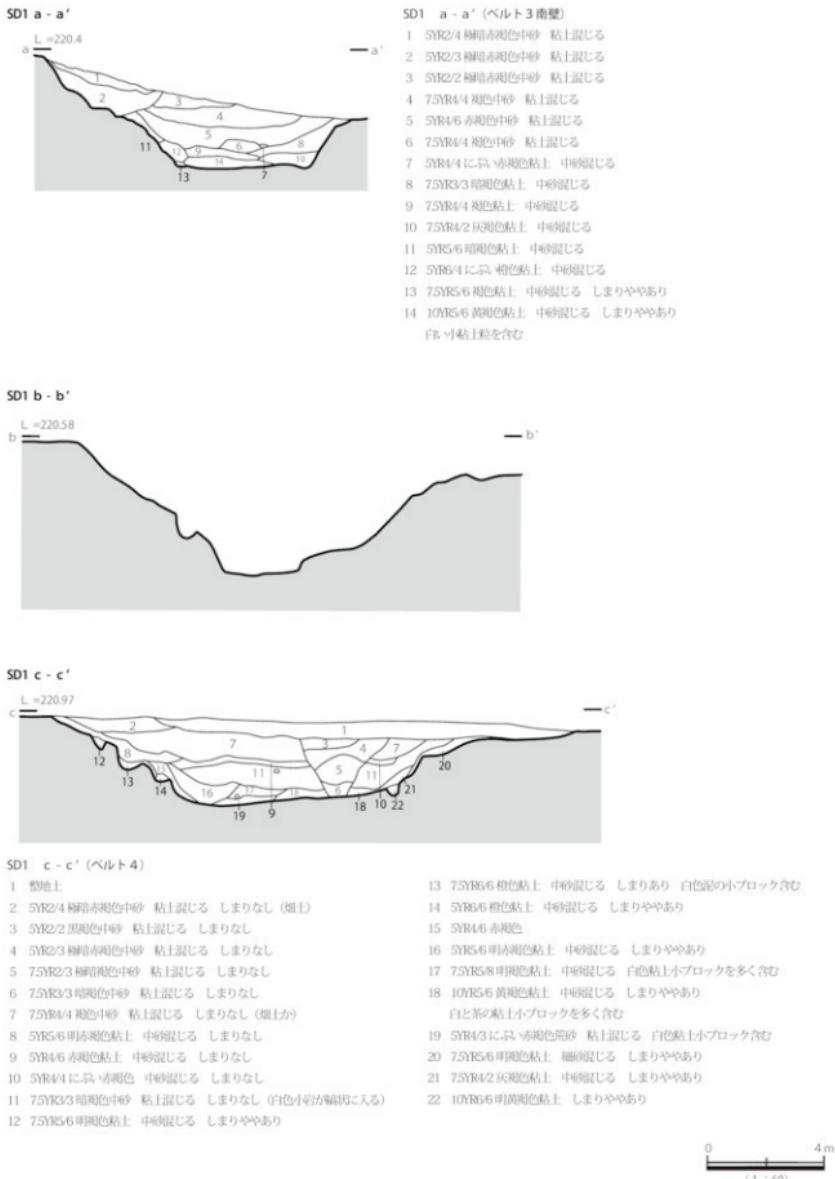


第 21 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 遺構配置図



第22図 長岡山遺跡 第4次調査 SD 1 遺構平面図

III 長岡山遺跡

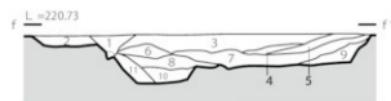


第23図 長岡山遺跡 第4次調査 SD1 遺構断面図(1)

SD1 d - d'



SD1 f - f'



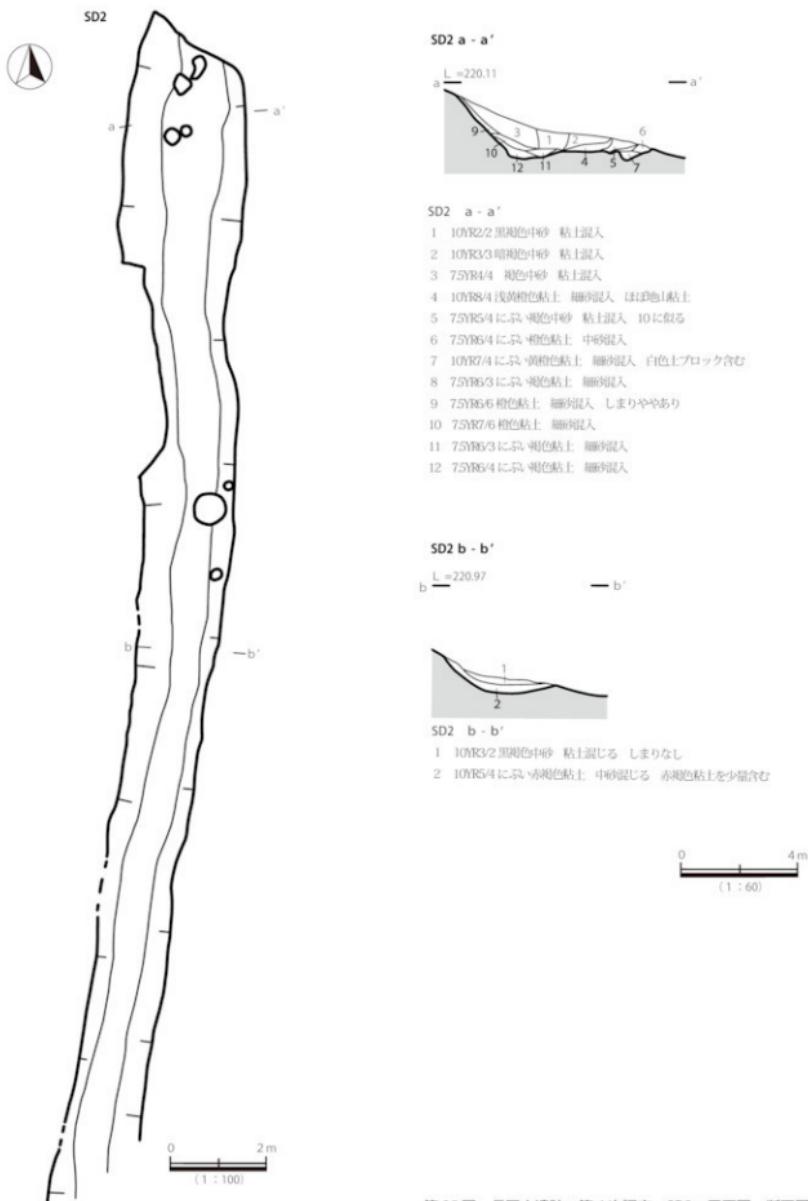
SD1 e - e'



SD1 g - g'

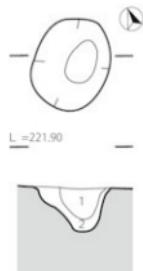


第24図 長岡山遺跡 第4次調査 SD1 遺構断面図（2）

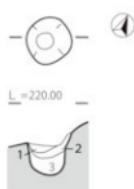


第25図 長岡山遺跡 第4次調査 SD2 平面図・断面図

P1



P2



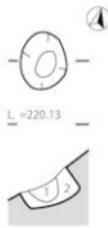
P1

- 1 10YR4/4 褐色粘土 中砂混入
- 2 10YR6/6 淡褐色粘土 中砂混入 地山の褐色粘土粒を含む

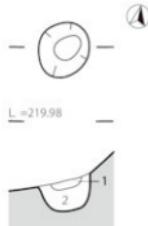
P2

- 1 10YR5/4 に混 黄褐色粘土 中砂混入
- 2 25Y8/4 淡黄色粘土
- 3 7.5YR5/4 に混 褐色粘土 中砂混入

P3



P4



P3

- 1 7.5YR4/4 褐色粘土 中砂混入
- 2 10YR7/8 明黄色粘土 中砂混入

P4

- 1 10YR4/3 に混 黄褐色粘土 中砂混入
白色塊1小 ブロック混入
- 2 10YR7/3 に混 黄褐色粘土 中砂混入



第 26 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 S.P. 遺構断面図

SX 1



SX1 a - a'



SX1 b - b'



SX1 c - c'



SX1 c - c'

- 1 10YR2/2 黒褐色粘土 中砂混入
- 2 7.5YR7/4 に見 植色粘土 粘土混入 しまりあり
10YR8/3 浅褐色の石 (5~10cm) を多く含む
- 3 7.5YR7/4 に見 植色



第 27 図 長岡山遺跡 第 4 次調査 SX1 平面図・断面図

2 検出遺構

(1) 検出された遺構

試掘調査（第3図～第7図）

TP6にて多くの遺物とともに焼土が確認され、周囲に住居址の存在が考えられる。また、TP7・8においても、住居址または土坑等の遺構があるものと思われる。TT2では、地山に掘り込まれた溝状の遺構がみられた。

第1次調査（第8図～第12図）

遺構は主に丘陵の北側と西側から検出されている。

SH53 墓坑（第18図） 北側からはトレーンチNo.12内で幅約1.3mの溝が発見された。手掘りで拡張し検討した結果、溝は古墳の主体部（SH53）であることが分かった。出土遺物から、古墳時代前期・4世紀頃のものと思われる。主体部の残存する長さは約2.3m、深さは約0.7mあり、東西に擾乱があるため全長は不詳だが、擾乱の外にまでは及ばないため4m以下と思われる。断面は半円形をしている。おそらく木棺直葬と考えられるが、土層断面等からは、木棺等が崩落した様子は確認できなかった。元々の墳丘及び主体部上半は、高校造成時の掘削により消滅したものと思われる。遺物が棺外部と思われる場所や、埋め土の下半からも出土していることから、一部擾乱された可能性もある。

SD1 東の斜面にかけては、幅5m程の溝（SD1）が確認された。

第2次調査（第13図～第18図）

丘陵西側からは、複数の溝が検出された（SD6・9・10）。遺物が出土していないため、詳細な年代については不明であるが、比較的新しい時代のものであると推測される。

丘陵北側の、全面表土剥離を行ったNo.46地区は、高校の校舎に伴うと思しき溝が多く、SH53に伴う墳丘や周溝等の痕跡、また1次調査で判明したもの以外の主体部は発見されなかった。なお、この調査区での遺構掘下げは、第16図で四角に囲った2カ所のみで行った。

SD5 SH53の西側から検出された。溝の幅は約1mで、

深さは約60cm。一辺約13mの方形となる。小片ながら、古式の土師器が出土している。

SD36 SD5の東側にあり、同じく方形となるものと考えられる。溝の幅は約45cm深さは30cm程と、細く浅い。SD5に切られたかたちになるため規模は不詳であるが、おそらく一辺の長さは10m程になるものと思われる。

SD30・SX23 どちらもSD5の北側から検出された。一辺約4mと規模は小さいものの、SD5と相似形の四角い溝で、向きも同様である。

以上4つの溝では、遺物の出土がほとんどなかつたため遺物からの年代特定できない。SD5は規模から考えて、掘平された方形周溝墓の残存部とみるのが妥当ではないかといえる。これらを方形周溝墓であると仮定するならば、時期的には4世紀代ということになる。

1次調査で発見されたSD1は、幅6～7m、深さ1～1.5m程度となった。

第3次調査（第19図・第20図）

丘陵の北東斜面に2本のトレーンチを入れて調査したところ、SD1の東側に同様の溝（SD2）が確認された。

第4次調査（第19図・第21図～第27図）

SD1 南北方向におよそ100m続いており、幅は約4m、深さは1m弱ほどである。調査区北側溝内の中央辺りに直径30～50cmの小ピット群があり、乱杭の跡ではないかと思われる。

SD2 SD1の東側に並行して存在し、幅は約1.6mで、深さは深いところで50cm程度である。

SD1・2ともに中世の館堀とみられるが、年代を決定できるような遺物の出土はなかった。中世の館堀ならば、本来2～4m程の深さがあるべきものだが、前述したとおり遺跡の南側を中心に上部が大きく削られているため、これらの溝も、南半では20～40cm程度しか残存していないかった。

SX1 SD2 の北側から検出され、短辺 5 m、長辺 7.5 m、深さ 1.7 m。地下の岩をくりぬいて作られた方形である。南側は 1 m 程の深さで一段あり、北側が深くなっている。北東角の溝は、V 字状に一旦岩を掘り下げて通水穴を外まで設け、再び内側に岩を、外側に土を埋めて壁をつくったものである。貯蔵用の水室であると推定され、発見当時は山城の貯蔵施設と想定されたが、その後の情報により、明治期頃まで使用したものであることが分かった。

その他、全域で穴や溝が数多く検出されたが、全て高校施設の跡であった。

プレハブ西側斜面は、翌年実施する予定だった立会調査を予め実施したもので、遺構は見られなかったものの多数の縄文土器が出土した。

(2) 遺物の出土状況

試掘調査

遺物出土量は整理箱で 19 箱である。丘陵部に表土出土を含め遺物の散布が認められた。遺構に伴うと思われる遺物の出土があったのは TP6・7・8・14、TT1・2 である。主な遺物は縄文土器であるが、一部土師器や須恵器も検出されている。特に TP8 では、地表面下約 1.5 m の旧表土下に、1 m 以上に及ぶ厚い包含層が確認され、ここからの出土が圧倒的に置かれた。また、TP3 からは鉄斧が出土した。

第 1 次調査

出土量は整理箱で 11 箱である。丘陵北側の西斜面では、掘削が及ばなかった深さでは包含層が残存し、縄文中期の遺物が検出された。試掘調査時の TP8 を含む No.19 トレンチからの出土量が大きかった。一方東南一帯では丘陵上の低いところや丘陵の斜面と裾はそれぞれ掘平が及ばなかったところが残っており、縄文・古墳・平安各時代の土器等が出土した。

丘陵の北一帯では、中央地区で試掘溝に直交する溝 (SH53) から鉄鎌や鉄剣・刀子などの鉄製品が検出された。遺物の構成から、これらは古墳の副葬品であると

考られる（鉄製品の解説は付編に掲載）。

第 2 次調査

出土量は整理箱で 3 箱である。各遺構の覆土や擾乱の溝、穴の土、また全域の整地土から縄文土器が検出されたが、SH53 の鉄製品以外では、遺構に伴う明確な遺物は確認されなかった。

第 3 次調査

出土量は整理箱で 2 箱である。2 本のトレンチから僅かに縄文土器が出土している。

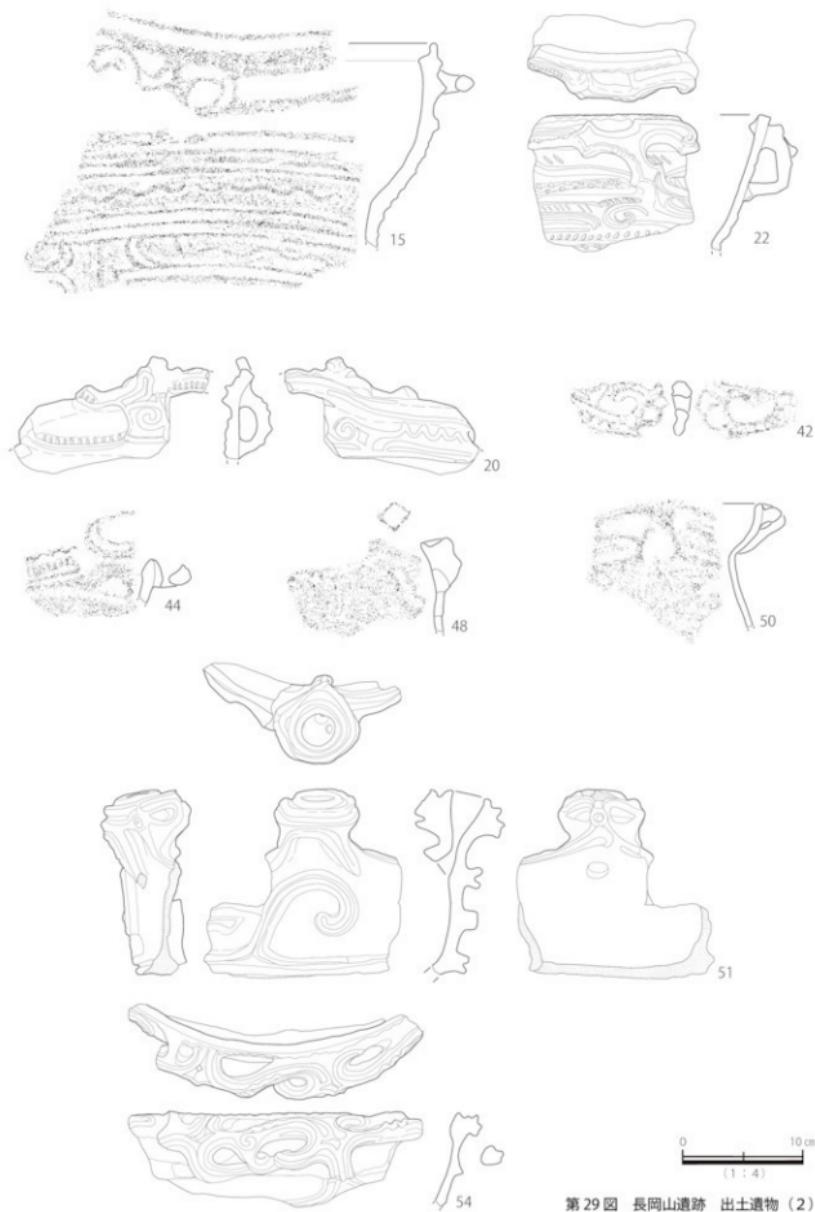
第 4 次調査

出土量は整理箱で 51 箱である。出土遺物の多くは、プレハブ西側斜面の調査区からの出土で、今回報告書に掲載した縄文土器の約 7 割がここからの出土となっている。SD1・2 とともに主な出土遺物はわずかな小土器片のみであるが、SD2 からは鉄釘が出土している。SX1 からは、床直～床上 60 cm のところから近世の茶碗などが出士している（写真図版 63）。

全体的に遺跡が破壊されており、遺物の残りもよくないが、遺跡北西の斜面付近から集中的に遺物が検出された。



第28図 長岡山遺跡 出土遺物(1)



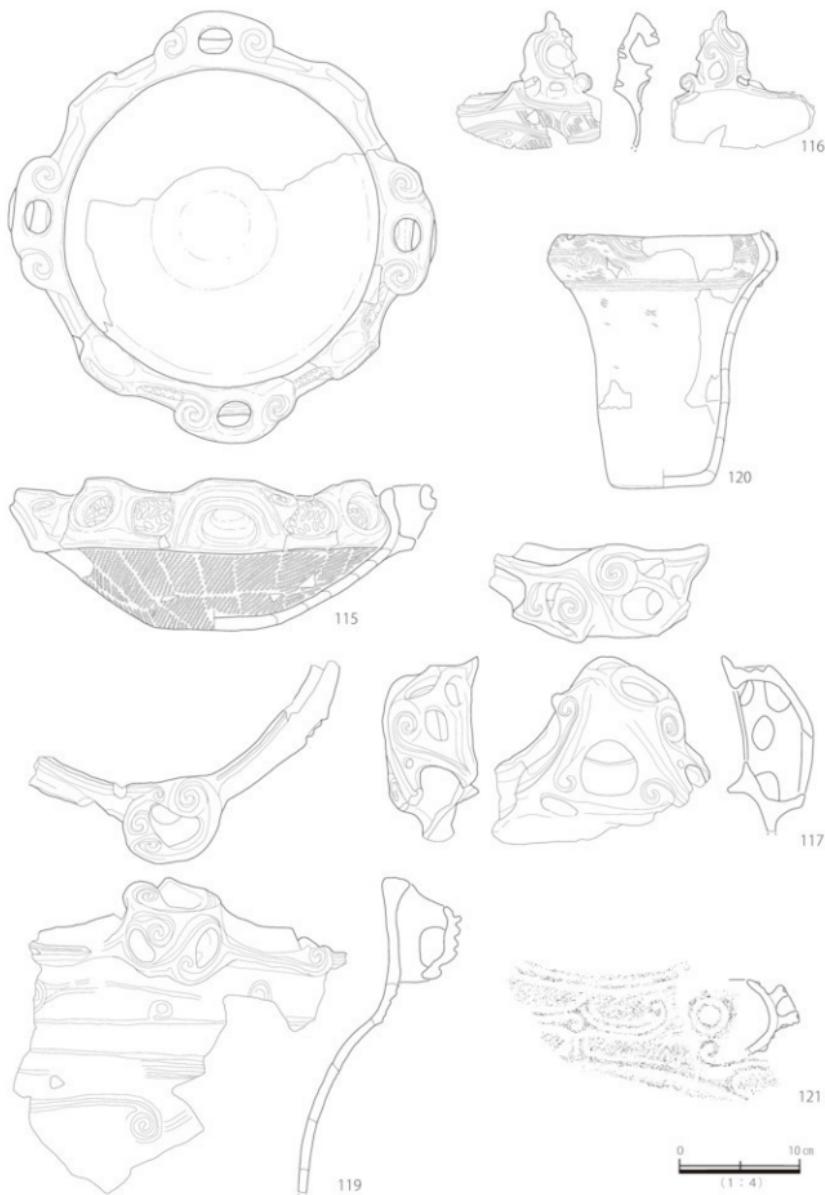
第29図 長岡山遺跡 出土遺物（2）



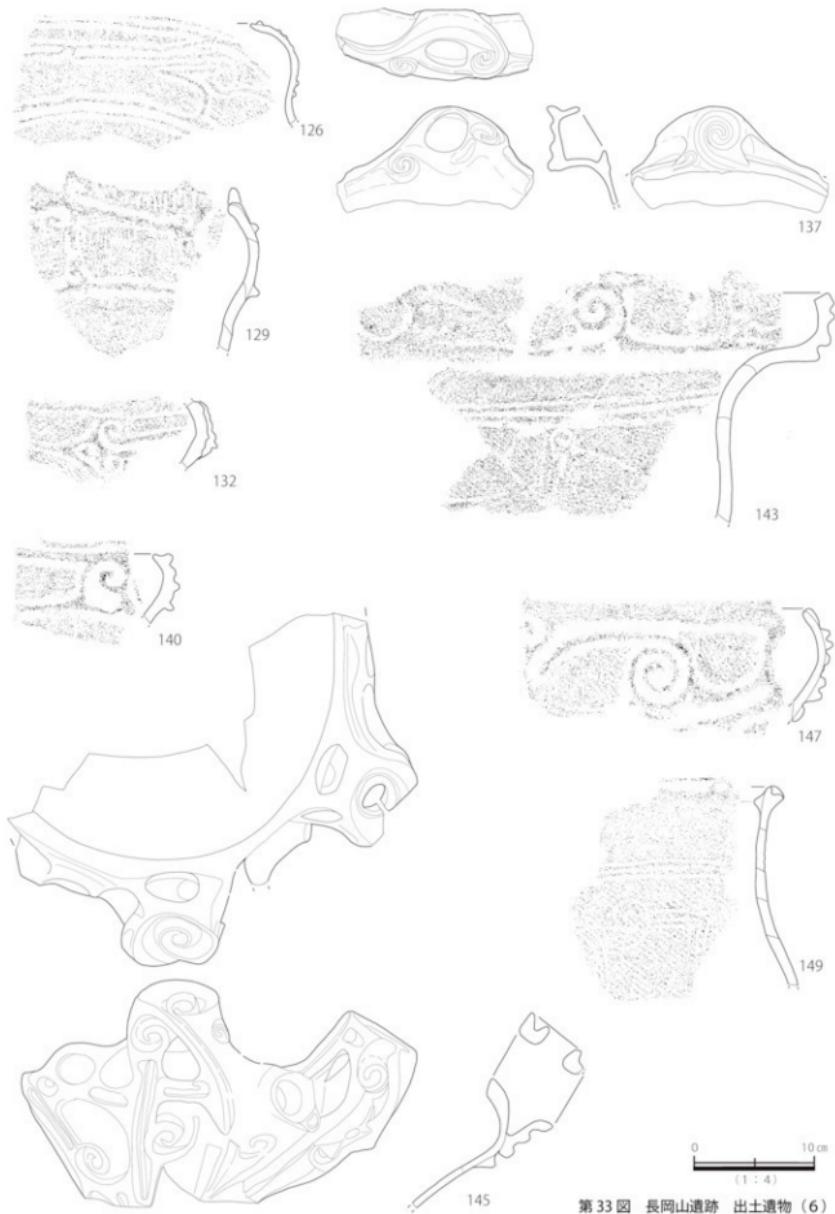
第30図 長岡山遺跡 出土遺物（3）



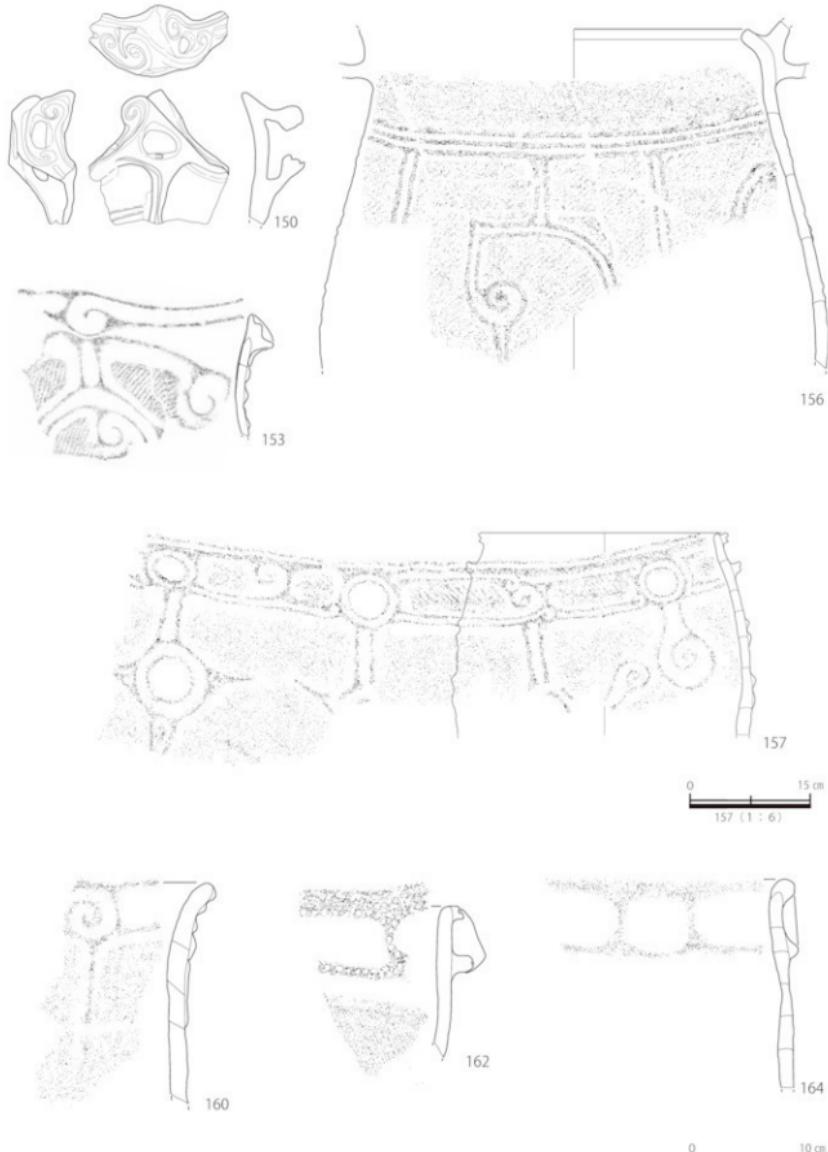
第31図 長岡山遺跡 出土遺物(4)



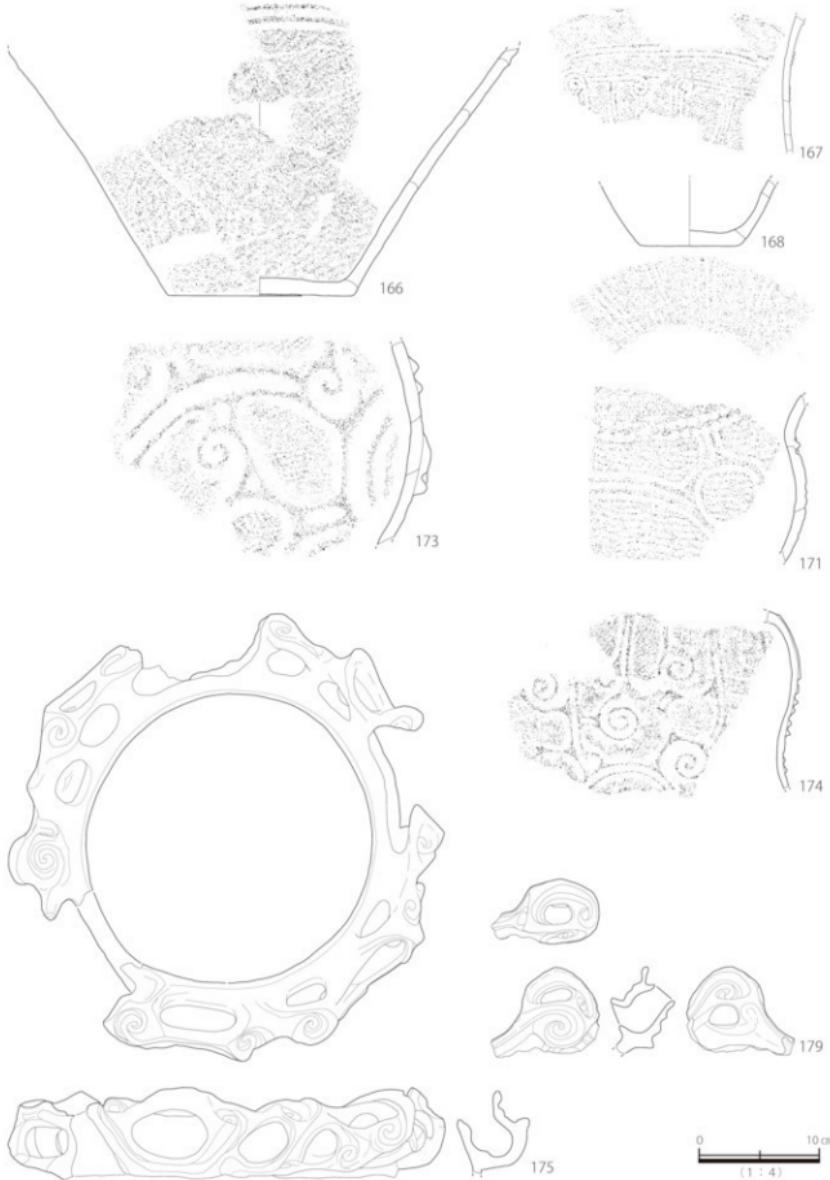
第32図 長岡山遺跡 出土遺物（5）



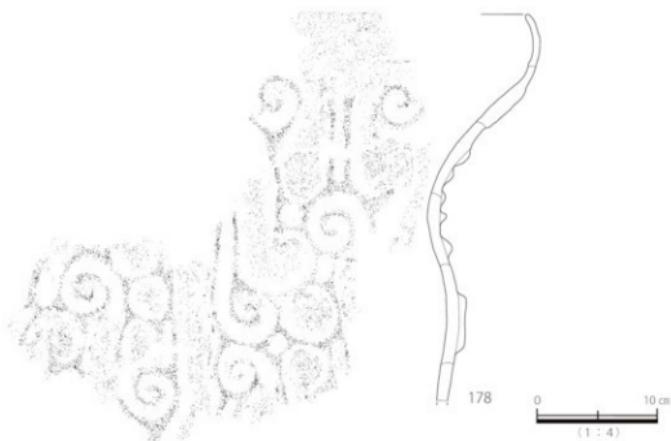
第33図 長岡山遺跡 出土遺物(6)



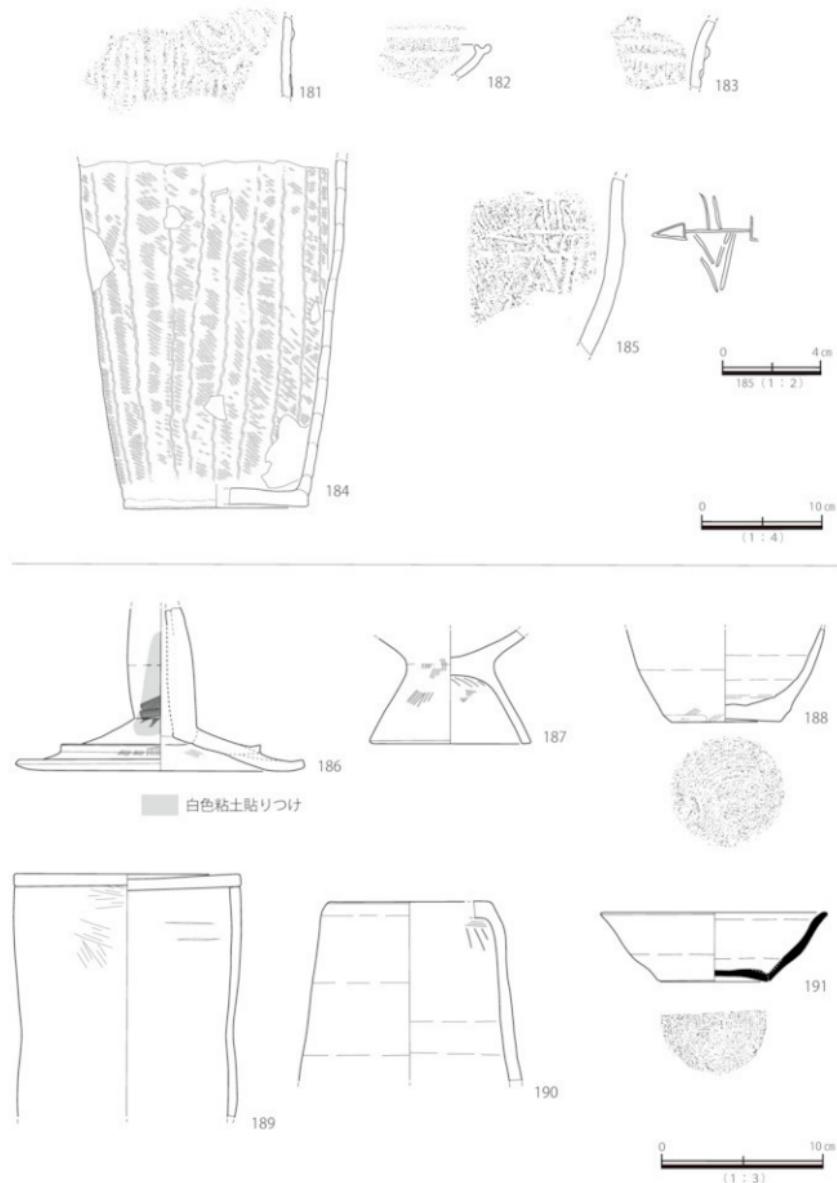
第34図 長岡山遺跡 出土遺物（7）



第35図 長岡山遺跡 出土遺物（8）



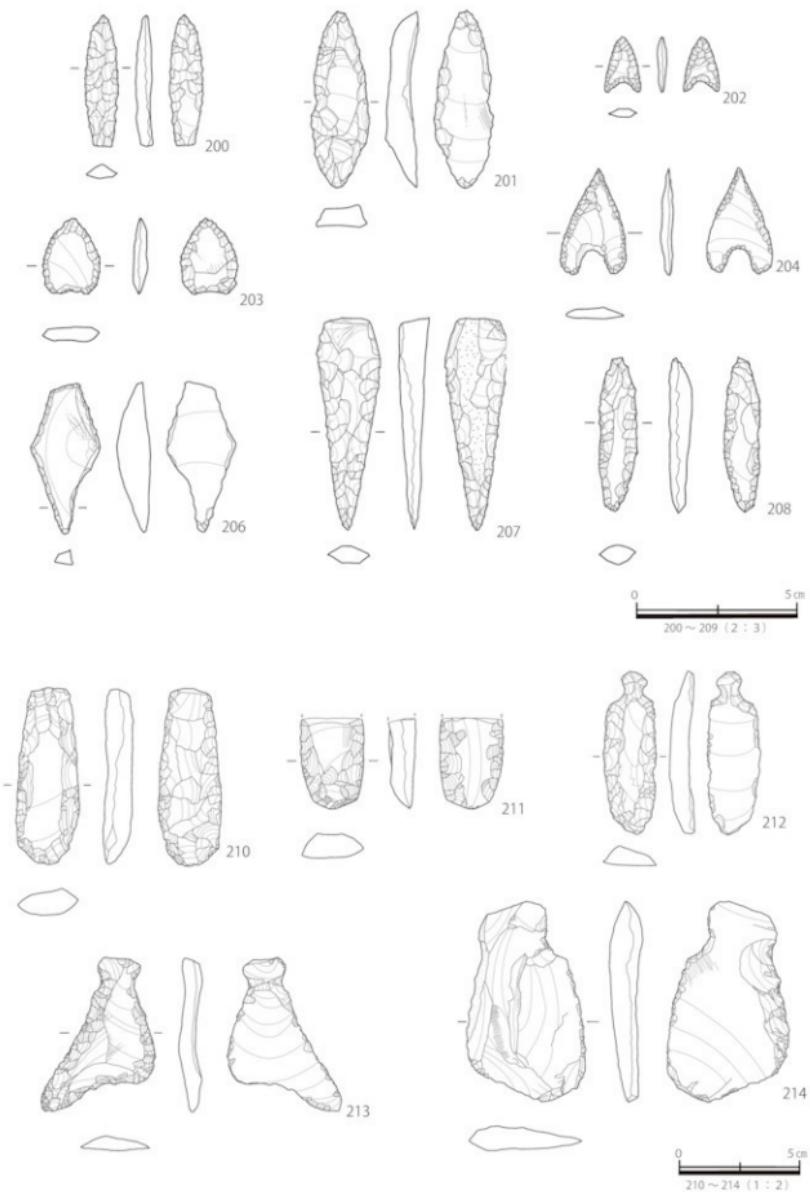
第36図 長岡山遺跡 出土遺物（9）



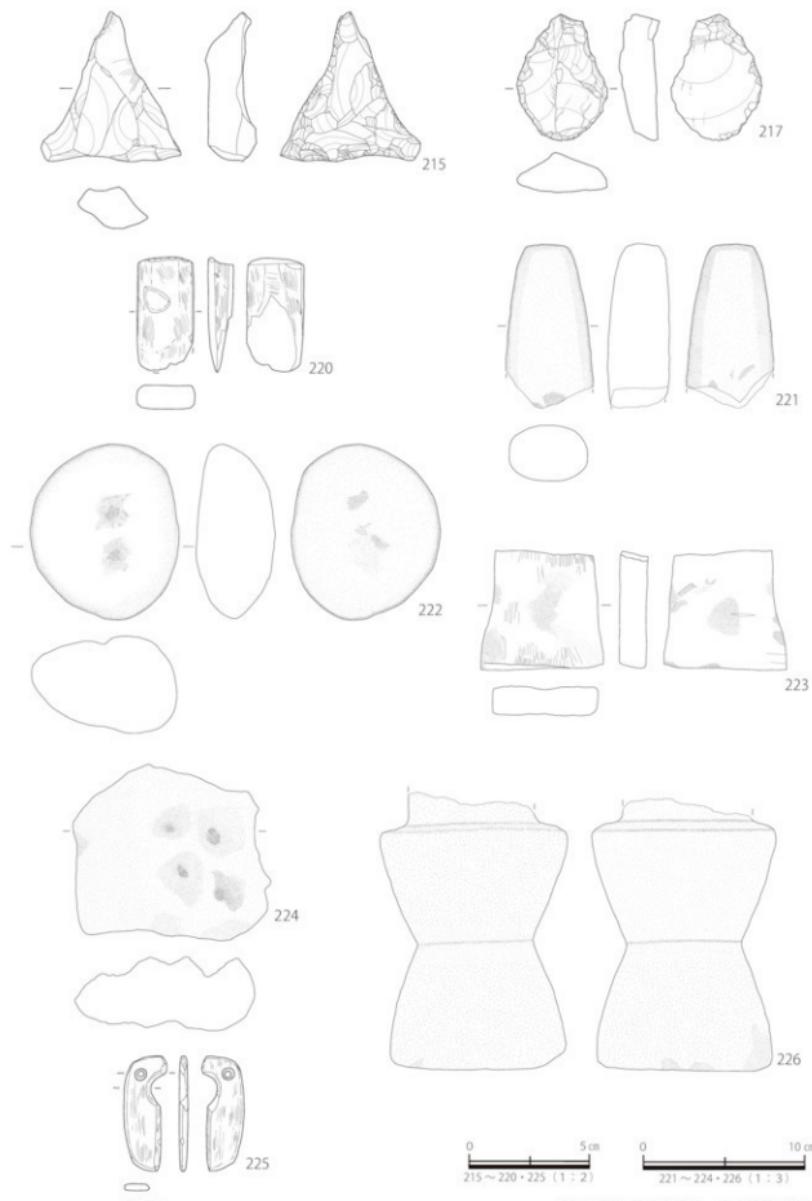
第37図 長岡山遺跡 出土遺物 (10)



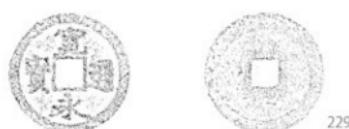
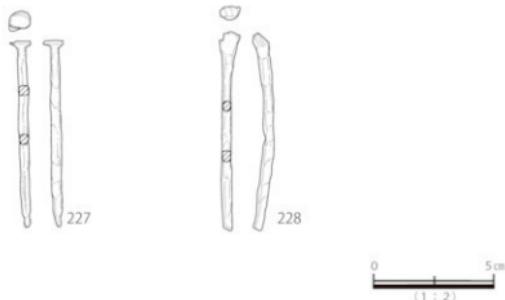
第38図 長岡山遺跡 出土遺物 (11)



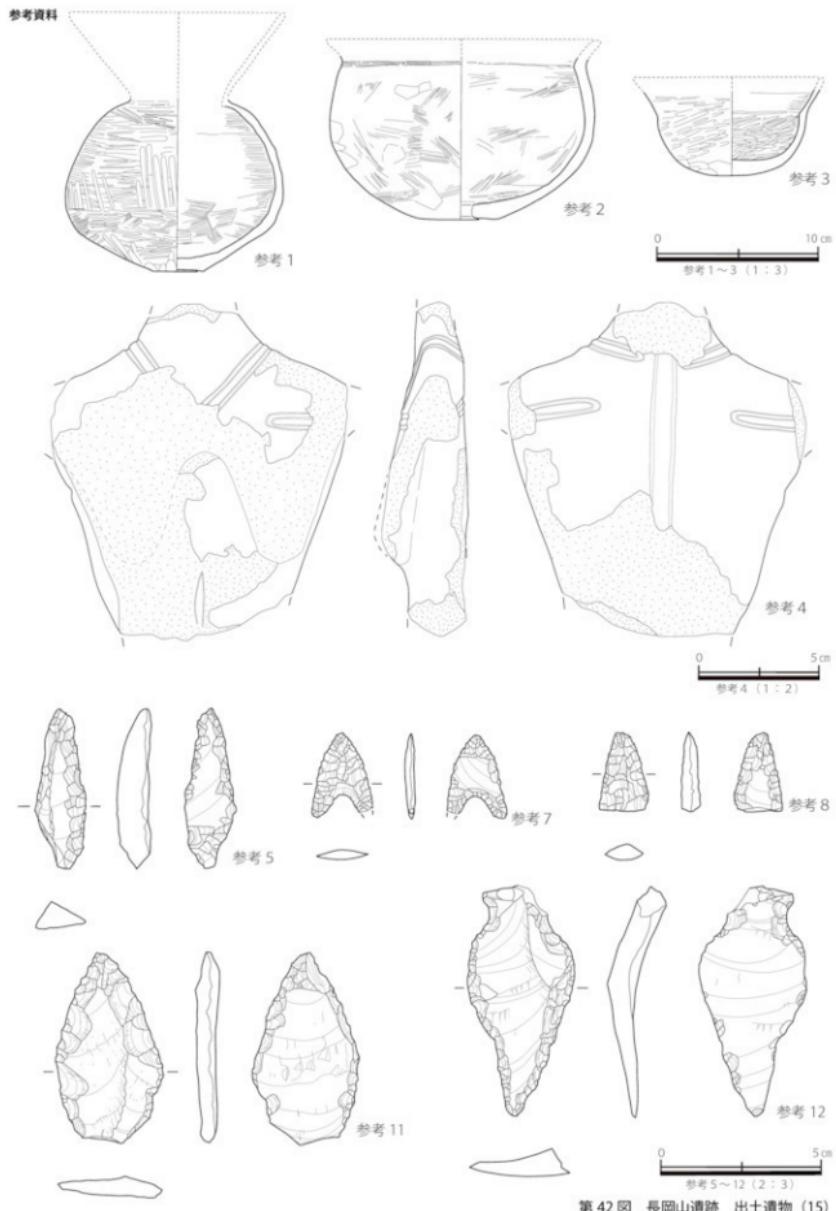
第39図 長岡山遺跡 出土遺物(12)



第40図 長岡山遺跡 出土物(13)

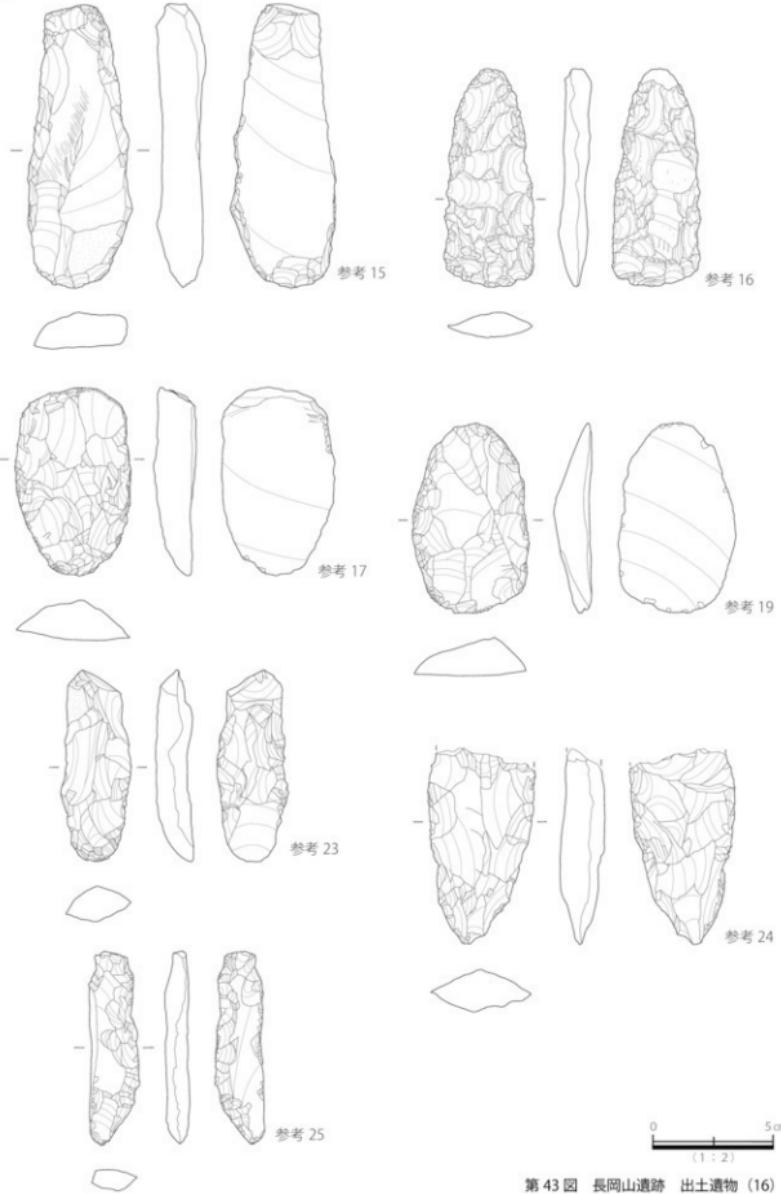


第 41 図 長岡山遺跡 出土遺物 (14)



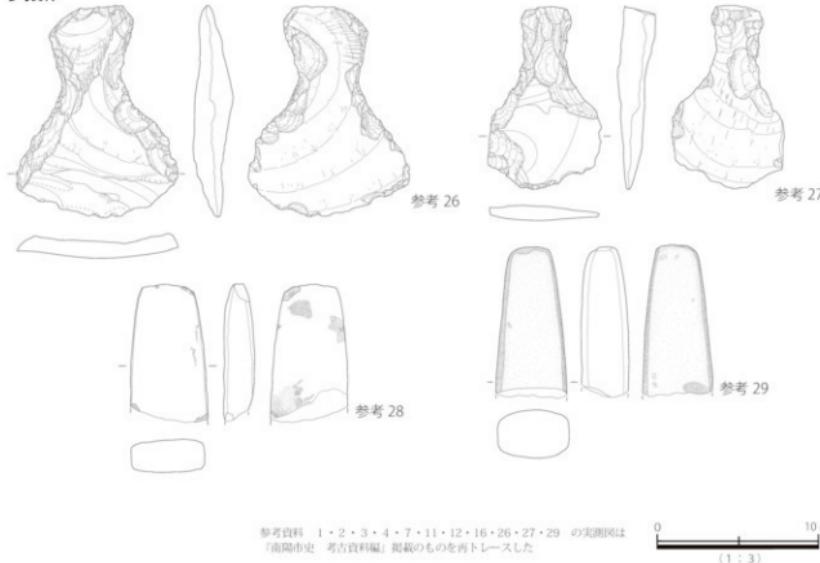
第 42 図 長岡山遺跡 出土遺物 (15)

参考資料



第43図 長岡山遺跡 出土遺物 (16)

参考資料



第44図 長岡山遺跡 出土遺物(17)

3 出土遺物

遺物出土量は試掘調査から第4次調査までを合計して、整理箱86箱となった。今回の調査で出土したものに加え、参考資料として、今までの表掲資料も掲載した。なお、参考資料の中には、記録(実測図)のみが残っているものも含まれる。

(1) 繩文時代

縩文土器

初めに縩文土器の分類について触れる。まず土器形式でローマ数字のⅠ～Ⅷに分類し(群)、更にアルファベットのa～dで器種を分類した(類)。さらに器形、時期、特徴の順で並べ、アラビア数字1～17で細分した。その結果、55種類に分類できた。

遺物のほとんどを占めるのは縩文時代中期の土器であ

り、その中でも主となるのが大木8a式と8b式のものである。接合作業を経て完形となったのはわずかに3点のみで、部分資料が多い。

基本的器種は深鉢と浅鉢であり、その数は深鉢の方が圧倒的多数を占め、キャリバー型となるものが最も多い。大木8a式と8b式で外反する器形が、また8b式で樽型の器形が少なからずみられる。大木8a式土器は、深鉢の口縁部に、立体的な把手や突起などを付して装飾性に富み、米沢盆地の傾向をよく示している。また、内面が人面状になる意匠を施す把手などもある。

第Ⅰ群土器

大木5式に比定されるもので、1点のみ(1)である。細い粘土紐による二重の山形降線文が施されている。

第Ⅱ群土器

大木7a式に比定されるもので4点掲載した。a類

表2 長岡山遺跡 繩文土器分類表

| 分類 | 形式 | 器種 | 器形 | 時期 | 備考 |
|----------|-----------|--------|-------|-----------|-----------------------|
| I | 大木5 | 深鉢 | - | - | - |
| II a 1 | 大木7 a | 深鉢 | - | - | - |
| II a 2 | 大木7 a | 深鉢 | - | - | 口縁部に刻み 脊歯状紋 体部は無紋 |
| II b | 大木7 a～7 b | 浅鉢 | - | - | - |
| III a 1 | 大木7 b | 浅鉢 | - | - | - |
| III b 1 | 大木7 b | 深鉢 | キャリバー | - | 押圧縞文 ×字状モチーフ |
| III b 2 | 大木7 b | 深鉢 | - | - | - |
| III c | 大木7 b | - | - | - | 大波状口縁端部 |
| IV a | 大木8 a | 浅鉢 | - | - | - |
| IV b 1 | 大木8 a | 深鉢 | キャリバー | - | - |
| IV b 2 | 大木8 a | 深鉢 | キャリバー | - | 大型 |
| IV b 3 | 大木8 a | 深鉢 | キャリバー | 古相 | 竪方向に押圧縞文と刻み目 |
| IV b 4 | 大木8 a | 深鉢 | キャリバー | 中～新相 | 口縁部が発達したもの |
| IV b 5 | 大木8 a | 深鉢 | キャリバー | 中～新相 | - |
| IV b 6 | 大木8 a | 深鉢 | キャリバー | 新相 | 波状口縁 |
| IV b 7 | 大木8 a | 深鉢 | キャリバー | 新相 | - |
| IV b 8 | 大木8 a | 深鉢 | 外反 | - | 小型 |
| IV b 9 | 大木8 a | 深鉢 | 外反 | 古相 | 円筒形 |
| IV b 10 | 大木8 a | 深鉢 | - | - | 体部 沈線紋のあるもの |
| IV b 11 | 大木8 a | 深鉢 | - | - | 体部 隆帯の曲折紋のあるもの |
| IV b 12 | 大木8 a | 深鉢 | - | - | 体部 陰沈継紋のあるもの |
| IV b 13 | 大木8 a | 深鉢 | - | - | 底部 |
| IV b 14 | 大木8 a | 深鉢 | - | 新相 | 耳孔付き |
| IV b 15 | 大木8 a | 深鉢 | - | 新相 | - |
| IV c 1 | 大木8 a | - | - | - | 交互側突続のあるもの 体部破片 |
| IV c 2 | 大木8 a | - | 古相 | - | 口縁破片 |
| IV d | 大木8 a～8 b | 深鉢 | - | - | 小型 |
| V a 1 | 大木8 b | 浅鉢 | - | - | (1点赤彩有り) |
| V a 2 | 大木8 b | 浅鉢 | - | - | 口縁に狭い渦巻 |
| V a 3 | 大木8 b | 浅鉢 | - | 新相 | 煮炊きに使ったか? |
| V b 1 | 大木8 b | 深鉢 | キャリバー | - | 口縁部 1カ所に大型の突起 |
| V b 2 | 大木8 b | 深鉢 | キャリバー | - | 大きな取っ手の付くもの |
| V b 3 | 大木8 b | 深鉢 | キャリバー | - | 人面を模した突起 |
| V b 4 | 大木8 b | 深鉢 | キャリバー | 古相 | 渦巻の発達していないもの 繩状の文様が付く |
| V b 5 | 大木8 b | 深鉢 | キャリバー | 中～新相 | - |
| V b 6 | 大木8 b | 深鉢 | キャリバー | 新相 | - |
| V b 7 | 大木8 b | 深鉢 | キャリバー | 9式的直前 | 渦巻が崩れて連結しているもの |
| V b 8 | 大木8 b | 深鉢 | 外反 | 古相 | - |
| V b 9 | 大木8 b | 深鉢 | 外反 | 新相 | - |
| V b 10 | 大木8 b | 槽型 | - | - | - |
| V b 11 | 大木8 b | 槽型 | 古相 | - | - |
| V b 12 | 大木8 b | 槽型 | 新相 | - | - |
| V b 13 | 大木8 b | 深鉢 | - | - | - |
| V b 14 | 大木8 b | 深鉢 | - | - | 底部 |
| V b 15 | 大木8 b | 深鉢 | - | 古相 | 体部破片 |
| V b 16 | 大木8 b | 深鉢 | - | 新相 | 体部破片 |
| V b 17 | 大木8 b | 深鉢 | - | 新相 | 口縁部 |
| V c | 大木8 b | 有孔跨付土器 | - | - | 赤彩有り |
| V d | 大木8 b～9 | 深鉢 | - | - | - |
| VI a 1 | 大木9 | 深鉢 | キャリバー | 古相 | - |
| VI a 2 | 大木9 | 深鉢 | - | 古相(1より古い) | 口縁部 |
| VII | 馬高式 | - | - | - | - |
| VIII a | 中期 | 浅鉢 | - | - | - |
| VIII b 1 | 中期前葉 | 深鉢 | - | - | - |
| VIII b 2 | 中期前葉 | 深鉢 | - | - | - |

は大木7 a式で深鉢が3点（2～4）、b類は7 a～7 bにかけてのもので浅鉢が1点（5）である。2は全体に縄文が施されているが、3と4は某部が膨らむ形で、口縁部に鋸歯状沈線文があるが体部は無文である。5は口縁部に鋸歯状突起があるのみである。

第III群土器

大木7 b式に比定されるもので、4点掲載した。a類の浅鉢（6）は、口縁部に縦位の、また胴部には弧状の押圧縄文で施文されている。b類の深鉢2点（7・8）のうち7は、X字状モチーフの隆帯文がある。c類は器形不明なもので、1点（9）である。口縁部に小波状突起と沈線文がみられる。

第IV群土器

大木8 a式で、99点掲載した。a類の浅鉢3点（10～12）、b類の深鉢はキャリバー型が73点（13～85）、外反する形が5点（86～90）、不明なものが12点（91～102）、c類は器種不明で5点（103～107）、d類は8 a式～8 b式にかけてのもので1点（108）となる。

a類は、差異はあるものの波状のモチーフを用いている。10は突起状に大きく張り出す形で、11は細い隆線を張り付けたもの、12は太い隆帶に刻み目を入れたものとなっている。

b類-1（13・14）は胴部の上方には横位の、下部には縦位の隆線文で施文されている。b類-2（15）は特徴はb類-1と同じ特徴を持つが、先のものに比べて大型である。b類-3（16～50）は押圧縄文と連続刺突文が多くみられるもので、中には17や19などの橋状突起が付くものもある。b類-4（51～71）は口縁部が発達し、大型の立体突起などがみられるものである。51は突起の内側が人面形で、頭頂部は円形の空洞となっている。71は体部破片とともに突起部と思われる破片がまとまって出土したが、接合には至らなかつた。b類-5（72～74）は、口縁部にS字状の立体突起、体部には縄文の上に隆線文で施文されている。b類-6（75～77）は波状口縁の端部である。b類-7（78～85）は8 a式の中でも新しい部類で、立体突起と斜位沈線文が特徴的にみられる。b類-8（90）は小型で、

口縁部に突起があり体部は沈線文で施文されている。b類-9（86～89）は、円筒形となるもので、口縁の一部に刻み目や刺突の入った隆線を貼り付けている。b類-10（91）は体部のみの小片で、縄文に戻手状や区画沈線文がみられる。b類-11（92～98）は隆線もしくは隆帶で体部に曲折や刺先型の文様を施している。b類-12（99）は隆沈線文で施文されているものである。b類-13（100）は底部から体部にかけてのもので、縦位の沈線文で施文されている。b類-14（101）は耳孔つきのもので、ここに木片を差し込んで使用したものと思われる。耳孔の下部にも小穴が開けられている。b類-15（102）は欠けてはいるが、口縁部に立体突起が付くものと思われる。体部は主に隆線文で施文されている。

c類-1（103・104）は交互刺突文が施されたもので、c類-2（105～107）は口縁部の小片で、古相のものである。

d類（108）は大木8 aから8 bにかけてのもので、器高91 mmの小型の深鉢である。口縁部は隆帶文、体部は縦位の沈線文で施文されている。

第V群土器

大木8 b式に比定されるもので、a類の浅鉢7点、b類の深鉢はキャリバー型が32点、外反する形が8点、樽型が10点、不明なものが10点、c類は壺で1点、d類は8 b～9式にかけてのもので1点。合計69点である。

a類の浅鉢（109～115）は、口縁に横位の狭い溝巻隆沈線がある。110は小片であるが、体部にわずかな赤彩の跡が残っている。115は連結橋状突起も併せ持ち、内部に何かが炭化したようなものが残留していた。

b類-1（116）は口縁の1カ所に大型の突起が付くもので、器壁は比較的薄めである。b類-2（117・118）は立体的空洞突起の大きな取っ手が付くタイプである。b類-3（119）は口縁部に大きな突起の付くものであるが、人面を模しているような形状をしている。b類-4（120～128）は渦巻き模様があまり発達していないもので、棘状の装飾がみられる。古相に分類される。b類-5（129～142）は中相から新相にかけての

もので、口縁部を渦巻のある隆帯文で区画し、充填繩文を施している。b類-6（143～145）は新相のもので、143・144はb類-5に類似した形をしているが、145は口縁部の突起から体部にかけて太い隆帯文で渦巻が施されている。b類-7（146・147）は大木9式との変わり目辺りのもので、隆帯の渦巻が崩れ始め、お互いが連結している。b類-8（148～152）は、外反する器形で、古相のものである。体部は繩文と沈線文で施文され、一部に単純突起がみられる。b類-9（153～155）は同じ器形で新相のものである。口縁部の渦巻文と、そこから垂直に施された隆帯文が特徴的で、充填繩文もみられる。154は隆帯部に連続刺突文を施している。b類-10（156～159）・b類-11（160～163）・b類-12（164・165）は樽型となるもので、口縁部に隆帯文で区画がなされ、一部に渦巻文もみられる。157は区画内部に綾杉文があり、体部には隆帯で円と棘状文を組み合わせた图形が描かれている。158や162は口縁の隆帯上に刺突文が施されている。b類-12は他のものに比べて隆帯が低く、器壁と滑らかに接合されている。b類-13（166・167）は、繩文を施した上に隆沈線文で施文した物である。b類-14（168～170）は、底部のみの破片で、文様はb類-13に類似する。b類-15（171・172）は体部のみの破片で、古相のものである。繩文と区画隆沈線文で施文され、171が頭部に連続刺突文が施されている。b類-16（173・174）は同じく体部破片であるが、こちらは新相のもので、連結した渦巻型隆帯文が体部全体を覆っている。b類-17（175）は口縁部のみで橋状立体的空洞突起で装飾されている。

c類（176）は有孔釣付土器で、1点のみの出土である。釣の部分には小さな渦巻文が付けられ、その部分につつおきに垂直方向の孔が穿たれている。孔のある部分からのみ下部に隆帯文が施される。また、釣の部分や体部の隆帯文に赤彩があった痕跡があり、祭祀などの特別な用途に使用されたものではないかと推察される。

d類（177）は大木8bから9式にかけてのものである。

第VI群土器

大木9式のもので、深鉢が3点である。

a類-1（178）はキャリバー型で古相のものである。口縁から体部にかけて、繩文の上に渦巻隆帯文が付加されている。a類-2（179・180）は器形は不明であるが、a類-1より更に古いものとみられる。横位渦巻文で施文されている。

第VII群土器

新潟県の繩文中期中葉に特徴的な火炎土器に類似し、1点のみの出土である。火炎土器は遊佐町でも出土しているが、小国町や米沢市、長井市などでも確認されており、県南部に多く分布する。

第VIII群土器

上記のいずれにも当たらないものと、明確な分類ができないもので、3点ある。182は口縁部に細かい刺目を持ち、その下部に細い隆線の貼り付けが見られる。183は口縁部に先端の尖った三角形の蓮華文のようなものがみられ、北陸の新崎式に比定されるものと思われる。南陽市内では大野平遺跡や宮内小学校敷地内遺跡でも新崎式の土器が出土している（佐藤ほか1987）。184は、結節を持つ繩文で施文されており、体部のみのため詳細は不明だが、この特徴は大木7b式に見られるものである。

線刻土器

185の1点のみの出土である。繩文を施した上から沈線で人体らしきものを描いている。二重のV字は胴体を示し、その上に2本の縦線と半円で頭を表現している。頭部と胴部を分ける横線には、先端に三角の尖頭器らしきものが付き、これが矢や槍を表現しているとも考えられる。だとすれば、これは狩りの様子を描いた狩獵文土器であるという推察ができる。狩獵文土器は、繩文中期末葉から後期前葉にかけて東北と渡島半島に分布するが、その多くは粘土紐貼り付けで描かれており、沈線で表現されているものは珍しい。しかし、破片が小さいため、狩獵文土器の重要な文様要素の一つである動物文が確認できないことから、これが狩獵文土器であるという断定は避けたい。

土製品

土偶が 6 点、円盤状土製品が 1 点、キノコ型土製品が 1 点出土している。

土偶は、192・193 は片足のみで、どちらも横方向の集合沈線をもつ。195 は脚部にアーチ状の降帯を張り付けている。194 は無文で、脚部がわかれていません。196・197 は頭部のみの資料で、196 は口を大きく開けた円形であり、197 は逆三角形で、頭部に 2 カ所の穿孔がある。参考資料 4 は、W 字型の胸部と、首飾りを思わせるような首元の V 字の沈線、背面の背筋を示す凹線などが特徴的である。いずれの土偶も所謂西の前タイプと呼ばれるもので、縄文時代中期初頭から中葉頃のものと考えられる。

石製品

今調査で出土したものは、有舌尖頭器 1 点、槍型尖頭器 1 点、石鑓 4 点、石錐 4 点、箆状石器 2 点、石匙 3 点、三脚石器 2 点、スクレイバー 2 点、磨製石斧 1 点、凹石 1 点、砥石 1 点、蜂の巣石 1 点、玉斧 1 点、玦状耳飾り 1 点、岩偶 1 点である。石材は、多くが珪質頁岩である。

有舌尖頭器（200）は、基部の舌状突起がほとんど発達していない古い形式のものである。

石鑓は 4 点とも無茎鑓で、ハート形のものが 3 点（202・204・204）と、ゆるい五角形のものが 1 点（203）である。いずれも縄文中期から後期にかけてみられる形である。

石錐は長い錐部を持つ 207 と木の葉型の 208、不定形で錐部の短い 206・209 がある。

箆状石器は緑色凝灰岩製の 210 と、上半分が欠損している 211 がある。どちらも、頭部にやや幅があり、刃部が丸くなる。

石匙は、縦型でその左右両辺に刃部を持つもの（212）、側片がカギ型に曲がり、三辺に刃部を持つもの（213）、213 に類似するが、作りの荒いもの（214）がある。

三脚石器（215・216）は東北日本海側に多く見られる石器で用途は不明である。どちらも辺の抉りが緩い三角形である。

磨製石斧は砂岩製で、刃部は欠損している（221）。

凹石は両面に 2 つずつの凹を持っています。片面が滑らかな平面になっていることから、磨り石としても使用されたことがうかがえる（222）。

蜂の巣石は砂岩製で、表面は非常に脆くなっている。大きく 5 つの凹がみられる（224）。

粘板岩製の玉斧（220）は、刃部が欠損している。

緑色凝灰岩製の玦状耳飾り（225）は、上部に穿孔があり、薄く平たい。元は円環であったと思われ、欠損したものに穴を空けて再利用したものであろう。

岩偶は（226）、高さは 171.9 cm で、中央部がくびれた太い砂時計のような形状をしており、頭と思しき部分が欠損している。共伴遺物から縄文中期のものと思われる。これと同じタイプのものが米沢市の台ノ上遺跡から 2 例発見されている（菊地 1997、2006）が、その他の類例に乏しく、おそらく祭祀に使われたものであろうが詳細は不明である。また、台ノ上遺跡の 2 例も頭部は欠損しているため、これらは何かしらの意図をもって頭部を破壊した後に廃棄されたものと考えられる。東北南部では岩偶の出土例はほとんどなく、貴重な事例といえる。

なお、参考資料として掲載した石器は、昭和 10 年に遺跡範囲内に表採された資料である。

鉄製品（古墳時代・中世以降）

2 種類の釘が出土しているが、228 の方は頭が四角く、中世のものと推測できる。もう一方は、それよりも新しい時代の物であろう。その他、寛永通宝が 2 枚出土している。SH53 出土の鉄製品については、白井久美子氏による解説を付編に収録した。

(2) 古墳時代及び古代

古墳時代

古墳時代の遺物について、図化出来た古墳時代の遺物は高杯 186 と台付甕 187 の 2 点である。また 2 点とも遺構外からの出土である。

187 は台付甕の脚部から甕底部とみられ、内外面ともハケメが確認出来るものの被熱による磨滅が顕著である。脚部のみであるが古墳時代前期に属するものといい。

186 は高杯である。脚部と裾部が残存する。脚部は中空で中膨らみの形状である。裾部については三角状の粘土紐で加飾され、形状は大型・扁平で、裾部の端部が面取りされている。脚部から裾部にかけて強く屈曲し、その接合部をみると裾部に穴をあけ脚部を差し込んだ形跡がみられる。表面は磨滅が顕著であるが若干化粧土残存する部分もあり、器壁は肥厚しているものの、胎土・焼成も良好である。それらの特徴から見た場合、4 世紀後半ではないかと推測されるが、山形県内では見られないタイプである。

古墳の周溝の精査がごく一部のみしか行われていないため遺構から出土した遺物はなく、遺構外から 2 点のみの出土である。そのため遺物から遺跡の状況を考察するのは非常に難しいが、2 点とも祭祀に使用される土器であると思われる所以周溝墓あるいは古墳で祭祀の際に使用された古墳時代前期の土器とみられる。

古代

古代の遺物について、図化できたものは 4 点、小型甕 188、支脚 189・190 の 2 点、須恵器環 191、また 4 点ともに遺構外からの出土遺物である。

小型甕 184 は下半部のみ残存している。内外面にクロとハケメ、ケズリの痕跡は若干みられるものの外面は被熱によるとみられる磨滅が顕著である。小型の調理器具として使用されたものとみられる。年代は不明である。

支脚 189・190 はこれまでの山形県内での出土例と比較すると比較的丁寧に輪積み跡が消され、特に 189 は底部円盤からの立ち上り部もナデにより消されている。また器壁も薄めである。2 点ともに天井部の摩擦

による減、体部外面が被熱による磨滅が著しい。山形県内でも支脚は遊佐町東田遺跡など庄内地方北部を中心 10 世紀までの官衙的遺跡などで数例出土しているが（渋谷・吉田 2001）、それらと比較した場合、特に 189 については比較的大型である。年代は不明である。

須恵器環 191 は底部回転系切で、形状から概ね 9 世紀第 1 ~ 2 四半期に属するものとみられる。

遺構からの出土した遺物はなく遺構外出土の遺物のみである。しかし支脚など官衙と関連することの多い遺物が出土していることから、郡山遺跡群の広がりを考慮する上でも重要な遺物となりえるだろう。

4 まとめ

試掘のTP 20・25・26付近から小河川跡とみられる土層が認められた。また、TP 23からも湿地性の土層が見られ、かつて洪水による砂押し、泥よせがあったことが推測される。

旧赤湯園芸高校の校舎が建てられていたところでは、重機によって平面的に地山まで削平されており、表土直下が地山となっていることから、この部分の遺構面及び遺物包含層は削られ失われたものと思われる。

縄文土器型式は、掲載したもののおよそ9割が大木8a・8b式類となっており、その他のものはごく少ないと、新崎式や火炎土器といった北陸系の土器も出土している。南陽市内特に赤湯地区には縄文中期の遺跡が数多くあるものの、本格的な調査がなされているものは少なく、多くの資料からこの地域の縄文中期の土器を体系化できたことは大きな成果である。

昭和62年の稻荷森古墳調査時に、古墳2段目の段築部分から後円部北部の埴籠部にかけて入れたトレンチから縄文時代の竪穴住居跡やフラスコ状土坑が発見されている。遺物は磨製石斧やわずかな縄文土器であるが、口縁部に押圧縄文のある小波状貼り付け降帯文がみられ、その特徴は長岡山遺跡出土の大木8a式古相のものと類似する。のことから、長岡山遺跡の範囲が稻荷森古墳の墳丘部付近まで及んでいたことが考えられる。

土偶などの祭祀遺物がまとめて出土していることや岩偶が出土していること、中期中葉の縄文土器等がまとめて出土していることから、この地域の中核的な集落跡であった可能性が高い。

試掘調査で稻荷森古墳の東側に隣接して設置したTT1の調査結果から、長岡山丘陵の地山と稻荷森古墳との切り離しの幅が従来考えられていたよりも広いことが判明した。現地形を見ると、切り離し幅が8m程度で長岡山丘陵に稻荷森古墳が近接するように見えるが、実際は残存する長岡山丘陵の古墳寄りの一帯は新しい盛土が著しいことが判明し、長岡山丘陵の地山と稻荷森古墳の距離は、下場でおよそ18～20m離れることがわかった。

主体部（SH53）については、これに付随する墳丘や周濠等が検出されなかった。これは、たまたま主体部が

窪地に近いところにつくられたため、主体部のみが掘削されずに残ったものと思われる。主体部の大きさからして、古墳の大きさは大規模であったとは考えにくい。

検出された方形周溝墓群については、発掘調査時、山形県内では米沢・寒河江・白鷹の3地点からしか発見されておらず、南陽市内では初の発見で、稀少な遺構であるとされた。また、同じ丘陵に「大型古墳」と「4世紀代の鉄器が検出された主体部」と「方形周溝墓」が存在するのは、東北でも珍しく、この遺跡の大きな特徴といえよう。

長岡山遺跡方形周溝墓について

南陽市内における発掘調査により発見された平地型の周溝墓ないし古墳は現在まで調訪前遺跡（渋谷1986）で2基、楨木場一遺跡（高橋敏1988）で1基、大塚遺跡（氏家・吉田2007）で15基、中落合遺跡（氏家・高桑2008）で1基、天王遺跡（高橋一・小林2010）で3基である。これらすべてにおいて主体部の存在は確認されていない。

今回報告する長岡山遺跡第2次調査において、SX23・SD30・SD36・SD5の方形周溝墓とみられる4基の遺構が確認された。調査期間が限定され、実際に精査が行われたのはごく一部であるため成果は僅少であるが、その成果をここでまとめてみたい。

検出された方形周溝墓4基はすべてほぼN-15°～E方向を軸として配置している。また方向軸を同じにするSD50も方形周溝墓の一部である可能性も考えられる。つまりこれらの方形周溝墓は一見形状が異なるが、同一の方向軸という規則性をもって造成されていることがわかる。だが、残念なことにこれら4基の方形周溝墓の新旧関係は、遺構の切合いが不明確なことからわからない。

SD5については南陽市内では典型的な箱型の掘方の周溝を持つ一辺14m方形周溝墓で、4世紀後半に属するとみられる大塚遺跡SH262にその類例を求められ、それと大きく時期は違わないと推測される。SX23とSD30について小規模の方形周溝墓とみられ、一辺約4.5m、溝幅30～50cm程度と小型であり、周溝の開部がごく浅いあるいは陸橋となっている可能性が考えられ

る。この2基に関して遺物の出土もないことから時期は不明としたい。なお、SD5、SD30、SX23の3基にはこれに伴う主体部が確認されなかった。そのため、特にSD5に関しては明確な墳丘が存在した古墳であった可能性が考えられる。

SH53は遺跡および遺構の状況から方向周溝墓の主体部とみられるが、攪乱等により遺構の全体像は不明である。SH53の断面図（第18図）をみると深さ約70cmの半円形の遺構に底部直上に厚く均一な粘質砂層、その上に鉄器が出土したやや薄めで均一な粘質砂層、そして上層はブロック状に覆土が混入している。これを主体部とすれば粘質砂を桿とした割竹形木棺が使用された可能性があるが、実際調査時に木棺は確認されていないためあくまでも推測の域を出ない。SH53は出土遺物から古墳時代前期後半のものと思われるが、遺跡から南南東方向約400mに位置する大型前方後円墳の稻荷森古墳より古いとみられる。

ところで、主体部SH53に伴う周溝の存在が問題となる。位置的に考えればSD36がその周溝となると思われるが、SD36は幅30cm・深さ40cmにも関わらず一辺が14m程度とみられ、隣接するSD5周溝と比較すると幅と深さがごく浅く狭いにも関わらず周溝内の面積がほぼ同規模である。周溝と主体部の方向軸はほぼ一致しているが、主体部は周溝内の南東側の偏った場所に位置する。主体部の深さが周溝よりも深く周溝と主体部の関係からも墳丘が明瞭でない方形周溝墓といえるだろう。米沢盆地において墓坑を作り方形周溝墓として、4世紀代とみられるのは米沢市八幡堂（八幡原No.9）遺跡2・3・4号方形周溝墓あげられるが、これらと比較した場合、SH53・SD36 方形周溝墓はその印象は大きく違う。これららの周溝墓を造成した集団は墓制について異なる系統をもつ可能性があるのではないだろうか。

長岡山遺跡の発掘調査において、古墳時代の遺物はほとんどなく遺構の時期特定は曖昧なものとなった。しかし、南陽市内における古墳時代前期の方形周溝墓の多様性を知る上では好材料をこの調査で得たといえよう。

長岡館について

長岡館は、標高225m、差高6m、長軸270m、短軸40mの不整形の三角形で、三段の曲輪からなる中世の城館跡である。明治時代の字限図では、段々畠状に整地した痕跡として残っていた。赤湯町史には「回りに水掘りの跡」とあるが、現在はそれらしきものはみられない。平成5年に県教育委員会が行った調査では、東側に曲輪の一部が認められた。長岡館は築城者及び築城時期は不詳とされているが、正和2（1313）年頃、のちに伊達家家臣となる湯目肥前守が居住したと伝えられている。



第45図 長岡館略側図（山形県中世城館遺跡調査報告書より）

付記

稻荷森古墳駐車場用地内の発掘は、平成4年10月から11月にかけて、国指定史跡稻荷森古墳整備事業係る長岡山遺跡発掘調査として行われた。

調査区は6.5m×13mで、溝跡2基、ピット5基、土坑2基が検出されている。遺物は整理箱1箱程度で、繩文土器片や石器である。

SK1の土坑は、深さ約70cmほどで、内部に小穴を作っており、逆茂木を立てた落とし穴と考えられる。

SD1には、不定形の小穴が密集していたが、大きさや形状がバラバラで人工的なものとは考え難い。おそらくモグラ穴などの自然にできたものであろう。

表3 長岡山遺跡 繩文土器観察表

| 地図 番号 | 写真 番号 | 区画 | 分類 | 種類 | 器形 | 計測値 (mm) | 口径 底径 高さ | 器高 底径 高さ | 基部 底径 高さ | 文様・地文の特徴 | |
|----------|----------|---------------|-----|------|-------|----------|----------------|--------------------------|------------------------------|----------|---------|
| | | | | | | | | | | 出土地点 | 文様 |
| 1 | 288 | 809 18 | 1 | 788 | - | - | - | - | - | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 2 | 288 | 809 25 II a | 1 | 788 | - | - | (53) | 10 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無紋 | TP8 | |
| 3 | 288 | 809 25 II a 2 | 788 | - | (354) | - | (107) | 7 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無紋 | TP7 | TP8 |
| 4 | - | 809 25 II a 2 | 788 | - | - | - | 8 | 1.144：周縁に乳頭状文。 体部：無紋 | レジナ | | |
| 5 | 288 | 809 18 b | 788 | - | - | - | (71) | 6 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無紋 | レジナ | |
| 6 | 288 | 809 18 a 1 | 788 | - | - | - | (96) | 6 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無紋 | レジナ | |
| 7 | 288 | 809 26 II b 1 | 788 | 牛・矢口 | (232) | - | (193) | 6 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無紋 | TP6 | |
| 8 | 288 | 809 26 II b 2 | 788 | 牛・矢口 | (232) | - | (193) | 6 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無紋 | TP6 | |
| 9 | 288 | 809 26 III b | 788 | - | - | - | (51) | 11 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無紋 | 人蔵坑 | 無地絞 |
| 10 | - | 809 27 IV a | 788 | - | - | - | 6.5 | 1.144：小切妻口縁。 | 4次調査 | プレハブ西斜面 | |
| 11 | - | 809 27 IV a | 788 | - | - | - | 7 | 1.144：小切妻口縁。 | 4次調査 | プレハブ西斜面 | |
| 12 | 288 | 809 27 II a | 788 | - | (262) | - | (57) | 8 | 口縁：周縁に乳頭状文。有目。 | レジナ | |
| 13 | 288 | 809 28 IV b 1 | 788 | 牛・矢口 | (117) | - | (120) | 6 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：LR側文題文。無目。 | 4次調査 | |
| 14 | 288 | 809 18 b 1 | 788 | 牛・矢口 | (117) | - | (105) | 6 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：LR側文題文。無目。 | レジナ | |
| 15 | 298 | 809 19 N b 2 | 788 | 牛・矢口 | (116) | - | (167) | 12 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：LR側文題文。無目。 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 16 | - | 809 27 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 6 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：LR側文題文。無目。 | X.O | |
| 17 | - | 809 27 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 7 | 1.144：小切妻口縁。 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 18 | - | 809 27 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | 6 | 1.144：周縁に乳頭状文。 体部：無地絞 | 4次調査 | プレハブ西斜面 | |
| 19 | - | 809 27 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | 7 | 1.144：周縁に乳頭状文。 体部：無地絞 | 4次調査 | プレハブ西斜面 | |
| 20 | 298 | 809 28 IV b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | (96) | - | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無地絞 | 4次調査 | |
| 21 | - | 809 28 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 7.5 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無地絞 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 22 | 298 | 809 28 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | (113) | 7 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無地絞 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 23 | - | 809 28 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 7.5 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無地絞 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 24 | - | 809 28 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 6.5 | 1.144：周縁に乳頭状文。 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 25 | - | 809 28 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 7 | 1.144：周縁に乳頭状文。 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 26 | - | 809 28 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 5.5 | 口縁：周縁に乳頭状文。 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 27 | - | 809 28 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 7 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無地絞 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 28 | - | 809 28 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | (48) | 5 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無地絞 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 29 | - | 809 28 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 6 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無地絞 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 30 | - | 809 28 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 6 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無地絞 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 31 | - | 809 28 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 7.5 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：無地絞 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 32 | - | 809 28 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 6 | 1.144：周縁に乳頭状文。 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 33 | - | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 7 | 口縁：周縁に乳頭状文。(馬)山形文 | 4次調査 | |
| 34 | - | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 0.5 | 口縁：周縁に乳頭状文。 | 4次調査 | |
| 35 | - | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 7 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：有目 | 4次調査 | |
| 36 | - | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 7 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：有目 | 4次調査 | |
| 37 | - | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 8 | 口縁：周縁に乳頭状文。 | 4次調査 | |
| 38 | - | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 7 | 1.144：周縁に乳頭状文。 | 4次調査 | |
| 39 | - | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 7 | 1.144：周縁に乳頭状文。 | 4次調査 | |
| 40 | - | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 0.5 | 口縁：周縁に乳頭状文。 | 4次調査 | |
| 41 | - | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 8 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：有目 | 4次調査 | |
| 42 | 298 | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | (45) | 6 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：有目 | 4次調査 | |
| 43 | - | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 8 | 口縁：周縁に乳頭状文。 体部：有目 | 4次調査 | |
| 44 | 298 | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | (90) | 7 | 口縁：周縁に乳頭状文。 | 4次調査 | X.O |
| 45 | - | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 7 | 1.144：周縁に乳頭状文。 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |
| 46 | - | 809 29 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 8.5 | 口縁：周縁に乳頭状文。 | 3.5次調査 | |
| 47 | - | 809 30 N b 3 | 788 | 牛・矢口 | - | - | - | 8 | 口縁：周縁に乳頭状文。 | 4次調査 | プレハブ西斜面 |

| 調査場所 | 写真 | 図版 | 分類 | 器種 | 器形 | 口径 | 断面 | 断面 (mm) | 文様・地文の特徴 | |
|------|---------------|--------------|--------|--------|-------|-------|-------|------------------|------------------|----------------|
| | | | | | | | | | 高さ | 底径 |
| 48 | 29.10 | BBK-30 N b 3 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | (78) | 7 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 |
| 49 | 29.10 | BBK-30 N b 3 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | (75) | 5 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 X-0 |
| 50 | 29.10 | BBK-30 N b 3 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | (103) | - | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 |
| 51 | 29.10 | BBK-30 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | (151) | - | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 |
| 52 | BBK-31 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 8 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | TB | |
| 53 | BBK-31 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 8 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 54 | BBK-31 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | (77) | 7.5 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 55 | BBK-31 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 7.5 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 56 | - | BBK-31 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 11 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 |
| 57 | BBK-31 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 6.5 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 58 | - | BBK-31 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 9 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 |
| 59 | BBK-32 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 10 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 60 | BBK-32 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 8 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 61 | BBK-32 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | (114) | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 62 | BBK-32 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | (92) | 12 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 |
| 63 | BBK-32 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 9 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 64 | - | BBK-33 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 10 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 |
| 65 | BBK-33 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 11 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 66 | - | BBK-33 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 6 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 |
| 67 | BBK-33 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 6 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 68 | BBK-34 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 8 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 X-0 | |
| 69 | - | BBK-34 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 7 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 |
| 70 | BBK-34 N b 4 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 6.5 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 71 | BBK-35 N b 5 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | (241) | 10 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 72 | BBK-35 N b 5 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 6.5 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 73 | BBK-35 N b 5 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 7 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 74 | BBK-35 N b 5 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | (101) | 8 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 75 | BBK-36 N b 6 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | (130) | 9 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 76 | BBK-36 N b 6 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | (139) | 9.5 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 77 | BBK-36 N b 6 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | (215) | 7 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 78 | BBK-18 N b 7 | 深鉢 | 手彫りV字- | (200) | - | - | 9 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 3次調査 X-0 |
| 79 | - | BBK-37 N b 7 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 9 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 |
| 80 | BBK-37 N b 7 | 深鉢 | 手彫りV字- | (144) | - | 6 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 81 | BBK-37 N b 7 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 6 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 82 | BBK-37 N b 7 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | (72) | 6 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 83 | BBK-37 N b 7 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 5.5 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 84 | BBK-37 N b 7 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | (70) | 8 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 85 | - | BBK-37 N b 7 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | 7 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 86 | BBK-38 N b 8 | 深鉢 | 手彫りV字- | (133) | - | 7 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 87 | BBK-38 N b 8 | 深鉢 | 手彫りV字- | (295) | - | 6 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | TB | |
| 88 | BBK-38 N b 9 | 深鉢 | 手彫りV字- | (73) | - | 2.5 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 X-0 | |
| 89 | BBK-38 N b 9 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 5.5 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 90 | BBK-38 N b 10 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 7 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 91 | BBK-38 N b 11 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 7.5 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 X-0 | |
| 92 | BBK-38 N b 11 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 9 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 ブレーバ・西側斜面 | |
| 93 | BBK-38 N b 11 | 深鉢 | 手彫りV字- | - | - | 9.5 | 134.0 | 底長約3mm・単孔部は上に膨らむ | 4次調査 X-0 | |

| 地図 | 考文 | 断面 | 断面 | 断面 | 口径 | 底径 | 高さ | 厚さ | 計測値 (mm) | 文様・地文の特徴 |
|------|----------------------------|-----------------|-------|--------|--------|------|------|-------------------|----------------------------|----------------|
| 出土地點 | | | | | | | | | | |
| 95. | 31.80 6589.39 N b 11 | 784 | - | - | (1.35) | 7 | 6.68 | 1.8 | 6589.39 N b 11 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 96. | 31.80 6589.39 N b 11 | 784 | - | - | 8 | 6.68 | 1.8 | 6589.39 N b 11 | 4.次調査 プレーパー削除面 | |
| 97. | 31.80 6589.39 N b 11 | 784 | - | - | (125) | 8 | 6.68 | 1.8 | 6589.39 N b 11 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 98. | 31.80 6589.39 N b 11 | 784 | - | - | (109) | 9 | 6.68 | 1.8 | 6589.39 N b 11 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 99. | 31.80 6589.19 N b 12 | 784 | - | - | (109) | 9 | 6.68 | 1.8 | 6589.19 N b 12 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 100. | 31.80 6589.19 N b 13 | 784 | - | - | (453) | 6 | 3.41 | 0.9 | 31.80 6589.19 N b 13 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 101. | 31.80 6589.19 N b 14 | 784 | - | - | (357) | 8 | 3.41 | 0.9 | 31.80 6589.19 N b 14 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 102. | 31.80 6589.19 N b 15 | 784 | - | - | (880) | 7 | 6.68 | 1.8 | 31.80 6589.19 N b 15 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 103. | 31.80 6589.40 N c 1 | 784 | - | - | - | 9 | 6.68 | 1.8 | 31.80 6589.40 N c 1 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 104. | 31.80 6589.40 N c 1 | 784 | - | - | - | 7.5 | 6.68 | 1.8 | 31.80 6589.40 N c 1 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 105. | 31.80 6589.40 N c 2 | 784 | - | - | (277) | 7 | 6.68 | 1.8 | 31.80 6589.40 N c 2 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 106. | 31.80 6589.40 N c 2 | 784 | - | - | - | 5.5 | 6.68 | 1.8 | 31.80 6589.40 N c 2 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 107. | - | 809.40 N d | - | - | (93) | 91 | 6.5 | 1.8 | 809.40 N d | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 108. | 31.80 6589.40 N d | 784 | - | - | (129) | 10 | 6.68 | 1.8 | 31.80 6589.40 N d | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 109. | 31.80 6589.20 V a 1 | 784 | - | - | (55) | 7 | 6.68 | 1.8 | 31.80 6589.20 V a 1 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 110. | 31.80 6589.19 V a 1 | 784 | - | - | (74) | 7.5 | 6.68 | 1.8 | 31.80 6589.19 V a 1 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 111. | 31.80 6589.41 V a 2 | 784 | - | - | - | 6 | 6.68 | 1.8 | 31.80 6589.41 V a 2 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 112. | - | 809.41 V a 2 | - | - | - | 5 | 6.68 | 1.8 | 809.41 V a 2 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 113. | - | 809.42 V a 2 | - | - | - | 6 | 6.68 | 1.8 | 809.42 V a 2 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 114. | - | 809.42 V a 2 | - | - | - | 5.5 | 6.68 | 1.8 | 809.42 V a 2 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 115. | 32.80 6589.21 V a 3 | 784 | - | - | (260) | 75 | 1.12 | 0.8 | 32.80 6589.21 V a 3 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 116. | 32.80 6589.21 V b 1 | 784 | チャリヨー | -(110) | 3.5 | 1.14 | 0.8 | 1.14 | 32.80 6589.21 V b 1 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 117. | 32.80 6589.43 V b 2 | 784 | チャリヨー | -(153) | 9 | 1.14 | 0.8 | 1.14 | 32.80 6589.43 V b 2 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 118. | - | 809.43 V b 2 | チャリヨー | - | - | 5 | 1.14 | 0.8 | 809.43 V b 2 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 119. | 32.80 6589.20 V b 3 | 784 | チャリヨー | -(259) | 8 | 1.14 | 0.8 | 1.14 | 32.80 6589.20 V b 3 | 4.次調査 X.O |
| 120. | 32.80 6589.22 V b 4 | 784 | チャリヨー | -(166) | 81 | 2.09 | 1.14 | 1.14 | 32.80 6589.22 V b 4 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 121. | 32.80 6589.43 V b 4 | 784 | チャリヨー | -(240) | 61 | 1.14 | 1.14 | 1.14 | 32.80 6589.43 V b 4 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 122. | - | 809.43 V b 4 | 784 | チャリヨー | - | 7 | 1.14 | 1.14 | 809.43 V b 4 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 123. | - | 809.43 V b 4 | 784 | チャリヨー | - | 9 | 1.14 | 1.14 | 809.43 V b 4 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 124. | - | 809.43 V b 4 | 784 | チャリヨー | - | 5 | 1.14 | 1.14 | 809.43 V b 4 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 125. | - | 809.44 V b 4 | 784 | チャリヨー | -(85) | 6 | 1.14 | 1.14 | 809.44 V b 4 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 126. | 33.80 6589.44 V b 4 | 784 | チャリヨー | -(240) | 61 | 1.14 | 1.14 | 1.14 | 33.80 6589.44 V b 4 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 127. | - | 809.44 V b 4 | 784 | チャリヨー | - | 5 | 1.14 | 1.14 | 809.44 V b 4 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 128. | - | 809.44 V b 4 | 784 | チャリヨー | - | 134 | 1.14 | 1.14 | 809.44 V b 4 | 4.次調査 X.O |
| 129. | 33.80 6589.44 V b 5 | 784 | チャリヨー | -(134) | 8 | 1.14 | 1.14 | 1.14 | 33.80 6589.44 V b 5 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 130. | - | 809.44 V b 5 | 784 | チャリヨー | - | 6.5 | 1.14 | 1.14 | 809.44 V b 5 | 4.次調査 X.O |
| 131. | - | 809.44 V b 5 | 784 | チャリヨー | - | 7 | 1.14 | 1.14 | 809.44 V b 5 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 132. | 33.80 6589.44 V b 5 | 784 | チャリヨー | -(55) | 10 | 1.14 | 1.14 | 1.14 | 33.80 6589.44 V b 5 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 133. | - | 809.45 V b 5 | 784 | チャリヨー | - | 6.5 | 1.14 | 1.14 | 809.45 V b 5 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 134. | - | 809.45 V b 5 | 784 | チャリヨー | - | 6 | 1.14 | 1.14 | 809.45 V b 5 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 135. | - | 809.45 V b 5 | 784 | チャリヨー | - | 6 | 1.14 | 1.14 | 809.45 V b 5 | 4.次調査 X.O |
| 136. | - | 809.45 V b 5 | 784 | チャリヨー | - | 7 | 1.14 | 1.14 | 809.45 V b 5 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 137. | 33.80 6589.45 V b 5 | 784 | チャリヨー | -(56) | 4.5 | 1.14 | 1.14 | 1.14 | 33.80 6589.45 V b 5 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 138. | - | 809.45 V b 5 | 784 | チャリヨー | - | 6 | 1.14 | 1.14 | 809.45 V b 5 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 139. | - | 809.45 V b 5 | 784 | チャリヨー | - | 7 | 1.14 | 1.14 | 809.45 V b 5 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 140. | 33.80 6589.46 V b 5 | 784 | チャリヨー | -(56) | 5 | 1.14 | 1.14 | 1.14 | 33.80 6589.46 V b 5 | 4.次調査 プレーパー削除面 |
| 141. | - | 809.46 V b 5 | 784 | チャリヨー | - | 5 | 1.14 | 1.14 | 809.46 V b 5 | 4.次調査 プレーパー削除面 |

| 地図 | 写真 | 分類 | 番号 | 器形 | 計測値 (mm) | 口径 底径 高さ | 基準 | 測量 | 出土地点 |
|------------|----------------|------|---------|----|----------|----------------|---------------------------|---------------------------|--------------|
| 142 - | 8888.46 V b 5 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | - | - | 8 | 口縁：単輪孔・小耳・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 |
| 143 - 33 例 | 8888.46 V b 6 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 11 | 口縁：単輪孔・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | No.19 | |
| 144 - | 8888.46 V b 6 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 7 | 口縁：直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 145 - 33 例 | 8888.22 V b 6 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | TB | |
| 146 - | 8888.47 V b 7 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 147 - 33 例 | 8888.47 V b 7 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 148 - | 8888.47 V b 8 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 149 - 33 例 | 8888.47 V b 8 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 150 - | 8888.48 V b 8 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | X.O. | |
| 151 - | 8888.48 V b 8 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 152 - | 8888.48 V b 8 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | TB | |
| 153 - 34 例 | 8888.48 V b 9 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 154 - | 8888.48 V b 9 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 155 - | 8888.48 V b 9 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | X.O. | |
| 156 - 34 例 | 8888.23 V b 10 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 10 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 157 - 34 例 | 8888.23 V b 10 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (285) | 12 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 158 - | 8888.24 V b 10 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 9 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 159 - | 8888.24 V b 10 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (142) | 10 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 160 - 34 例 | 8888.49 V b 11 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 14 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | No.19 | |
| 161 - | 8888.49 V b 11 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 10 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 162 - 34 例 | 8888.49 V b 11 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (125) | 10 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 163 - | 8888.49 V b 11 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 164 - 30 例 | 8888.24 V b 12 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (171) | 10 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | No.19 | |
| 165 - | 8888.24 V b 12 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 9 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 166 - 35 例 | 8888.24 V b 13 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (151) | 10 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 167 - 35 例 | 8888.25 V b 13 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 8 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 3次調査 X.O. | |
| 168 - 35 例 | 8888.25 V b 14 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (78) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | TB | |
| 169 - | 8888.25 V b 14 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 7 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 170 - | 8888.25 V b 14 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 8 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 171 - 35 例 | 8888.49 V b 15 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 9 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 X.O. | |
| 172 - | 8888.49 V b 15 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 8 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | TB | |
| 173 - 35 例 | 8888.49 V b 16 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (167) | 9 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | No.19 | |
| 174 - 35 例 | 8888.25 V b 16 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (145) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 175 - 35 例 | 8888.25 V b 17 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (235) | 7 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 176 - 36 例 | 8888.23 V c | 2784 | 有孔円付玉 | - | - | (303) | 7 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 |
| 177 - 36 例 | 8888.25 V d | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 8 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 X.O. | |
| 178 - 36 例 | 8888.51 V a 1 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (317) | 10 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | TB | |
| 179 - 35 例 | 8888.50 V a 2 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 7 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | No.19 | |
| 180 - | 8888.50 V a 2 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 6 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 181 - 37 例 | 8888.59 V a 9 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (67) | 5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | 4次調査 プレハブ西斜面 | |
| 182 - 37 例 | 8888.50 V a 9 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (188) | 7 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | T14 | |
| 183 - 37 例 | 8888.50 V b 1 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (58) | 8.5 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | X.O. | |
| 184 - 37 例 | 8888.51 V b 2 | 2784 | 牛・ヤリ(一) | - | (151) | (282) | 8 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | TB |
| 185 - 37 例 | 8888.50 | - | - | - | - | - | 7 | 口縁：直筋足底部直腹文・直筋足底部直腹文・牛頭面文 | TB |

表4 長岡山遺跡 土器（古墳・古代）観察表

| 拂図 番号 | 写真 図版 | 種別 | 器種 | 計測値 (mm) | | | 調整技法 | | | 出土地点 | 備考 | | |
|----------|----------|------|-----|----------|-------|-------|-------|----|---------|---------|-------|--------|----------------------------|
| | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 器厚 | 内面 | 外面 | | | | |
| 186 | 37図 | 図版52 | 土師器 | 高杯 | - | (178) | (100) | 8 | ハケメ | ハケメ | - | No.8 A | 外面部白色粘土 胎土に赤色粘土混入 |
| 187 | 37図 | 図版52 | 土師器 | 台付甕 | - | (100) | (70) | 5 | ハケメ | ハケメ | - | 4次調査 | 火はねによる燒成面有 胎土に赤色粘土・砂粒混入 |
| 188 | 37図 | 図版52 | 土師器 | 甕 | - | 70 | (58) | 5 | ロクロ・ハケメ | ロクロ・ハケメ | 回転系切り | No.3 | 火はねによる燒成面有 胎土に砂粒混入 |
| 189 | 37図 | 図版52 | 土師器 | 支脚 | - | (140) | (150) | 5 | - | ハケメ | - | TP6 | 火はねによる燒成面有 |
| 190 | 37図 | 図版52 | 土師器 | 支脚 | - | 200 | (110) | 5 | ハケメ | 不明 | - | 4次調査 | 火はねによる燒成面有 プレハブ西側斜面 |
| 191 | 37図 | 図版52 | 須恵器 | 环 | (128) | 64 | 42 | 4 | ロクロ | ロクロ | 素切り | X.0 | |
| 参考1 | 42図 | - | 土師器 | 直 | - | 31 | (106) | 6 | ハケメ | ハケメ・ミガキ | - | - | |
| 参考2 | 42図 | - | 土師器 | 甕 | - | 48 | (99) | 6 | ハケメ | ハケメ・ケズリ | - | - | |
| 参考3 | 42図 | - | 土師器 | 环 | - | 24 | (53) | 4 | ミガキ・ナデ | ミガキ・ケズリ | - | - | |

表5 長岡山遺跡 土製品観察表

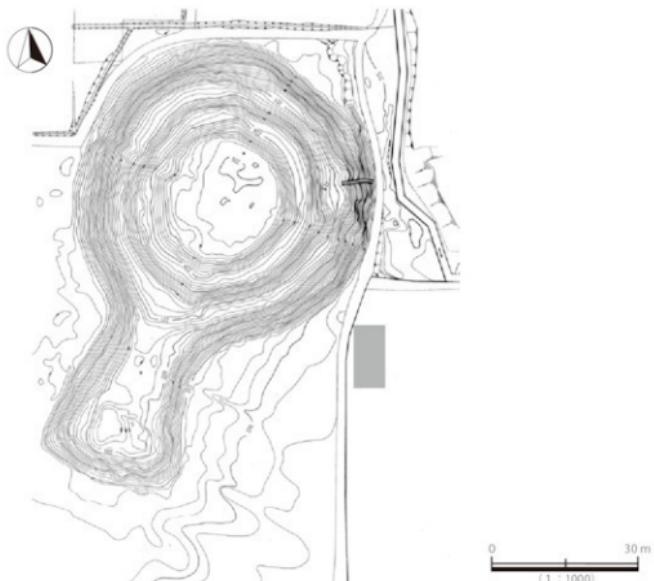
| 拂図 番号 | 写真 図版 | 種別 | 計測値 (mm) | | | 重量 (g) | 出土地点 | 備考 | |
|----------|----------|------|----------|-------|-------|-----------|-------|---------------|-------------|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | | | | |
| 192 | 38図 | 図版53 | 土偶 | 58.9 | 42.1 | 44.8 | 64.0 | 4次調査 X.0 | 脚部片方のみ 中期前半 |
| 193 | 38図 | 図版53 | 土偶 | 95.7 | 49.4 | 35.8 | 134.2 | 4次調査 X.0 | 脚部片方のみ 中期前半 |
| 194 | 38図 | 図版53 | 土偶 | 69.6 | 41.8 | 32.0 | 69.2 | 4次調査 X.0 | 大木7a～8a頃 |
| 195 | 38図 | 図版53 | 土偶 | 54.6 | 66.9 | 24.3 | 62.9 | 4次調査 X.0 | 脚部 中期前半 |
| 196 | 38図 | 図版54 | 土偶 | 41.3 | 34.7 | 18.2 | 19.0 | 3次調査 X.0 | 頭部 中期頃 |
| 197 | 38図 | 図版54 | 土偶 | 30.6 | 24.2 | 25.0 | 14.1 | 3次調査 X.0 | 三角 中期中頃 |
| 198 | 38図 | 図版54 | 円盤状土製品 | 63.4 | 62.0 | 13.3 | 42.3 | 4次調査 プレハブ西側斜面 | 大木8a頃 |
| 199 | 38図 | 図版54 | キノコ型土製品 | 35.6 | 34.4 | 45.9 | 19.9 | TP8 | 中期頃 |
| 参考4 | 42図 | 図版54 | 土偶 | 135.9 | 122.7 | 33.0 | - | X.0 | 大木9頃 |

表6 長岡山遺跡 鉄製品観察表

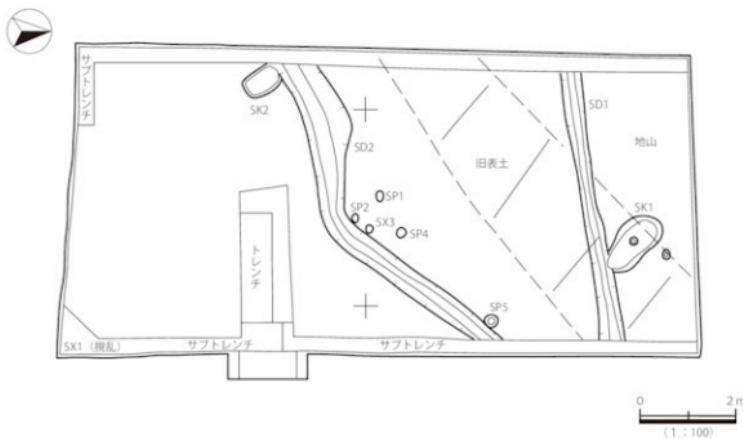
| 拂図 番号 | 写真 図版 | 名称 | 全長 (現長) | 重量 (g) | 出土地点 | 備考 |
|----------|----------|------|------------|-----------|------|-----------|
| 227 | 41図 | 図版63 | 鉄釘 | 76.8 | 4.8 | 4次調査 北区表採 |
| 228 | 41図 | 図版63 | 鉄釘 | 81.9 | 6.1 | 4次調査 SD2 |
| 229 | 41図 | 図版63 | 古鉄 | 25.0 | 3.1 | TT2 寛永通宝 |
| 230 | 41図 | 図版63 | 古鉄 | 25.0 | 2.2 | 寛永通宝 |

表7 長岡山遺跡 石製品観察表

| 番号 | 拂団 番号 | 写真 図版 | 器種 | 計測値 (mm) | | | 重量 (g) | 石材 | 出土地点 | 備考 |
|------|----------|----------|----------|----------|------|-------|-----------|----------|-------------------|----------|
| | | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | | | | |
| 200 | 39 図 | 図版 55 | 有舌尖頭器 | 40.2 | 10.6 | 5.4 | 1.6 | 珪質頁岩 | 4次調査 ブレハブ西側斜面 | |
| 201 | 39 図 | 図版 55 | 楕形尖頭器 | 54.3 | 18.0 | 9.3 | 8.0 | 珪質頁岩 | TP8 | 未成品 |
| 202 | 39 図 | 図版 55 | 石獅 | 16.9 | 11.2 | 2.8 | 0.2 | 珪質頁岩 | TP8 | |
| 203 | 39 図 | 図版 55 | 石獅 | 23.4 | 18.3 | 4.4 | 2.1 | 珪質頁岩 | TP8 | |
| 204 | 39 図 | 図版 55 | 石獅 | 32.9 | 20.6 | 3.4 | 1.9 | 珪質頁岩 | TP8 | |
| 205 | - | 図版 55 | 石獅 | 27.5 | 16.0 | 4.0 | 1.1 | 珪質頁岩 | No.38 西 | |
| 206 | 39 図 | 図版 55 | 石獅 | 46.1 | 21.2 | 9.2 | 8.0 | 珪質頁岩 | TP8 | |
| 207 | 39 図 | 図版 55 | 石獅 | 64.6 | 19.6 | 9.4 | 9.9 | 珪質頁岩 | TP8 | |
| 208 | 39 図 | 図版 55 | 石獅 | 47.0 | 11.1 | 6.9 | 3.1 | 珪質頁岩 | No.37 | |
| 209 | - | 図版 55 | 石獅 | 31.4 | 19.8 | 10.8 | 6.1 | 珪質頁岩 | 4次調査 ブレハブ西側斜面 欠損有 | |
| 210 | 39 図 | 図版 56 | 昆状石器 | 72.0 | 25.7 | 11.2 | 26.8 | 緑色凝灰岩 | 4次調査 ブレハブ西側斜面 | |
| 211 | 39 図 | 図版 56 | 昆状石器 | 37.8 | 25.8 | 11.2 | 5.3 | 珪質頁岩 | TP8 | 欠損有 |
| 212 | 39 図 | 図版 56 | 石匙 | 66.9 | 12.2 | 8.9 | 13.1 | 珪質頁岩 | No.46 SD24 | |
| 213 | 39 図 | 図版 56 | 石匙 | 61.6 | 42.2 | 7.5 | 14.8 | 珪質頁岩 | 橋荷森古墳駐車場 (SD2) | |
| 214 | 39 図 | 図版 56 | 石匙 | 80.2 | 49.4 | 14.3 | 42.1 | 珪質頁岩 | TP14 | |
| 215 | 40 国 | 図版 57 | 三脚石器 | 60.5 | 58.4 | 18.5 | 42.6 | 珪質頁岩 | TP4 | |
| 216 | - | 図版 57 | 三脚石器 | 35.0 | 32.4 | 13.5 | 10.0 | 珪質頁岩 | TP8 | |
| 217 | 40 国 | 図版 57 | エンドスクリュー | 52.4 | 37.6 | 14.2 | 27.9 | 珪質頁岩 | 北東端 X-0 | |
| 218 | - | 図版 57 | スライバー | 53.7 | 35.4 | 9.8 | 15.3 | 珪質頁岩 | No.19 | 未成品 |
| 219 | - | 図版 57 | 未成品 | 61.9 | 30.1 | 7.2 | 15.8 | 鐵石英 | 4次調査 ブレハブ西側斜面 | |
| 220 | 40 国 | 図版 58 | 玉斧 | 46.7 | 24.0 | 11.4 | 18.7 | 粘板岩 | No.19 | |
| 221 | 40 国 | 図版 58 | 磨製石斧 | 103.3 | 52.0 | 36.2 | 332.0 | 砂岩 (繊粒) | X-0 | |
| 222 | 40 国 | 図版 58 | 門石・磨石 | 104.0 | 92.1 | 58.0 | 598.0 | ひん岩 | X-0 | |
| 223 | 40 国 | 図版 58 | 砾石 | 73.0 | 76.5 | 17.8 | 156.5 | 砂岩 | TP7 | |
| 224 | 40 国 | 図版 58 | 鰐の巣石 | 118.2 | 99.9 | 45.7 | 612.0 | 砂岩 | No.20 | |
| 225 | 40 国 | 図版 59 | 块状山飾り | 47.7 | 16.8 | 3.6 | 3.9 | 緑色凝灰岩 | No.14 | |
| 226 | 40 国 | 図版 59 | 弓劍 | 171.9 | 117 | 114.4 | 2900 | 安山岩? | 4次調査 ブレハブ西側斜面 | |
| 参考5 | 42 国 | 図版 60 | 尖頭器 | 49.2 | 15.9 | 9.9 | 5.9 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考6 | - | 図版 60 | 尖頭器 | 50.0 | 18.2 | 10.8 | 6.9 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | 先端摩耗している |
| 参考7 | 42 国 | 図版 60 | 石獅 | 24.2 | 18.2 | 3.0 | 0.3 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | 欠損有 |
| 参考8 | 42 国 | 図版 60 | 石獅 | 24.6 | 15.1 | 5.8 | 1.4 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考9 | - | 図版 60 | 石獅 | 25.4 | 14.0 | 3.4 | 0.5 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | 欠損有 |
| 参考10 | - | 図版 60 | 石獅 | 40.1 | 24.5 | 7.8 | 3.9 | 黑色頁岩 | X-0(S.10 採取) | 未成品 |
| 参考11 | 42 国 | 図版 60 | 石獅 | 57.0 | 31.3 | 8.1 | 13.4 | 流紋岩 | X-0(S.10 採取) | 未成品 |
| 参考12 | 42 国 | 図版 60 | 石獅 | 70.0 | 33.3 | 9.5 | 16.1 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考13 | - | 図版 60 | 石獅 | 42.9 | 29.0 | 17.9 | 8.1 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考14 | - | 図版 61 | 昆状石器 | 56.6 | 26.6 | 13.0 | 22.1 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考15 | 43 国 | 図版 61 | 昆状石器 | 117.5 | 42.8 | 18.0 | 109.1 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考16 | 43 国 | 図版 61 | 昆状石器 | 88.7 | 36.8 | 11.8 | 39.8 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考17 | 43 国 | 図版 61 | 昆状石器 | 77.9 | 46.5 | 16.6 | 62.9 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考18 | - | 図版 61 | 昆状石器 | 71.0 | 36.4 | 14.5 | 35.8 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考19 | 43 国 | 図版 61 | 昆状石器 | 77.5 | 48.3 | 14.9 | 51.2 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考20 | - | 図版 61 | 昆状石器 | 64.1 | 30.4 | 19.6 | 36.0 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考21 | - | 図版 61 | 昆状石器 | 65.6 | 28.5 | 11.2 | 20.0 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考22 | - | 図版 61 | 昆状石器 | 61.1 | 40.2 | 14.9 | 35.2 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考23 | 43 国 | 図版 61 | 昆状石器 | 77.7 | 28.6 | 15.1 | 37.8 | 鐵石英 (黄玉) | X-0(S.10 採取) | |
| 参考24 | 43 国 | 図版 61 | 昆状石器 | 80.8 | 43.7 | 16.0 | 58.0 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | 欠損有 |
| 参考25 | 43 国 | 図版 62 | 石獅 | 78.9 | 21.0 | 8.8 | 17.9 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | 未成品 |
| 参考26 | 44 国 | 図版 62 | 打製石斧 | 127.3 | 98.0 | 21.7 | 183.8 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考27 | 44 国 | 図版 62 | 打製石斧 | 111.7 | 68.7 | 20.2 | 106.9 | 珪質頁岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考28 | 44 国 | 図版 62 | 磨製石斧 | 84.9 | 47.4 | 19.8 | 135.5 | 鈍錐岩 | X-0(S.10 採取) | |
| 参考29 | 44 国 | 図版 62 | 磨製石斧 | 91.6 | 45.2 | 28.8 | 231.0 | 安山岩 | X-0(S.10 採取) | |



第46図 長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場用地内 調査区位置図

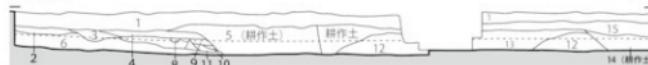


第47図 長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場用地内 遺構配置図

III 長岡山遺跡

東壁

L = 215.346



東壁

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1 10R3/1 黒褐色細砂 粘土混入 しまりややあり (耕作土) | 8 10R2/2 黒褐色粘土 細剝混入 硬くしまる (ビット) |
| 2 10R3/1 黒褐色粘土 細剝混入 しまりややあり (耕作土) | 9 10R3/3 明褐色粘土 細剝混入 しまりややあり (SD2) |
| 3 10R3/2 黒褐色粘土 細剝混入 しまりなし (溝) | 10 10R3/3 明褐色粘土 細剝混入 しまりややあり (砂 40% SD2) |
| 4 10R3/2 黒褐色粘土 細剝混入 しまりややあり | 11 10R2/1 黒色粘土 細剝混入 しまりややあり (SD2) |
| 5 75R3/2 黒褐色粘土 細剝混入 しまりややあり (掘瓦) | 12 10R4/3 5-7 黃褐色細砂 粘土混入 しまりなし |
| 6 10R2/3 黒褐色粘土 細剝混入 硬くしまる | 13 75R3/1 黒褐色粘土 細剝混入 しまりややあり |
| 7 10R3/3 明褐色細砂 粘土混入 しまりややあり | 14 75R3/3 明褐色粘土 細剝混入 しまりややあり (掘瓦) |
| | 15 10R3/3 明褐色粘土 細剝混入 しまりややあり |

西壁

L = 215.451



西壁

- | |
|-----------------------------------|
| 1 75R2/2 黒褐色細砂 粘土混入 (耕作土) |
| 2 10R3/3 暗赤褐色細砂 粘土混入 (耕作土) |
| 3 75R4/4 褐色細砂 粘土混入 しまりややあり |
| 4 75R3/1 黒褐色粘土 細剝混入 しまりややあり (SD2) |
| 5 75R2/2 黒褐色粘土 細剝混入 硬くしまる (II表土) |
| 6 10R2/2 黒褐色粘土 細剝混入 しまりなし (SD1) |

南壁

L = 215.346

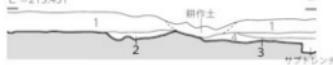


南壁

- | |
|----------------------------------|
| 1 10R3/1 黒褐色粘土 細剝混入 しまりなし |
| 2 10R3/3 明褐色粘土 細剝混入 しまりややあり |
| 3 75R3/3 明褐色粘土 細剝混入 しまりややあり (掘瓦) |
| 4 75R2/2 黒褐色粘土 細剝混入 しまりややあり |
| 5 10R2/1 黑色粘土 細剝混入 しまりややあり |
| 6 10R3/3 明褐色細砂 粘土混入 しまりなし |

北壁

L = 215.451

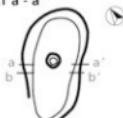


北壁

- | |
|------------------------------|
| 1 10R4/2 灰黄褐色粘土 細剝混入 しまりややあり |
| 2 10R3/2 黒褐色粘土 細剝混入 しまりあり |
| 3 10R2/2 黒褐色粘土 細剝混入 しまりややあり |
| 4 10R3/3 明褐色粘土 細剝混入 しまりあり |

0 2 m
(1 : 100)

SK1 a - a'



0 4 m
(1 : 60)

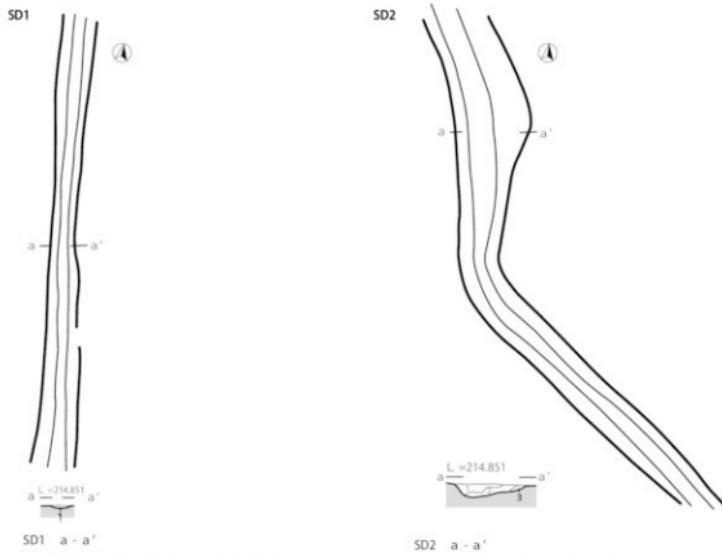
SK1 a - a'

- | |
|--|
| 1 5R3/2 暗赤褐色粘土 細剝混入 しまりあり |
| 2 5R3/1 黒褐色粘土 細剝混入 しまりあり |
| 3 5R3/2 暗赤褐色粘土 細剝混入 しまりややあり |
| 4 5R2/2 黒褐色粘土 細剝混入 しまりややあり |
| 5 5R4/1 灰褐色粘土 (5R4/6 まじり) 細剝混入 しまりややあり |
| 6 5R1/7.1 黑色粘土 細剝混入 しまりややあり |
| 7 5R2/1 黑褐色粘土 (5R4/6 まじり) 細剝混入 しまりややあり |
| 8 5R3/1 黑褐色粘土 (5R4/6 まじり) 細剝混入 しまりややあり |
| 9 10R7/4 にぶく 黄褐色粘土 (10R3/2 まじり) 細剝混入 しまりややあり (地山まじり) |

- | |
|---|
| 10 5R2/2 黒褐色粘土 細剝混入 しまりややあり |
| 11 5R3/2 暗赤褐色粘土 細剝混入 しまりあり |
| 12 75R3/2 黒褐色粘土 (75R5/8 まじり) 細剝混入 しまりあり |
| 13 5R2/1 黑褐色粘土 細剝混入 しまりややあり |
| 14 10R7/4 にぶく 黄褐色粘土 (75R3/1 まじり) 細剝混入 しまりややあり |
| 15 5R3/1 黑褐色粘土 (10R7/4 まじり) 細剝混入 しまりややあり |
| 16 75R3/1 黑褐色粘土 細剝混入 しまりややあり |

第48図 長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場用地内 土層断面図

- SK1 b - b'**
-
- SK1 b - b'**
- 1 5YR3/2 喻赤褐色粘土 細緻混入 しまりややあり
2 a 5YR3/1 黑褐色粘土 細緻混入 しまりややあり
2 b 5YR2/2 黑褐色粘土 細緻混入 しまりややあり
2 c 5YR2/1 黑褐色粘土 細緻混入 しまりややあり
3 a 5YR3/3 喻赤褐色粘土 (GVR4も多くまじる)
細緻混入 しまりややあり
3 b 10YR2/2 黑褐色粘土 細緻混入 しまりややあり
4 75YR3/3 喻褐色粘土 細緻混入 しまりややあり
- 5 10YR2/2 黑褐色粘土 細緻混入 しまりややあり
6 10YR3/3 喻褐色粘土 (2.5YR7/3半分まじる) 細緻混入 しまりややあり
7 10YR2/1 黑褐色粘土 細緻混入 しまりややあり
8 10YR2/1 黑色粘土 細緻混入 しまりやややあり
9 10YR2/2 黑褐色粘土 細緻混入 しまりやややあり
10 7.5YR2/1 黑褐色粘土 細緻混入 しまりやややあり
11 7.5YR2/1 黑色粘土 (7.5YR7/3も多くまじる) 細緻混入 しまりやややあり
12 10YR2/1 黑色粘土 (10YR7/3 30%まじり) 細緻混入 しまりやややあり
13 10YR2/1 黑色粘土 細緻混入 しまりやや
14 地山



第49図 長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場用地内 土層断面図・遺構平面図

IV 長岡山東遺跡

1 遺跡の概要

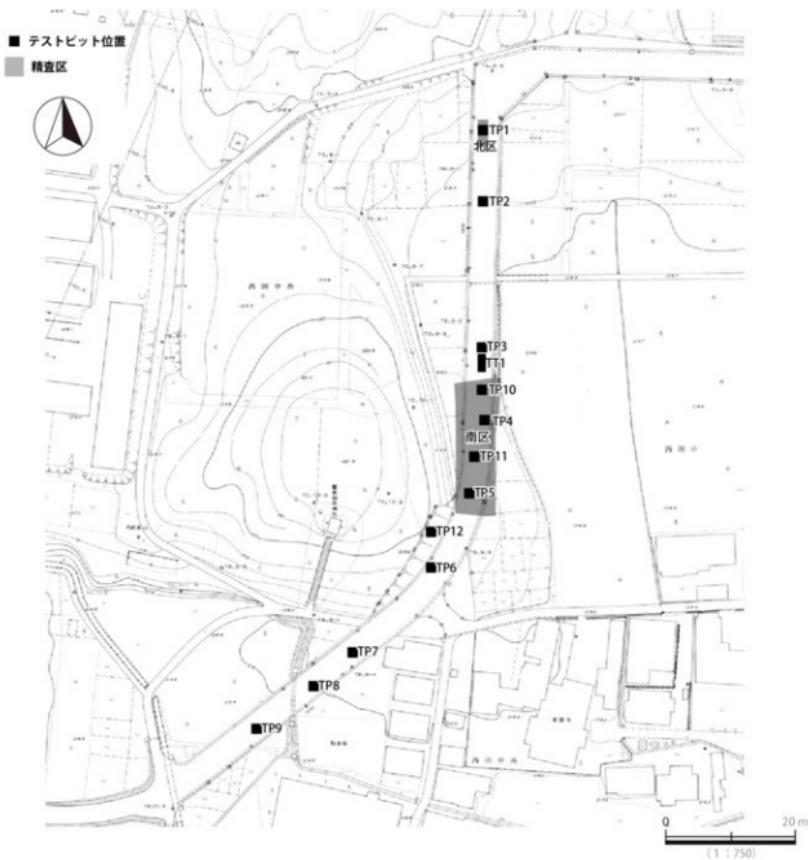
長岡山東遺跡は、長岡山遺跡の東から南側にかけて隣接しており、標高は216mの平地である。遺跡が所在するのは吉野川扇状地内で、吉野川の約500mほど西側である。この周辺には縄文時代から平安時代にかけての多数の遺跡が濃密に分布しており、西側には長岡西田遺跡（縄文中期）、南西には長岡南森遺跡（縄文・古墳・平安）が隣接し、また200m程先には中ノ目下遺跡（奈良・平安）がある。

遺跡範囲は南北に約550m、東西に約200mほどで、現在は宅地や畠として利用されている。今回の調査区は主に農地とされていた場所で、表面下80cmほどが耕

作による擾乱を受けている。長岡山と同じく遺跡の発見は古いらしいが、昭和60年南陽市教育委員会の分布調査によって確認された。この分布調査時に検出された遺物は縄文時代中期の土器や石器、平安時代の土師器や須恵器片であった。試掘調査位置を決める際の表面踏査でも、土師器や須恵器などが多く見つかっている。また、昭和63年には、今調査のTT1の西側に約7mほどの地点から円面鏡（106）が発見されている。



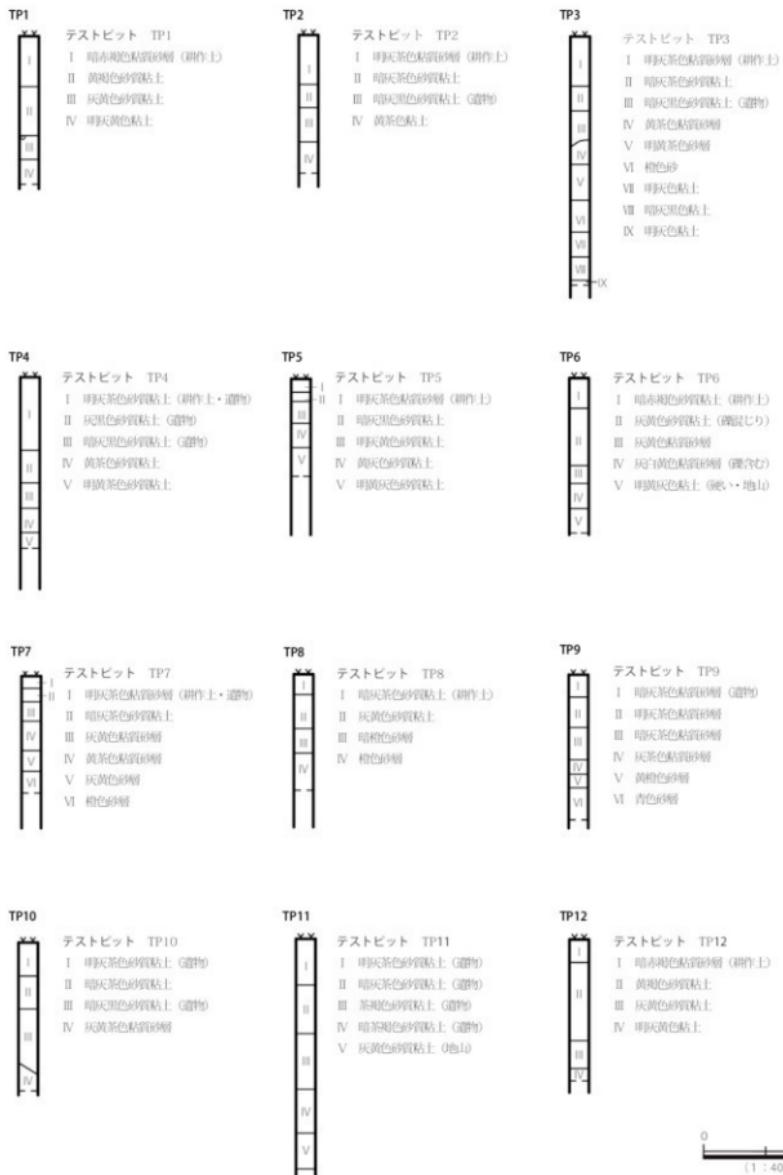
第50図 長岡山遺跡・長岡山東遺跡 遺跡範囲図（調査時）



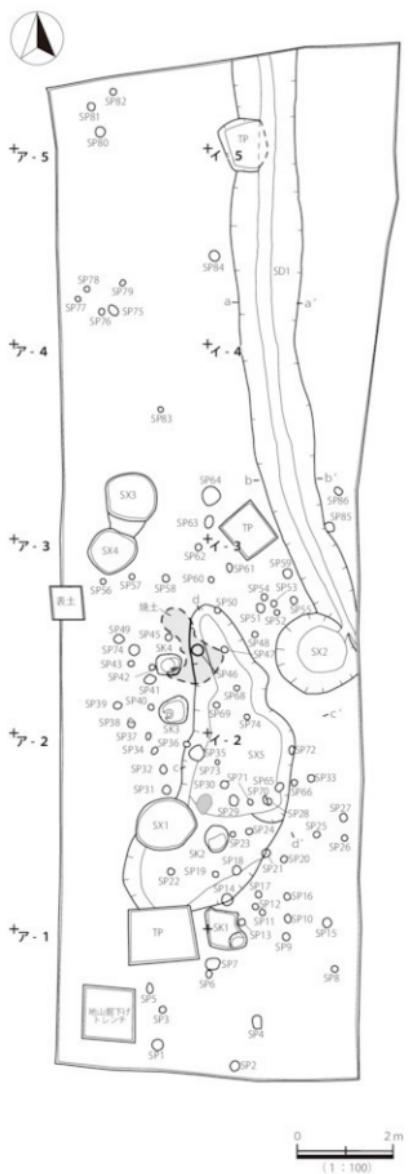
第51図 長岡山東遺跡 調査区 位置図

表8 長岡山東遺跡 繩文土器分類表

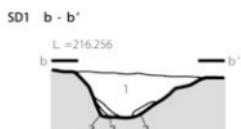
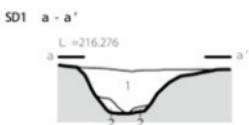
| 分類 | 形 式 | 器種 | 時 期 | 備 考 |
|---------|--------|----|-----|----------------|
| I | 大木7 | 深鉢 | 古相 | 交互刺突紋 |
| II a 1 | 大木7 a | 深鉢 | - | 社方向の沈線間に刺み目はいる |
| II a 2 | 大木7 a | 深鉢 | - | 履方向に棒状の貼り付け |
| III a 1 | 大木7 b | 浅鉢 | 新相 | - |
| III b 1 | 大木7 b | 深鉢 | - | 大波状口縁端部 |
| III b 2 | 大木7 b | 深鉢 | - | 竹管紋 |
| III b 3 | 大木7 b | 深鉢 | 新相 | 隆沈線紋 |
| III b 4 | 大木7 b | 深鉢 | 新相 | 押圧織文 |
| IV a 1 | 大木8 a | 深鉢 | - | 底部 縞代痕 |
| IV a 2 | 大木8 a | 深鉢 | 古相 | - |
| V | 大木9~10 | 浅鉢 | - | - |



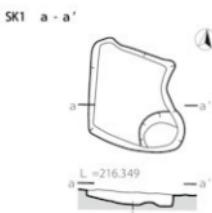
第52図 長岡山東遺跡 テストピット柱状図



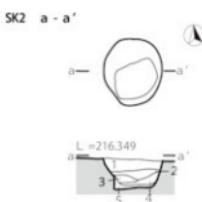
第53図 長岡山東遺跡 南区 遺構配置図



- SD1 a - a' b - b'
- 1 75YR2/1 黒色粘土 細緻鉛混入 しまりなし
 - 2 75YR3/2 黒褐色中砂 粘土混入 しまりややあり
 - 3 75YR3/3 黒褐色中砂 粘土混入 しまりややあり



- SK1 a - a'
- 1 75YR2/1 黒色粘土 細緻鉛混入 しまりなし



- SK2 a - a'
- 1 75YR2/1 黒色粘土 細緻鉛混入 しまりなし
 - 2 75YR3/1 黑褐色粘土 細緻鉛混入 しまりなし
 - 3 75YR2/1 黑褐色粘土 細緻鉛混入 しまりなし
 - 4 75YR2/2 黑褐色粘土 細緻鉛混入 しまりなし
 - 5 75YR2/2 黑褐色粘土 細緻鉛混入 しまりややあり



第54図 長岡山東遺跡 南区 遺構断面図 (1)

SK3 a - a'



SK3 a - a'

- 1 75MR3/2 黒褐色粘土 細緻鉛混入 しまりややあり
- 2 75MR2/1 黒色粘土 細緻鉛混入 しまりややあり
- 3 75R17/1 黒色粘土 細緻鉛混入 しまりなし
- 4 75R2/1 黒色粘土 細緻鉛混入 しまりなし

SK4 a - a'



SK4 a - a'

- 1 75MR3/1 黒褐色粘土 細緻鉛混入 しまりややあり
- 2 75MR2/1 黒色粘土 細緻鉛混入 しまりややあり
- 3 75MR3/1 黒褐色粘土 細緻鉛混入 しまりややあり

SX5 c - c'



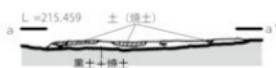
SX5 d - d'



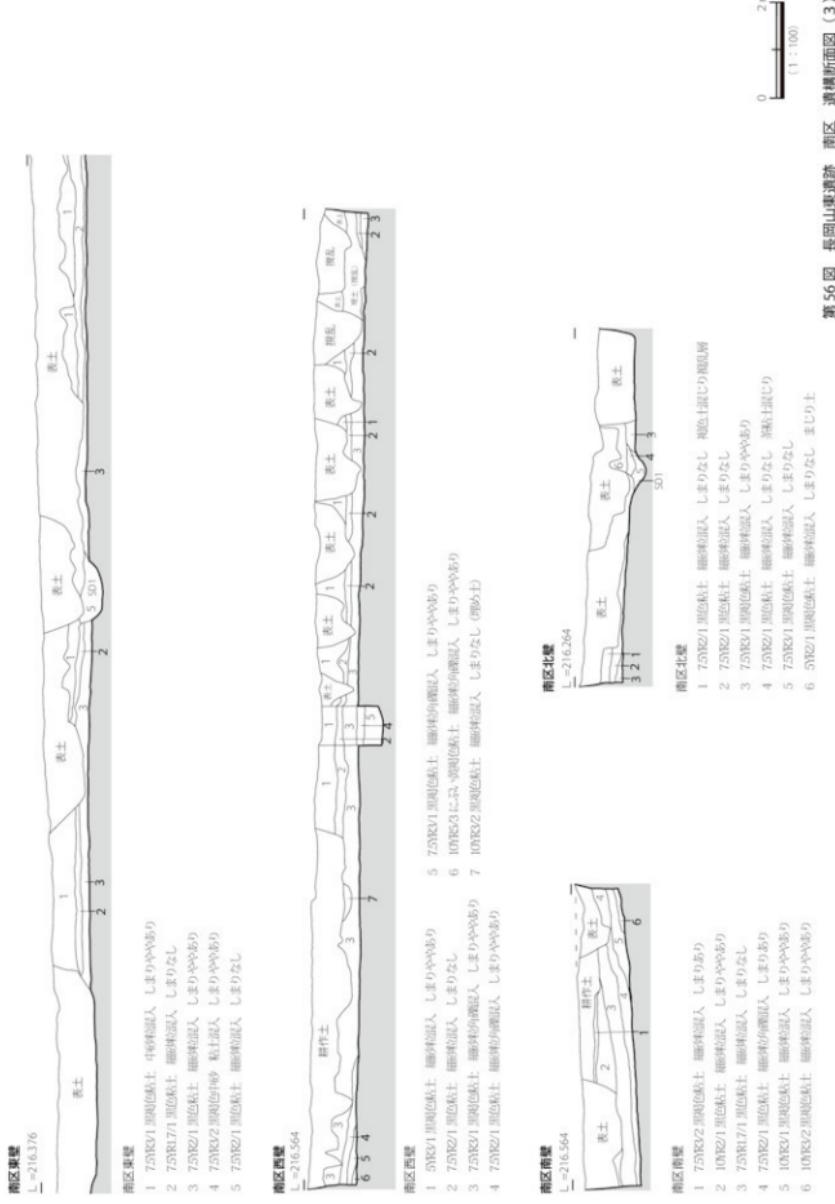
SX5 c - c' d - d'

- 1 10MR17/1 黒色粘土 細緻鉛混入 しまりなし
- 2 75MR2/1 黑色粘土 細緻鉛角礫混入 しまりややあり
- 3 10MR3/1 黑褐色粘土 細緻鉛混入 しまりややあり
- 4 10MR2/1 黑色粘土 細緻鉛混入 しまりあり (自然堆積層)

焼土

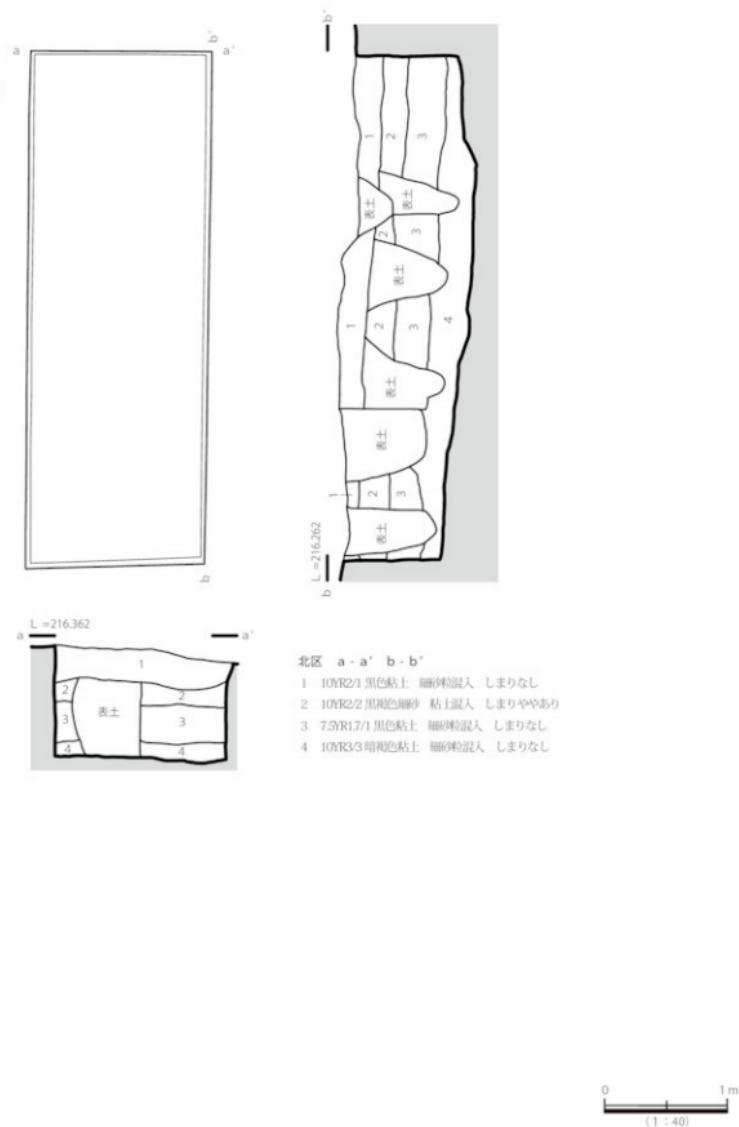


第 55 図 長岡山東遺跡 南区 遺構断面図（2）



第 56 図 長岡山東遺跡 南区 遺構断面図 (3)

北区



第 57 図 長岡山東遺跡 北区 遺構図

2 検出遺構

(1) 検出された遺構

道路工事予定地に沿って 12 カ所のテストピット(TP)を設け試掘を行ったところ、TP1・3・4・10 の地点から柱穴状の遺構が検出された。遺物は新旧雑多に入り混じった状況であり、また表土下 80cm ほどまでは、耕作による搅乱が著しい様子であったが、表土下 1m ほどの層から縄文土器がまとまって出土しており、また土層の乱れも見られなかったことから、これより下の層に遺構が残存しているものと思われる。

この結果から、遺物の多い TP11 周辺を南区、遺構らしきものが確認された TP1 付近を北区として、2 カ所を精査区とすることになった。

南区

南区は約 9 m × 21 m ほどの調査区で、南北方向に幅約 1 m 程の溝(SD1)と、土坑(SK)4 基、性格不明遺構(SX)5 基、ピット(SP)86 個が検出された。北半の基本層序は TP4、南半の基本層序は TP11 と同様である。

SD1 III 層目からの検出で、幅約 1.2 m、深さは 40 cm 弱程度で遺物は各時代のものが混在している。中世陶器片が出土していることから、中世以降のものではないかと思われる。

SK1 短辺約 70 cm 長辺約 85 cm の歪な方形をしている。深さは約 9 cm ほどである。

SK2 直径 55 cm 程のやや梢円気味の円形で、深さは 25 cm である。

SK3 直径約 55 cm ほどの方形に近い円形で、土坑自体の深さは 20 cm ほどである。内部に小ピットを伴うことから、柱穴の可能性を有する。

SK4 長辺 50 cm 程度の丸みを帯びた方形である。深さは 15 cm 程度となる。SK3 と同じく、柱穴の可能性がある。

なお、SK は 4 つとも III 層目からの検出である。

SX1～5 SX1 は 2 層目から、SX2～4 は、1 層目からの検出で、いずれも搅乱と思われる。SX5 は土坑と思われたが、自然の流れ込みの可能性が高く、深さは 10 cm 前後である。

SP 群 SP については、表面から 3 cm 程度掘下げて留め、深堀は行わなかった。これらのピット群は調査区の南北に集中しており、SX5 西側のピット群のように直線的に並んでいるものもある。付近に焼土もあることから、これらが竪穴住居跡の壁柱穴になる可能性もあるが、床面や周溝は確認されておらず、詳細は不明である。

北区

北区は、試掘の時点で遺構らしきものが確認されたため、1.5 × 4.2 m のトレーンチ掘りを行ったが、遺構と思われたものは搅乱であった。縱方向に長く表土が入り込んでいるが、それはこの土地で過去に長芋が栽培されていたためである。

(2) 遺物の出土状況

TP1～4、10・11 の長岡山丘陵東側にあたる場所の表土下約 1 m から、多くの縄文土器が出土した。試掘範囲のほぼ全域から遺物が採取され、表土からは須恵器や土師器の出土が多かった。

南区の遺物は主に、縄文土器は A-2～3 グリッド周辺から、古墳時代・古代の土器は A-6 やイ-2 グリッド付近に多く出土している。遺物の出土量は、縄文土器が大半を占めた長岡山遺跡とは対照的に、古墳～古代の遺物が多くなっている。

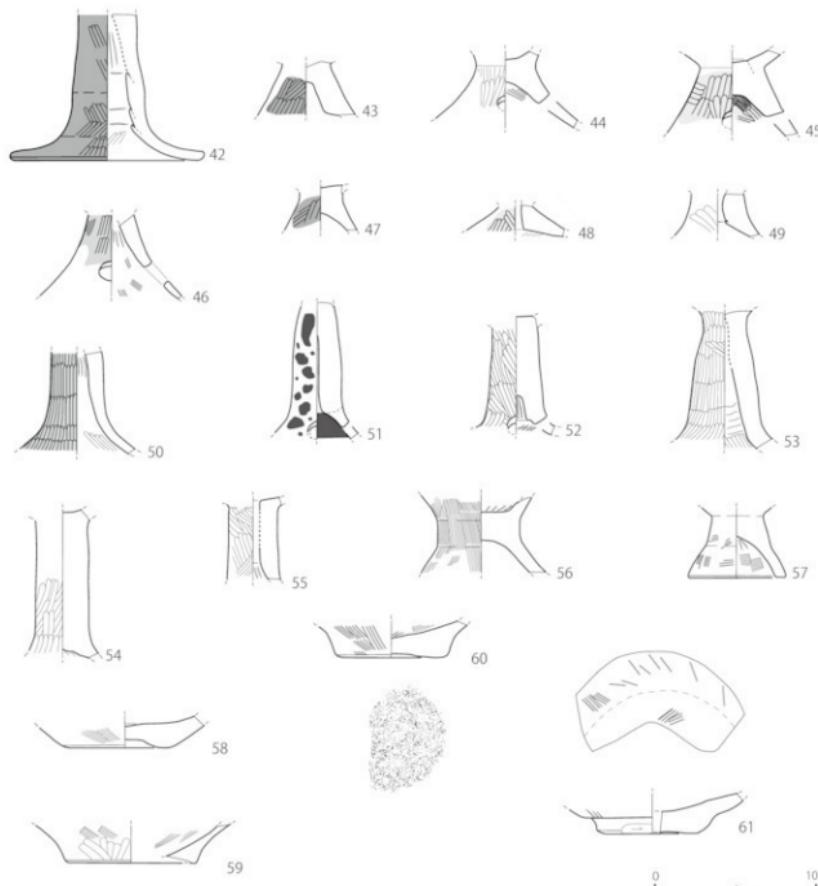
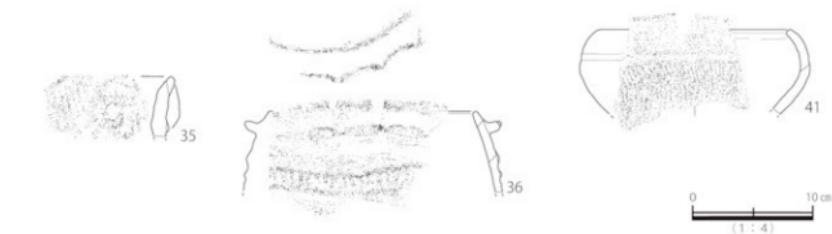
SD1 の遺物は縄文土器、土師器、須恵器、中世陶器等混在している。

北区からも少量ではあるが須恵器が出土しており、双耳环などもみられた。北区は主に搅乱層からの出土である。

1 点のみ出土の土偶は、表土中からの出土であった。

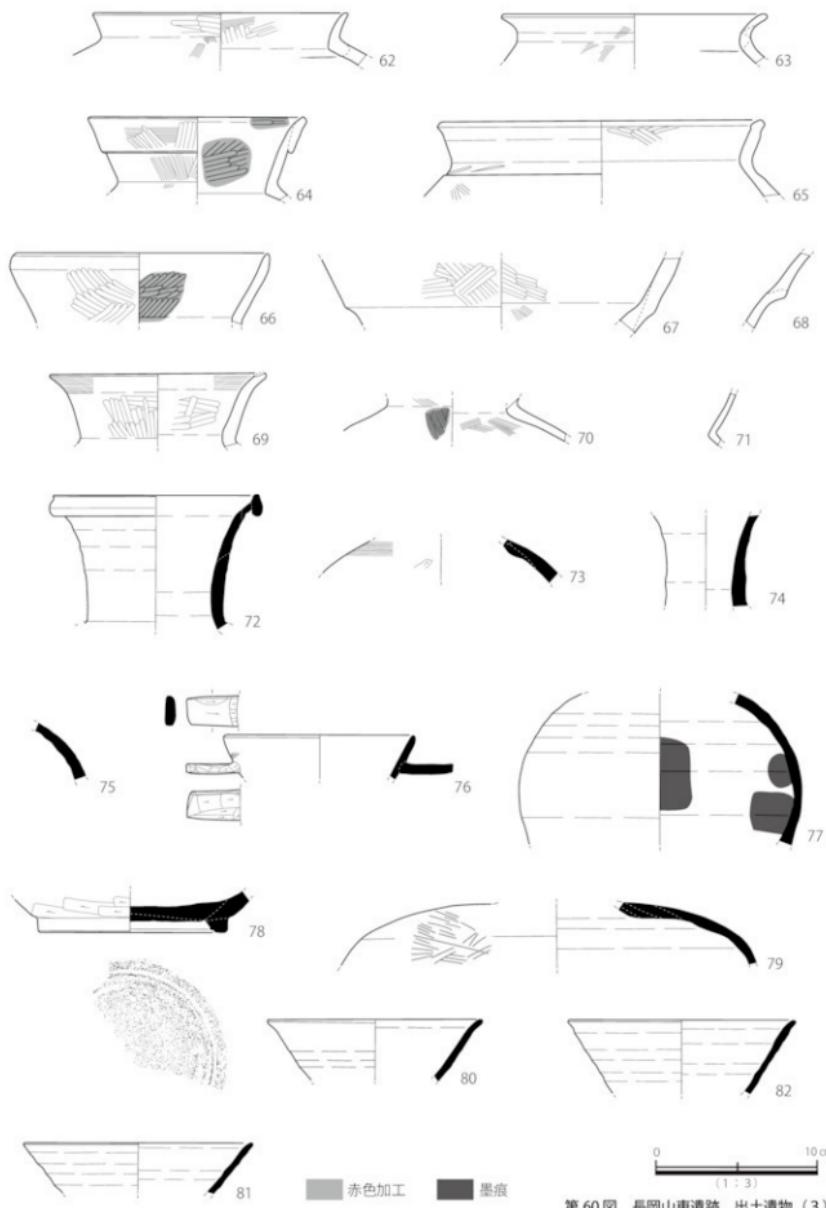


第58図 長岡山東遺跡 出土遺物 (1)

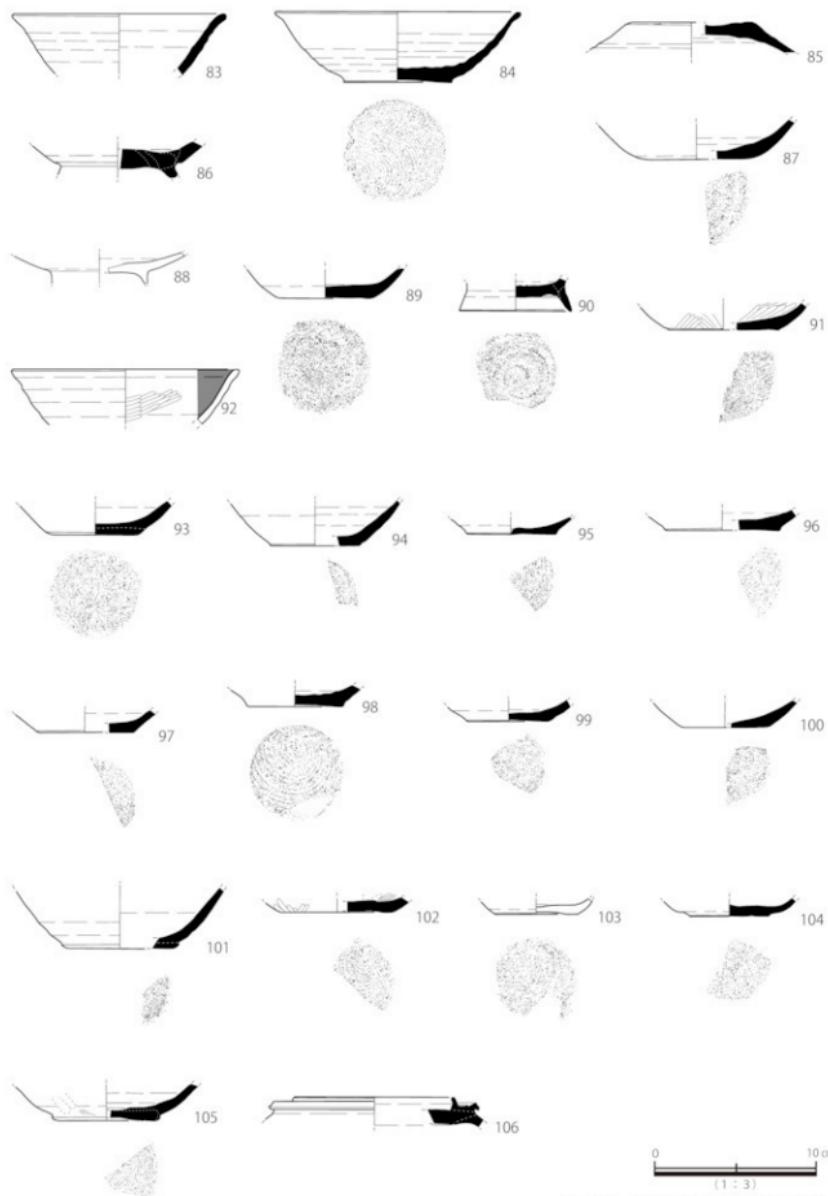


第 59 図 長岡山東遺跡 出土遺物 (2)

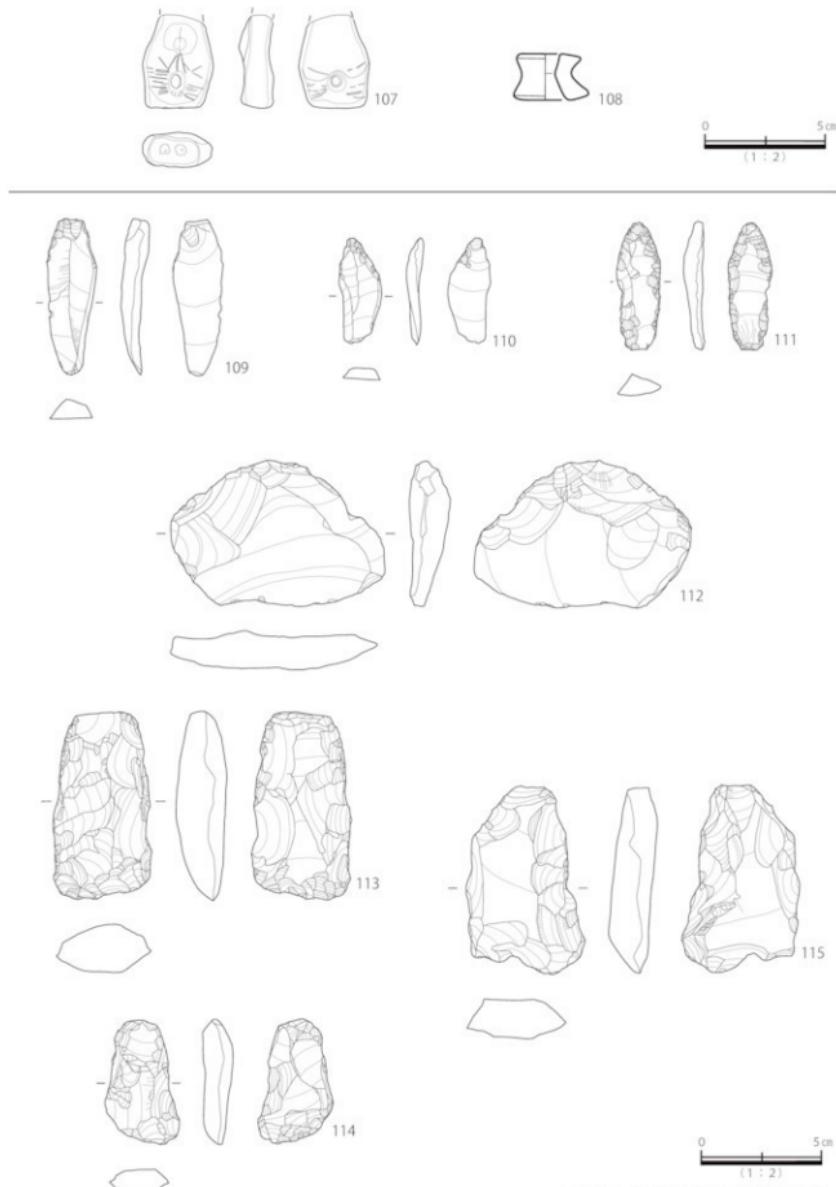
■ 白色粘土貼りつけ ■ 赤色加工 ■ スス



第60図 長岡山東遺跡 出土遺物（3）



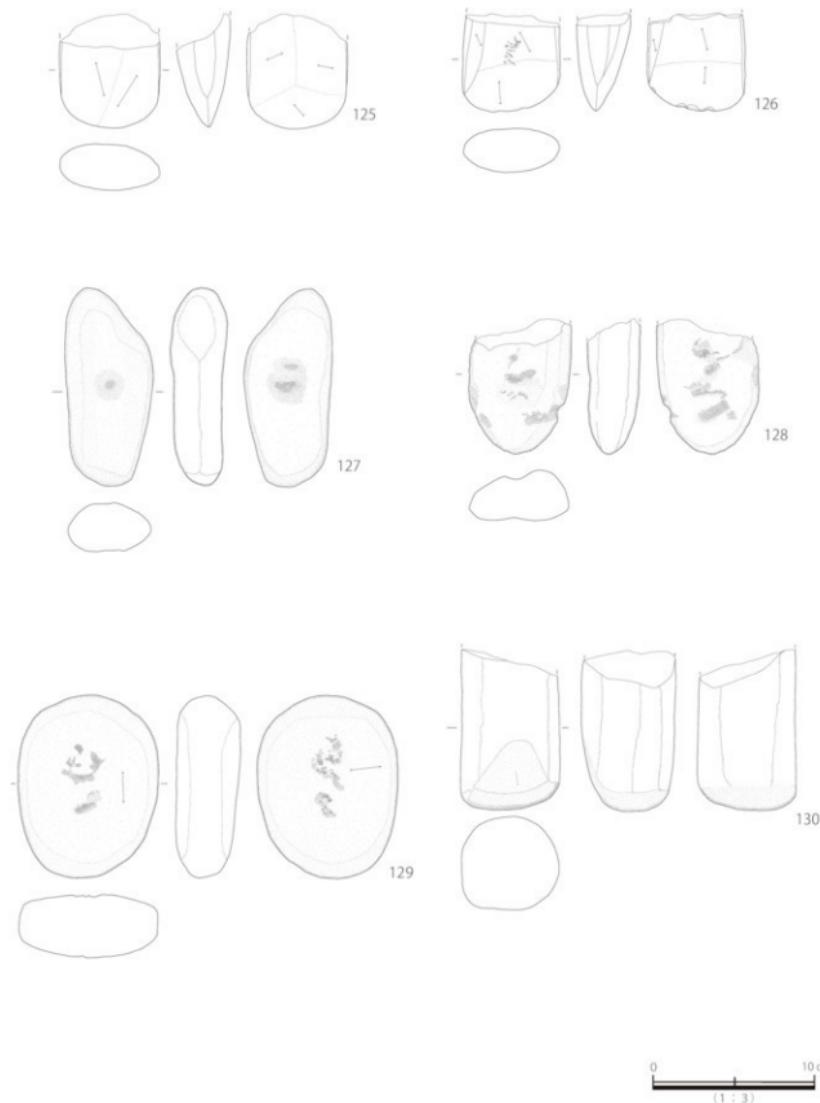
第61図 長岡山東遺跡 出土遺物(4)



第62図 長岡山東遺跡 出土遺物（5）



第 63 図 長岡山東遺跡 出土遺物 (6)



第 64 図 長岡山東遺跡 出土遺物 (7)

3 出土遺物

遺物は、整理箱で25箱となった。内訳は試掘で5箱、本調査で20箱である。

(1) 繩文時代

縄文土器

初めに縄文土器の分類について触れる。形式でローマ数字のI～Vに分類し、更にアルファベットのa・bで器形を分類した。さらに時期や特徴などからアラビア数字1～4で細分した。その結果、11種類に分類できた。

遺物年代は長岡山遺跡よりも若干古く、大木7b式が多くみられ、完形となったものは無かった。全体的に押圧縄文を多用する傾向がみられる。

第Ⅰ群土器

大木7式古相のもので、深鉢が1点出土している(1)。橋状突起のついた口縁部のみのため、器形は不明である。

第Ⅱ群土器

大木7a式で、深鉢が5点である(2～6)。いずれも斜方向の沈線間に刻み目を入れたもので、5・6は太い縦方向の隆帯文がV字状に貼り付けられている。5点とも赤みを帯びた器壁で、器厚も比較的厚い。

第Ⅲ群土器

大木7b式で数が最も多く、a類の浅鉢が3点(7～9)、b類の深鉢が23点である(10～32)。全体的に押圧縄文を多用したものが多くみられる。浅鉢は、全体全体に縄文を施した後に押圧縄文で装飾している。7は口縁部に縦の押圧縄文を施し、1カ所に単純突起を設けている。8も同様で、こちらは突起がS字状である。9は口縁下部一帯に刻み目があり、口縁部は鋸歯状である。10は大波状口縁端部で地文はない。11は竹管による押し引き文で施文され、12は、縄文を施した上から、なんらかの意図をもって円と並行沈線で線刻された跡があるが、破片のため何を表現したものかは不詳である。11と12はともに施文に竹管を用いており、北陸

系に近い特徴を持っている。14～17は、渦巻と縦位の沈線文で施文されている。18～24は、押圧縄文で施文されているグループであるが、20には爪形文もみられる。25～32は、主に沈線で施文されている。25と29は、円状に区切った沈線内部に充填縄文が施されている。28には沈線文のほか刺突文もみられる。

第Ⅳ群土器

大木8a式で、深鉢が8点である(33～40)。これらも、押圧縄文で施文された個体が多くみられる。37は口縁部に刻み目のある隆帯を張り付けて、体部も主に隆帯文と刺突文や沈線文で施文されている。33は底部のみで、網代痕がある。

第Ⅴ群土器

大木9～10式頃のもので、浅鉢が1点である。内湾する口縁部は無文で、体部の最大径となる辺りから下部に縄文が施されている。

土製品

土偶1点(107)と耳栓1点(108)である。土偶は胸部以上が欠損しており、残存している高さが約3.8cm程のごく小さいもので、丸く張り出した腹部が特徴的で中央に細い沈線が刻まれている。底部に二カ所の穿孔がみられた。

耳栓は直径2.5cm程の鼓型である。

石製品

ナイフ形石器が2点(109・110)、槍先型尖頭器が1点(111)、スクレイバーらしきものが1点(112)、笠状石器が5点(113～117)、石匙が1点(119)、三脚石器が2点(120・121)、磨製石斧が2点(125・126)、凹石が3点(127～129)、敲石が1点(130)出土している。

ナイフ形石器は何れも珪質岩製で、旧石器時代のものと推定される。槍先型尖頭器は、木葉型で、基部の突起は見られない。笠状石器は、頭部が幅広く方形に近いものが多い。114は玉髓製である。三脚石器は、長岡

山遺跡のものが三角に近いのに対して、こちらは2点とも抉りが深い三叉状となっている。磨製石斧はどちらも欠損し先端のみとなっている。凹石3点は、内2点(128・129)が表面が滑らかに研磨されており、磨石兼用であったものと思われる。敲石は上部が欠損していた。

(2) 古墳時代及び古代

古墳時代

古墳時代の遺物について、道構出土および道構外出土で団化できたのは器台7点、高环7点、壺・甕類(台付甕を含む)14点である。器台43~49についてすべて4世紀代のものであるとみられる。

器台について、7点すべてにおいて皿部を失っているものの、皿部から脚部にかけての貫通孔の有無で大別することができる。貫通孔有りは46・48・49の3点、貫通孔無しは43・44・45・47の4点である。

48について脚部上半のみの残存であるが、形状からミニチュア土器として制作されたとみられる。46については脚部のみの残存だが透孔を有し、器壁が非常に薄く精選された胎土である。白色化粧土が残存する。49についても脚部上部のみの残存であるが精選された胎土によって作られている。43について脚部上部のみの残存であり、器壁をみると貫通孔有るものと比べると肥厚が目立つ。外面はミガキ調整後赤色加工が施されている。44は脚部のみの残存だが透孔を持つ。やや器壁が肥厚し、表面は磨滅しているものの、ミガキ調整が確認出来る。45も脚部のみが透孔をもち、やや器壁が肥厚している。外面はミガキ調整後白色化粧土が施されている。47は脚部上部のみ残存している。外面はミガキ調整後赤色加工が施されている。先述のとおり器台を貫通孔の有無で分類したが、貫通孔有のグループは古墳時代前期前半(漆町8~9群併行期)、貫通孔無のグループは前期後半(漆町10群併行期)に属するのではないかとみられる。

高环について7点すべて環部を失っているが、残存する脚部および壺部はバリエーションに富んでいる。棒状脚かつほぼ中空脚の52・54、棒状脚かつ中空脚の55、細い中空の空間を持ちやや壺広がりの脚をもつ

51・53、中空脚の42・50、と分類しておく。

中実棒状脚をもつ52について、脚部はやや短めで壺部に透孔を持ち、残存状態から壺部は屈曲して広がるタイプと思われる。外面にはミガキ調整が残る。やや脚部内部には下部から上に向かってへこみがある。54は長めの中実棒状脚部分である。壺部はほとんど失っているが恐らく壺端部まで緩やかに広がるタイプとみられる。

55は棒状の脚部を持つため高环と分類したが、脚部から環部にかけて貫通孔が存在するため器台としての可能性もある。棒状脚部は短く壺部が長く緩やかに広がると想定される。外面はミガキ調整が残る。51はごく細い中空の脚部を持ち、壺部は緩やかに広がる。壺部には透孔が存在する。外面と壺部内部にはススが付着し、外面は磨滅していることから、被熱していると思われる。

53については中空脚を持ち脚部から壺部に屈曲し広がるタイプとみられる。外面はミガキ調整されている。50について中空脚をもつ壺部まで緩やかに広がるタイプである。内外面はミガキ調整され、外面に白色化粧土が塗布されている。42は中空脚を持ち壺部まで緩やかに広がる。壺端部は丸く調整されている。脚部内部は輪積み跡が明確に残っている。外面は赤色加工が施されている。

高环について脚部から壺部にかけての形状ごとに観察を行ったが、その結果50~55については4世紀代、42については5世紀代に属すると思われる。50~55の4世紀代の高环について時期を細分化すると、4世紀前半~中頃(漆町8~9群併行期)に50・51・52・55、後半(漆町10~11群併行期)に53・54が属するのではないかと推測する。

壺・甕類は団化が可能であったものの残存する部位での年代決定が困難なものが多い。小型甕62は頭部から口縁部まで残存する。短い頭部はやや外反し口唇は丸く收まる。頭部は明確な「く」の字を呈している。内外面ともにハケメーミガキ調整が施されている。甕63は短頭ながらも大きく外反し口唇は丸く收まる。頭部内部は平面的に整えられている。壺64は頭部から口縁部までの残存している。折返しの加飾があるがほぼ直行する口縁部を持つ。また鋭角的に「く」の字に折れる頭部を持つ。内外面ともにミガキ調整され、内面には赤色加工が残る。甕65は頭部の形状はやや緩い「く」の字ではあ

るが口唇内部に面取りが施されている。壺 66 は口縁部のみであるが、口唇が希薄になりやや内寄る。磨滅が顕著であるがミガキ調整が残り内側に赤色加工が残る。68 は口縁部破片であるが、複合口縁であることが明確である。70 は頸部から体部のみであるが、器壁は頸部から体部に下がるにつれて希薄になる。内外面がハケメ調整だが外面に赤色加工が残存する。これらの特徴から 62・63・64・65・66・68・70 は 4 世紀に属するものとみられる。56・57 の台付腰脚部についても 4 世紀代のものであろう。なかでも 64・70 についてはその特徴から 4 世紀前半に属する可能性が考えられる。壺 69 は小型壺とみられる。口縁部は緩く外反し、頸部の屈曲もやや緩い。器壁はやや肥厚し、外面にはハケメ→ミガキ調整痕がみられる。これらのことから 69 は 5 世紀代の所産とみられる。

6m × 20m とそれほど大きくはない調査区ではあるが供獻土器を中心とした土器が数多く出土した。特に高壺は脚部のみの出土が多いにもかかわらず様々な特徴を持つものが出土した。ただ脚部から裾部にかけて明確に屈曲する畿内の特徴をもつものは少数派で、脚部から裾部まで緩やかに広がるもののが多数派となっている。古墳時代前期に属するものが殆どであるが、前期前半まで遡るとみられるものも存在する可能性がある。器台については古墳時代前期前半～中頃のグループと、後半のグループに分類できることとみられる。

出土遺物から、この地が祭祀の場として使用されたこと、そして周辺の状況から墓域であった可能性は考えられる。周溝墓が検出された隣接する長岡山遺跡とも無関係ではないであろう。

諏訪前遺跡（渋谷 1986）の周溝墓は南陽市内では最も古いとされているが、出土遺物より漆町 7～8 併行期のではないかとされている（註 1）。南陽市内における周溝墓あるいは古墳の造営順はこれまでの調査で平地型・諏訪前遺跡→丘陵型・蒲生田山古墳群（吉田・山田 2012）→平地型・大塚遺跡（氏家・吉田 2007）・稻荷森古墳（佐藤 2004）とされていた。しかし長岡山周辺の平地に周溝墓あるいは古墳を造営する集団が、丘陵に古墳を造営する集団とは別に古墳時代前期を通して存在した可能性も考えられる。

古代

古代の遺物として須恵器壺（高台付含む）21 点、土器壺（高台付含む）2 点、瓶類 5 点、双耳壺 1 点、円面硯 1 点を図化した。

須恵器壺で底部が残存する 15 点のうち回転ヘラ切底部を持つのは 87 の 1 点のみで残り 14 点は回転系切底部である。また底部を欠損しているものについても、口径に対し底径の小さいとみられるもの、ロクロ目の起伏が目立つものなどが多数を占める。特徴的なのは壺 91・102 で、ロクロ整形後に外面にミガキ調整を行っている。須恵器壺についてはその形状から 9 世紀第 2 四半期～第 4 四半期がその主体を占めているとみられる。また土器壺、黒色土器壺も同様であろう。

須恵器蓋は 85 の 1 点を図化した。形状から 9 世紀第 1 ～ 3 四半期に属すると思われる。

双耳壺 76 について南陽市内では西中上遺跡（氏家・吉田 2007）・西落合遺跡（氏家・高桑 2008）・庚塙遺跡（押切・須賀井 2007）などで出土例がある。おそらく 9 世紀第 1 四半期までに作られたものと思われる。

須恵器の壺・甕類について 7 点図化できた。そのうち 71・74・77・78 が長頸瓶とみられる。瓶 77 は体部のみ残存であるが、内部に墨痕と磨滅の痕があり転用硯として使用した痕跡がみられる。また壺 78 も墨痕は見られないが内部が磨滅していることから何かに転用したと思われる。79 甕（か？）には外面に刃物を研いだとみられる痕跡があり、砥石として代用したものであろう。すべての壺・甕類で年代を特定することは困難であるが、73・77 など体部肩部分の丸みが強いため 9 世紀代に属するものとみられる。

円面硯 106 が 1 点出土している。硯面部の一部のみの出土で、内堤径は推定で約 100 mm と比較的小型である。脚部は欠損しているため文様や窓の有無は不明である。内堤は明確であるが外堤は小型である。南陽市内では沢田遺跡と庚塙遺跡（押切・須賀井 2007）に出土例がある。形状および遺跡の状況から 9 世紀中頃の所産とみられる。

須恵器の壺・甕を中心とした土器の構成で、鍋など日常器となる土器壺などの出土がないことから一般的な集落とは考えづらい。加えて円面硯や転用硯など文字を書く人間の存在を窺わせる遺物にも着目したい。

周辺遺跡と比較した場合、西原東遺跡・西中上遺跡・中落合遺跡の遺物が8世紀第4四半期～9世紀第3四半期であるのに対し、長岡山東遺跡については9世紀第2～4四半期の遺物が主体で、そうであれば使用された時期のずれがみられる。考えられる時期のずれの原因について、8世紀第4四半期から旧吉野川周辺に郡衙の素地となる集落を形成した後、その役割の拡大に伴い東側の長岡山周辺にまで郡衙関連施設の範囲を拡大した可能性があげられるであろう。そして郡衙が道伝遺跡に移転する時期とともに長岡山東遺跡の集落も収縮し、土器の出土も9世紀第4四半期でほぼ途切れる状態になつたのではないだろうか。

註1) 調訪前遺跡報告書中では氏家第II B期、田嶋氏（田嶋2012）は漆町7～8併行間に属するとしている。

4 まとめ

遺物は全体的に、耕作土から年代が混じった状態で出土している。このことから、第II層にかけての表土下約80cmほどが耕作土による搅乱を受けているものと思われる。第III層の遺物は、上部が土師器で、下部および第IV層にかけて縄文土器が出土している。土師器は主にSX5の北東側、縄文土器は南西側に集中している。

遺構は主に第IV層直上の第III層から検出されており、搅乱や性格不明なものを除くと、ピットと焼土のみであるが、遺物の年代から、縄文時代中期の住居跡に関連するものであろうと推察された。少量ではあるが、旧石器時代の遺物も検出されていることから、古くから集落が散在した土地であるといえる。

長岡山遺跡に隣接する当遺跡ではあるが、出土している縄文土器は、一段階古いものである。また、同じ大木7式同土で比較した場合も類似性にいささか欠けており、单一の遺跡であったとは考えにくい。これは、初めは長岡山東遺跡の方にあった集落の中心が、何らかの理由で丘陵部の長岡山遺跡に移っていったことを表してい

るのでないだろうか。また、縄文後期の遺物がないことから、中期末頃に川沿いの狩猟や漁労活動のしやすい地域に移り住んだことが考えられる。

当遺跡西方には長岡西田遺跡があり、大木8式に相当する遺物が表探されている。のことから、この遺跡周辺の広い範囲で、同時期に複数の遺跡が営まれていた（もしくは、広大な集落があった）ことがいえる。

縄文後期から弥生時代にかけての遺物が出土していなかったため、一度は放棄された集落が、稲荷森古墳の造営に伴って再度営まれたものと思われる。稲荷森古墳の造営年代は4世紀後葉とされており、これは出土遺物の年代とも合致する。また、当遺跡の東南側には長岡南森遺跡が存在し、詳細な調査はなされていないが、字限図でみると165m級の前方後円墳になる可能性があり（佐藤2011）、これの造営や祭祀にかかわっていた可能性もありうる。長岡山遺跡にも同様のことが言え、古墳時代前期からこの一帯に大規模な集落が形成されたことが想像される。

その後、周辺の官衙の広がりに伴って、当遺跡を含む長岡山丘陵一帯も、官衙の一部として機能していたのであろうことが推察される。

長岡山遺跡・長岡山東遺跡 参考・引用文献

- 青山博樹 2010 「古墳時代前期の土器編年—仙台平野とその周辺」「北杜一辻秀人先生還暦記念論集」
- 阿部明彦・水口弘美 1999 「山形県の古代土器編年」第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料
- 伊藤邦弘・黒坂宏美 1996 「野新田遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第40集)
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 氏家信行・吉田江美子 2007 「大塚遺跡・西中上遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第158集)
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 氏家信行・志田純子 1998 「白山居遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第53集)
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 氏家信行・高桑弘美 2008 「中落合遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第168集)
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 押切智紀・須賀洋明子 2007 「庚垣遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター第161集)財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 菊地政信 1997 「台ノ上遺跡発掘調査報告書」(米沢市埋蔵文化財調査報告書第55集)米沢市教育委員会
- 菊地政信 2006 「台ノ上遺跡発掘調査報告書」(米沢市埋蔵文化財調査報告書第88集)米沢市教育委員会
- 黒坂雅人 1994 「西ノ前遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第1集)財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 小林達雄・小川忠博 1988 「繩文土器大観3 中期Ⅰ」小学館
- 小林達雄・小川忠博 1989 「繩文土器大観1 草創期・早期・前期」小学館
- 斎野裕修 2008 「狩獵文」『縄文繩文土器』アム・ブローション
- 佐竹桂一・角張淳一ほか 2002 「中川原C遺跡・立泉川遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第98集)
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 佐藤好一・守田益宗ほか 1995 「高柳遺跡」(仙台市文化財調査報告書第190集)仙台市教育委員会
- 佐藤鉄雄 2004 「福井森古墳」『出羽の古墳時代』高志書院
- 佐藤鉄雄ほか 2011 「山形の古墳時代—最上川流域のムラ古墳—」山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
- 佐藤鉄雄・佐藤庄一ほか 1987 「南陽市史考古資料編」南陽市
- 渋谷孝雄 1986 「諏訪前遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財発掘調査報告書第102集)財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 渋谷孝雄ほか 1986 「諏訪前遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財報告書第102集)財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 渋谷純子・吉田江美子 2001 「山形県内出土の製壺土器」『庄内考古学第21号』庄内考古学研究会
- 鶴木道之助 1991 「國錄石器入門辞典」(叢文)柏書房
- 高橋一彦・小林克也 2010 「天王遺跡第1・2・次発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター第186集)
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 高橋敏ほか 1998 「植木場一遺跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第59集)
- 田嶋明人 2011 「古墳確立期土器の広域編年。東日本を対象とした検討(その4)」「西相模考古第20号」西相模考古学研究会
- 田嶋明人 2011 「古墳確立期土器の広域編年。東日本を対象とした検討(その5)」「東生第1号」東日本古墳確立期土器研究会
- 辻秀人 1995 「東北南部における古墳出現期の土器編年その2」『東北大学人文学部論集』歴史学・地理学第27号
- 手塚孝 1986 「上淀川遺跡第3次発掘調査報告書」(米沢市埋蔵文化財調査報告書第15集)米沢市教育委員会
- 手塚孝 1983 「埋蔵文化財調査報告書第9集 二ノ段A遺跡・八幡堂遺跡」(米沢市埋蔵文化財調査報告書第8集)米沢市教育委員会
- 手塚孝 1988 「比丘尼平」(米沢市埋蔵文化財調査報告書第21集)米沢市教育委員会
- 手塚孝 2004 「大西道跡発掘調査報告書」(米沢市埋蔵文化財調査報告書第85集)米沢市教育委員会
- 戸沢充則編 1994 「縄文時代研究辞典」東京堂出版
- 福島雅儀・福田秀夫ほか 2011 「会津縱貫北道路遺跡発掘調査報告書10 桜町遺跡2次」(福島県文化財調査報告書第474号)
- 藤原弘敏ほか 1994 「会津大塚古墳の時代」福島県立博物館
- 山形県教育委員会 1995 「山形県中世城館遺跡調査報告書第1集(霞陽地域)」山形県教育委員会
- 吉田江美子 2008 「山形県内の古墳時代前期土器について」『研究紀要第5号』山形県埋蔵文化財センター
- 吉田江美子・山田拓 2012 「蒲生田山古墳群・総合公園遺跡群発掘調査報告書」(南陽市発掘調査報告書第5集)南陽市教育委員会
- 吉野一郎・茨木光裕 1988 「山形県南陽市 稲荷森古墳—史跡整備に係る昭和63年度発掘調査概報一」(南陽市発掘調査報告書第3集)
- 南陽市教育委員会
- 吉野一郎ほか 1989 「山形県南陽市 稲荷森古墳—史跡整備に係る昭和63年度発掘調査報告書一」(南陽市発掘調査報告書第4集)
- 南陽市教育委員会

表9 長岡山東遺跡 繩文土器観察表

| 排図 番号 | 写真 版 | 分類 | 器種 | 計測値 (mm) | | | 文様・地文の特徴 | 出土地点 |
|----------|---------|-------|---------|----------|-------|---|--|---------|
| | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | |
| 1 | 58 図 | 国版 64 | I | 深鉢 | - | - | (69) 9 口縁部：橋状型突起・交互刺突文 | ア - 3 |
| 2 | 58 図 | 国版 65 | II a 1 | 深鉢 | - | (72) 12 口縁部：加賀区画隠帶文・斜方向の沈線間に刻み目入る | ア - 2・IV | |
| 3 | - | 国版 65 | II a 1 | 深鉢 | - | (83.5) 11 口縁部：加賀区画隠帶文・斜方向の沈線間に刻み目入る | TP-11 | |
| 4 | - | 国版 65 | II a 1 | 深鉢 | - | (83) 10 口縁部：加賀区画隠帶文・斜方向の沈線間に刻み目入る | ア - 1・Ⅲ | |
| 5 | 58 図 | 国版 65 | II a 2 | 深鉢 | - | (82) 11 口縁部：刻み目をもつV字形擬位隠帶文 | ア - 2・Ⅲ | |
| 6 | - | 国版 71 | II a 2 | 深鉢 | - | (79) 12 口縁部：刻み目をもつV字形擬位隠帶文 | ア - 2・IV | |
| 7 | 58 図 | 国版 64 | III a 1 | 浅鉢 | (358) | - | 口縁部：單純突起・弧状押圧縄文 ・擬位押圧縄文 (L.R.) 体部：L.R.繩文擬位軸・連弧状押圧縄文 (L.R.) | ア - 3・Ⅲ |
| 8 | 58 図 | 国版 66 | III a 1 | 浅鉢 | - | (100) 8 口縁部：横位押圧縄文 (L.R.) 体部：横位押圧縄文・連弧状押圧縄文 (L.R.) | ア - 3・Ⅲ | |
| 9 | - | 国版 66 | III a 1 | 浅鉢 | - | (98.5) 9 口縁部：小波状口縁・連続刺突窓をもつ取り付け隠帶文 | ア - 1・Ⅲ | |
| 10 | 58 図 | 国版 64 | III b 1 | 深鉢 | - | (72) 8 口縁部：渾巣隠・沈線文 大波状口縁端部 | X.O | |
| 11 | 58 図 | 国版 66 | III b 2 | 深鉢 | - | (46) 9 口縁部：橋状型突起・押引き竹管文 | X.O | |
| 12 | 58 図 | 国版 66 | III b 2 | 深鉢 | - | (46) 7 体部：並行沈線文 | ア - 3・Ⅲ | |
| 13 | 58 図 | 国版 64 | III b | 深鉢 | - | (57) 7 体部：渾巣隠沈線紋 | SX5ベルト | |
| 14 | 58 図 | 国版 67 | III b 3 | 深鉢 | - | (43) 9 口縁部：連続刺突文 体部：降沈線文 | SX5 | |
| 15 | - | 国版 67 | III b 3 | 深鉢 | - | (50) 8 体部：降沈線文 | ア - 1・Ⅲ | |
| 16 | 58 図 | 国版 67 | III b 3 | 深鉢 | (214) | - | (49) 10 口縁部：渾巣隠沈線紋・充填刺突文 | イ - 2・Ⅲ |
| 17 | - | 国版 67 | III b 3 | 深鉢 | - | (29.5) 7 口縁部：小波状隠線文 | ア - 5・Ⅲ | |
| 18 | 58 図 | 国版 67 | III b 4 | 深鉢 | - | (86) 8 口縁部：擬位押圧縄文 体部：押圧縄文 | ア - 2・Ⅲ | |
| 19 | - | 国版 67 | III b 4 | 深鉢 | - | (66.5) 7 口縁部：隠帶に押圧縄文 | ア - 2・Ⅲ | |
| 20 | - | 国版 67 | III b 4 | 深鉢 | - | (53) 8 体部：押圧縄文・連続刺突文 | ア - 2・Ⅲ | |
| 21 | 58 図 | 国版 67 | III b 4 | 深鉢 | - | (71) 9 体部：押圧縄文 | ア - 3・IV | |
| 22 | - | 国版 67 | III b 4 | 深鉢 | - | (39.5) 7 口縁部：押圧縄文 | ア - 1・Ⅲ | |
| 23 | - | 国版 67 | III b 4 | 深鉢 | - | (66) 7 体部：押圧縄文 | ア - 3・IV | |
| 24 | 58 図 | 国版 67 | III b 4 | 深鉢 | - | (63) 7 体部：隠帶に押圧縄文 | ア - 2・Ⅲ | |
| 25 | 58 図 | 国版 68 | III b 4 | 深鉢 | - | (115) 7 体部：沈線文・充填押圧縄文 | SX5ベルト | |
| 26 | - | 国版 68 | III b 4 | 深鉢 | - | (81.5) 9 体部：沈線文 | ア - 3・Ⅲ | |
| 27 | - | 国版 68 | III b 4 | 深鉢 | - | (50) 10 体部：沈線文 | SX5ベルト | |
| 28 | 58 図 | 国版 68 | III b 4 | 深鉢 | - | (60) 10 体部：単純突起・隠帶に連続刺突文・沈線文 | ア - 3・Ⅲ | |
| 29 | 58 図 | 国版 68 | III b 4 | 深鉢 | - | (72) 8 体部：隠帶文・弧状押圧縄文 | ア - 2・Ⅲ | |
| 30 | - | 国版 68 | III b 4 | 深鉢 | - | (68.5) 9 体部：沈線文・充填押圧縄文 | SX5ベルト | |
| 31 | - | 国版 68 | III b 4 | 深鉢 | - | (47) 9 体部：押圧縄文 | ア - 3・Ⅲ | |
| 32 | - | 国版 68 | III b 4 | 深鉢 | - | (61) 10 口縁部：隠帶に刻み目 体部：歛手状押圧縄文・横位押圧縄文 | SX1 | |
| 33 | 58 図 | 国版 64 | IV a 1 | 深鉢 | - | (12) 12 歐形：網代痕 | ア - 5・Ⅳ | |
| 34 | - | 国版 69 | IV a 2 | 深鉢 | - | (56.5) 7 口縁部：橋状型単純突起・押圧縄文 | X.O | |
| 35 | 59 図 | 国版 69 | IV a 2 | 深鉢 | - | (50) 11 口縁部：単純突起・擬位押圧縄文 | X.O | |
| 36 | 59 図 | 国版 69 | IV a 2 | 深鉢 | (170) | - | (68) 8 口縁部：単純突起・擬位押圧縄文 (L.R.) | ア - 5・Ⅳ |
| 37 | - | 国版 69 | IV a 2 | 深鉢 | - | (72.5) 7 口縁部：横位小波状沈線文に加賀刺突文 体部：指添押圧隠線文・連続刺突文 | X.O | |
| 38 | - | 国版 69 | IV a 2 | 深鉢 | - | (52) 8 体部：L.R.繩文擬位軸・擬位沈線文・小波状擬位沈線文 | ア - 2・Ⅳ | |
| 39 | - | 国版 69 | IV a 2 | 深鉢 | - | (68.5) 9 体部：擬位押圧縄文・渾巣隠・連弧状押圧縄文 | X.O | |
| 40 | - | 国版 69 | IV a 2 | 深鉢 | - | (53) 7 口縁部：小波状隠線文 | ア - 2・Ⅳ | |
| 41 | 59 図 | 国版 64 | V | 浅鉢 | (158) | - | (70) 7 体部：L.R.繩文擬位軸 | SX1 |

表 10 長岡山東遺跡 土器（古墳・古代）観察表

| 排図 番号 | 写真 図版 | 種別 | 器種 | 計測値 (mm) | | | 調整技法 | | 出土地点 | 備考 | | |
|----------|----------|------|------|----------|-------|------------|--------|---------|---------|---------|----------|----------|
| | | | | 口径 | 底深 | 器高 | 器厚 | 内面 | 外側 | | | |
| 42 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 高杯 | - | (120) (90) | 6 | ミガキ | ミガキ | - | X-0 | |
| 43 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 器台 | - | (32) | 15 | - | ミガキ | - | TT1 | |
| 44 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 器台 | - | (47) | 9 | ハケメ | ミガキ | - | イ-6 | |
| 45 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 器台 | - | (52) | 15 | ミガキ+ハケメ | ミガキ | - | イ-2 | |
| 46 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 器台 | - | (52) | 6 | ハケメ | ミガキ | - | イ-2 | |
| 47 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 器台 | - | (28) | 6 | - | ミガキ | - | X-0 | |
| 48 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 器台 | - | (19.5) | 10 | ミガキ | ミガキ | - | TP- | |
| 49 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 器台 | - | (26) | 14 | - | ミガキ | - | TP2 | |
| 50 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 高杯 | - | (63) | 5 | ミガキ | ミガキ | - | ア-5-B | |
| 51 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 高杯 | - | (84) | 15 | - | - | - | イ-2 | |
| 52 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 高杯 | - | (73) | 10 | ハケメ | ミガキ | - | X-0 | |
| 53 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 高杯 | - | (85.5) | 10 | ミガキ | ミガキ | - | 焼成良好 | |
| 54 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 高杯 | - | (90.5) | 36 | ヘラ | ミガキ | - | SD1 | |
| 55 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 高杯 | - | (50) | 10 | - | ミガキ | - | X-0 | |
| 56 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 台付壺 | - | (43) | 8 | - | ハケメ | - | ア-6-B | |
| 57 | 59回 | 回塙70 | 土師器 | 台付壺 | (60) | (43) | 7 | ハケメ | ハケメ | - | ア-6-B | |
| 58 | 59回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | - | (58) | 19 | ハケメ | ハケメ | ケズリ | イ-1-B | |
| 59 | 59回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | (60) | (24) | 4 | ハケメ | ハケメ+ミガキ | ケズリ | イ-6 | |
| 60 | 59回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | - | (66) | 23 | 6 | ハケメ | ハケメ | ケズリ | イ-2 |
| 61 | 59回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | - | (58) | (24.5) | 10 | ハケメ | ハケメ | ケズリ | X-0 |
| 62 | 60回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | (156) | - | (32) | 8 | ミガキ+ハケメ | ミガキ+ハケメ | - | X-0 |
| 63 | 60回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | (164) | - | (30) | 6 | ハケメ | ハケメ | - | TT1 |
| 64 | 60回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | (130) | - | (51) | 6 | ミガキ | ハケメ+ミガキ | - | SD2 |
| 65 | 60回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | - | (47) | 7 | ミガキ | ミガキ | - | イ-2 | |
| 66 | 60回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | (160) | - | (43.5) | 6 | ミガキ | ミガキ | - | イ-3 |
| 67 | 60回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | - | (45.5) | 10 | ハケメ+ミガキ | ハケメ+ミガキ | - | ア-6-B | |
| 68 | 60回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | - | (45) | 7 | - | - | - | 複合(1) | |
| 69 | 60回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | (134) | - | (45) | 7 | ミガキ | ミガキ | - | イ-1 |
| 70 | 60回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | - | (25.5) | 7 | ハケメ | ハケメ | - | SD1 | |
| 71 | 60回 | 回塙71 | 土師器 | 壺 | - | (33) | 4 | - | ハケメ | - | X-0 | |
| 72 | 60回 | 回塙72 | 須恵器 | 長頸瓶 | (130) | - | (83) | 6 | ロクロ | ロクロ | - | ア-23(B区) |
| 73 | 60回 | 回塙72 | 須恵器 | 小瓶 | - | (20) | 6 | ロクロ | ケズリ+カキメ | - | SD1 | |
| 74 | 60回 | 回塙72 | 須恵器 | 長頸瓶 | - | (56) | 6 | ロクロ | ロクロ | - | SD1 | |
| 75 | 60回 | 回塙72 | 須恵器 | 小瓶 | - | (34) | 5 | ロクロ | ロクロ | - | イ-3 | |
| 76 | 60回 | 回塙72 | 須恵器 | 双耳瓶 | (118) | - | (27) | 4 | ロクロ | ロクロ+ケズリ | - | ア-23(B区) |
| 77 | 60回 | 回塙72 | 須恵器 | 長頸瓶 | - | (97) | 7 | ロクロ | ロクロ | - | SD1 | |
| 78 | 60回 | 回塙72 | 須恵器 | 長頸瓶 | (114) | (25) | 8 | ロクロ | ケズリ | 高台 | イ-3 | |
| 79 | 60回 | 回塙72 | 須恵器 | 壺 | - | (38.5) | 6 | ロクロ | ロクロ | - | IP2 | |
| 80 | 60回 | 回塙73 | 須恵器 | 壺 | (132) | - | (55) | 4 | ロクロ | ロクロ | - | イ-3 |
| 81 | 60回 | 回塙73 | 須恵器 | 壺 | (142) | - | (31) | 3 | ロクロ | ロクロ | - | X-0 |
| 82 | 60回 | 回塙73 | 須恵器 | 壺 | (140) | - | (45) | 4 | ロクロ | ロクロ | - | TT1 |
| 83 | 61回 | 回塙73 | 須恵器 | 壺 | (132) | - | (37) | 5 | ロクロ | ロクロ | - | X-0 |
| 84 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 壺 | (152) | 64 | (43.5) | 4 | ロクロ | 回転系切り | ア-23(B区) | 須恵器 |
| 85 | 61回 | 回塙73 | 須恵器 | 壺 | (76) | (18.5) | 4 | ロクロ | ロクロ+ケズリ | - | X-0 | |
| 86 | 61回 | 回塙73 | 須恵器 | 高台壺 | - | (23) | 6 | ロクロ | ロクロ | - | 内部丸形用版 | |
| 87 | 61回 | 回塙73 | 須恵器 | 高台壺 | - | (66) | (23.5) | 7 | ロクロ | ロクロ | - | 須恵器 |
| 88 | 61回 | 回塙73 | 須恵器 | 高台壺 | - | (22) | 5 | ロクロ | ロクロ | - | IP3 | |
| 89 | 61回 | 回塙73 | 須恵器 | 高台壺 | - | (58) | (19) | 4 | ロクロ | ロクロ | IP3 | |
| 90 | 61回 | 回塙73 | 須恵器 | 高台壺 | - | (68) | (20) | 6 | ロクロ | ロクロ | IP3 | |
| 91 | 61回 | 回塙73 | 黒色土器 | 壺 | (98) | (16) | 4 | ミガキ | ミガキ | ヨビナデ | イ-5-B | |
| 92 | 61回 | 回塙73 | 黒色土器 | 壺 | (140) | - | (34) | 4 | ミガキ | ロクロ | - | TP10 |
| 93 | 61回 | 回塙74 | 土師器 | 壺 | 53 | (20) | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | TP3 | |
| 94 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 壺 | (56) | (28) | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | TP10 | |
| 95 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 壺 | (56) | (10) | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | SD1 | |
| 96 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 壺 | - | (70) | (12) | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | ア-23(B区) |
| 97 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 壺 | - | (60) | (13) | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | SD1 |
| 98 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 壺 | 59 | (12.5) | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | SX3 | |
| 99 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 壺 | (50) | (12.5) | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | TP10 | |
| 100 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 壺 | (52) | (16) | 4 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | TP10 | |
| 101 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 壺 | (66) | (37) | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | TT1 | |
| 102 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 壺 | (68) | 6 | 6 | ロクロ+ミガキ | ロクロ+ミガキ | 回転系切り | TP10 | |
| 103 | 61回 | 回塙74 | 土師器 | 壺 | 50 | 6 | 5 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | TP10 | |
| 104 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 壺 | - | (48) | (11) | 3 | ロクロ | ロクロ | 回転系切り | TP10 |
| 105 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 瓶 | - | (86) | (22) | 5 | ロクロ | ヨビナデ | ア-23(B区) | |
| 106 | 61回 | 回塙74 | 須恵器 | 円筒形 | (130) | - | 8 | ロクロ | ロクロ | - | X-0 | |

表 11 長岡山東遺跡 土製品観察表

| 擇図 番号 | 写真 図版 | 種別 | 計測値 (mm) | | | 重量 (g) | 出土地点 | 備考 |
|----------|----------|----------|----------|------|------|-----------|------------|---------|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | | | |
| 107 | 62 図 | 図版 75 土偶 | 37.9 | 29.7 | 14.2 | 16.5 | イ - 2 | 脚部 中期中頃 |
| 108 | 62 図 | 図版 75 耳栓 | 25.0 | 31.0 | 19.0 | 9.3 | イ - 2 - II | |

表 12 長岡山東遺跡 石製品観察表

| 擇図 番号 | 写真 図版 | 器種 | 計測値 (mm) | | | 重量 (g) | 石材 | 出土地点 | 備考 |
|----------|----------|---------------|----------|------|------|-----------|------|-------------|-----|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | | | | |
| 109 | 62 図 | 図版 76 ナイフ | 63.1 | 20.7 | 9.2 | 9.3 | 珪質頁岩 | ア - 2 - III | 旧石器 |
| 110 | 62 図 | 図版 76 ナイフ? | 43.3 | 17.7 | 4.7 | 3.6 | 珪質頁岩 | SX2 | 旧石器 |
| 111 | 62 図 | 図版 76 楔先型尖頭器 | 51.3 | 18.4 | 8.5 | 6.9 | 珪質頁岩 | ア - 1 | 未成品 |
| 112 | 62 図 | 図版 76 スクレイバー? | 59.3 | 89.4 | 19.4 | 94.8 | 珪質頁岩 | ア - 1 - III | |
| 113 | 62 図 | 図版 76 瓦状石器 | 75.6 | 40.0 | 19.6 | 65.2 | 珪質頁岩 | ア - 3 | |
| 114 | 62 図 | 図版 76 瓦状石器 | 49.8 | 30.8 | 13.4 | 19.9 | 玉髓 | ア - 23 (北区) | |
| 115 | 62 図 | 図版 76 瓦状石器 | 77.5 | 47.1 | 16.3 | 71.9 | 珪質頁岩 | X-0 | 未成品 |
| 116 | 63 図 | 図版 76 瓦状石器 | 56.6 | 50.5 | 16.5 | 47.0 | 珪質頁岩 | ア - 6 - III | 欠損有 |
| 117 | 63 図 | 図版 76 瓦状石器 | 83.5 | 28.7 | 17.1 | 41.0 | 珪質頁岩 | ア - 1 - III | 未成品 |
| 118 | 63 図 | 図版 77 石器 | 54.2 | 65.7 | 8.5 | 27.8 | 珪質頁岩 | イ - 5 - III | |
| 119 | 63 図 | 図版 77 三脚石器 | 48.8 | 50.2 | 13.4 | 13.2 | 珪質頁岩 | TP11 | |
| 120 | 63 図 | 図版 77 三脚石器 | 34.5 | 34.8 | 9.5 | 7.9 | 珪質頁岩 | X-0 | |
| 121 | 63 図 | 図版 77 - | 56.8 | 13.2 | 8.7 | 7.2 | 珪質頁岩 | TP1 | 未成品 |
| 122 | 63 図 | 図版 77 - | 61.3 | 44.8 | 15.8 | 53.0 | 珪質頁岩 | X-0 | 未成品 |
| 123 | 63 図 | 図版 77 - | 48.6 | 23.8 | 9.9 | 14.9 | 珪質頁岩 | X-0 | 未成品 |
| 124 | 63 図 | 図版 77 - | 80.8 | 22.7 | 16.0 | 39.9 | 珪質頁岩 | ア - 23 (北区) | 未成品 |
| 125 | 64 図 | 図版 78 磨製石斧 | 72.6 | 60.9 | 34.3 | 176.1 | ? | イ - 4 SD1 | 欠損有 |
| 126 | 64 図 | 図版 78 磨製石斧 | 61.6 | 58.6 | 33.2 | 158.5 | 砂岩 | ア - 2 - III | 欠損有 |
| 127 | 64 図 | 図版 79 門石 | 121.3 | 53.3 | 36.0 | 176.0 | 砂岩 | ア - 1 - III | |
| 128 | 64 図 | 図版 79 門石・磨石兼用 | 84.2 | 62.8 | 33.0 | 182.4 | ひん岩 | SX5 | 欠損有 |
| 129 | 64 図 | 図版 79 門石・磨石兼用 | 111.0 | 85.1 | 40.6 | 561.0 | ひん岩 | ア - 2 | |
| 130 | 64 図 | 図版 79 蔽石 | 97.2 | 59.6 | 56.3 | 532.0 | 砂岩 | TP8 | 欠損有 |

写真図版



長岡山遺跡第4次調査 ブレハブ西側斜面発掘作業状況



TP4 付近（北から）



TP6



TP7



TP8 遺物出土状況



TP14



TP20



TP8 完掘状況

長岡山遺跡 試掘調査



TP23



TP25



TP26



TT2 (北から)



TT1 (東から・正面は稲荷森古墳)

長岡山遺跡 試掘調査



No.4 トレンチ（西から）



No.5 トレンチ（東から）



No.7 トレンチ（東から）



No.8 a トレンチ（南東から）



No.8 b トレンチ（北西から）



No.8 c トレンチ（西から）



No.9 トレンチ（西から）



No.12 トレンチ SD5（南から）



No.11 トレンチ（南から）



No.12 トレンチ（南から）



No.13 トレンチ（南から）



No.12 トレンチ SH53（南から）



No.14 トレンチ（南から）



No.16 トレンチ（北西から）



No.17 トレンチ（西から）

長岡山遺跡 第1次調査



No.18 トレンチ（東から）



No.19 トレンチ（北西から）



No.20 トレンチ（西から）



No.19 トレンチ内 旧TP8（南西から）



No.24 トレンチ（北から）



No.22 トレンチ（南東から）



No.23 トレンチ（南東から）



No.25 トレンチ（北西から）



No.26 a トレンチ (北から)



No.26 b トレンチ (北から)



No.27 a トレンチ (北から)



No.27 b トレンチ (南から)



No.28 トレンチ (東から)



No.28 東トレンチ (西から)



No.29 トレンチ (東から)



No.29 東トレンチ (東から)



No.30 トレンチ (東から)
長岡山遺跡 第2次調査



No.30 東トレント（東から）



No.31 トレント（西から）



No.31 東トレント（西から）



No.32 トレント（西から）



No.32 東トレント（東から）



No.33 トレント（東から）



No.33 東トレント（西から）



No.34 トレント（東から）

No.34 東トレント（西から）
長岡山遺跡 第2次調査



No.35 トレンチ（東から）



No.36 トレンチ（東から）



No.37 トレンチ（西から）



No.38 トレンチ（南東から）



No.39 トレンチ（南東から）



No.40 トレンチ



No.41 トレンチ



No.42 トレンチ



No.43 トレンチ



No.44 トレンチ



No.45 トレンチ



No.47 トレンチ (西から)



No.48 トレンチ (東から)



No.49 トレンチ (西から)

長岡山遺跡 第2次調査



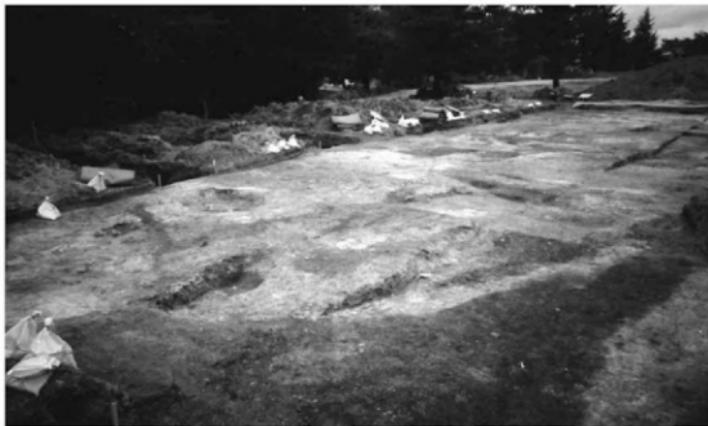
No.50 トレンチ（西から）



No.51 トレンチ（東から）



No.52 トレンチ（東から）



No.46 精査区（北西から）



SD5 北西角 遺物出土状況



SD5 北東角（北から）

長岡山遺跡 第2次調査



SX23（北東から）



SH53（南西から）



SH53 土層断面 西側（東から）



SH53 土層断面 東側（西から）

長岡山遺跡 第2次調査



南トレンチ（南西から）



北トレンチ（南東から）

長岡山遺跡 第3次調査



SD1 (北から)



SD1 (南から)



SD1 内 亂杭孔 (北東から)



SD1 a - a' (南から)



SD1 c - c' (南から)



SD1 d - d' (南から)



SD1 e - e' (南から)



SD1 f - f' (南西から)
長岡山遺跡 第4次調査



SD1 g - g' (南西から)



SD2 (北から)



SD2 a - a' (南から)



SD2 b - b' (南から)



SD2 鉄釘出土状況



SX1 (北東から)



SX1 通水穴 (南西から)



プレハブ西側斜面 遺物出土状況

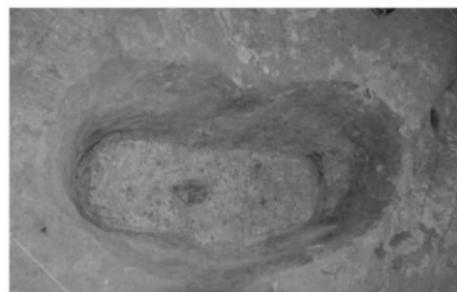
長岡山遺跡 第4次調査



SD1（西から）



SD2（西から）



SK1（北から）



完掘状況（南から）

長岡山遺跡 稲荷森古墳駐車場予定地内調査



調査前（北から）



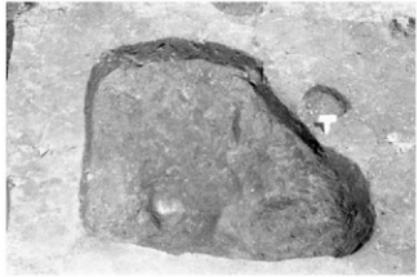
調査区全景（南から）



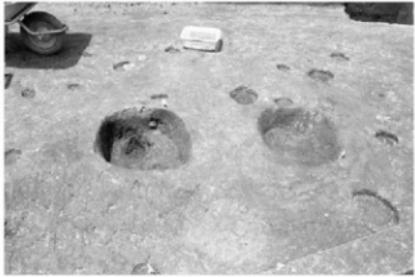
SD1（南から）



SD1 a - a'（南から）

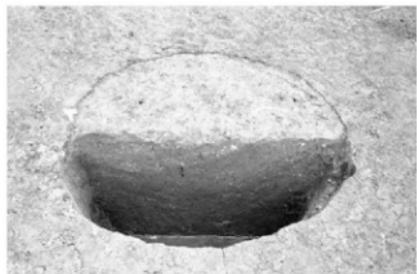


SK1（南から）



SK3・4（東から）

長岡山東遺跡 南区調査



SX1 (南から)



SX2 (南から)



SX3・4 (南から)



SX5 (西から)



SX5 (東から)



焼土 (南から)



ア - 1 グリッド 地山掘下げ状況 (南から)

長岡山東遺跡 南区調査



南区南東角 土器出土状況（西から）



遺物出土状況（東から）



耳栓出土状況（南から）

長岡山東遺跡 南区



北区トレンチ（東から）



北区トレンチ（南から）



北区 SX6（東から）

長岡山東遺跡 北区調査



1



5



6



13



14



78

長岡山遺跡出土 繩文土器（1）



15



86



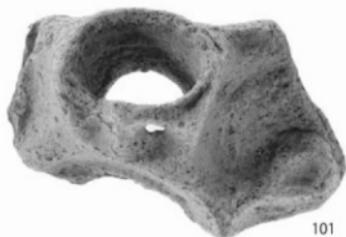
91



99



100



101



110



181

長岡山遺跡出土 繩文土器（2）



102



108



109



119

長岡山遺跡出土 繩文土器（3）



115

長岡山遺跡出土 繩文土器（4）



120

175



145

長岡山遺跡出土 繩文土器（5）



156



157

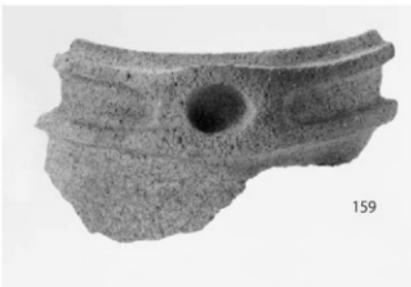


176

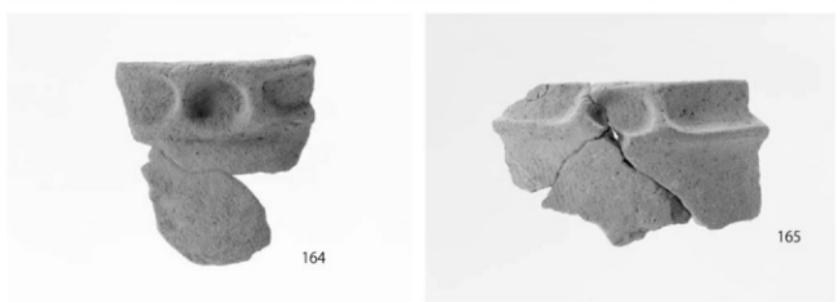
長岡山遺跡出土 繩文土器（6）



158



159



164



165



166

長岡山遺跡出土 繩文土器（7）



167



168



169



170



173

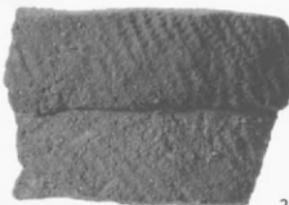


174



177

長岡山遺跡出土 繩文土器（8）



2



3



4



7

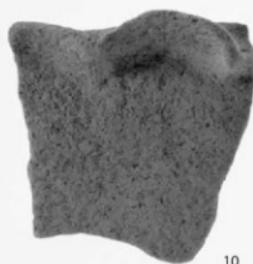


8



9

長岡山遺跡出土 繩文土器 (9)



10



11



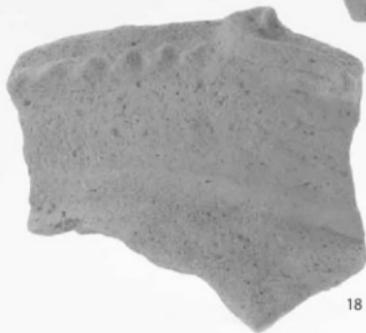
12



16



17

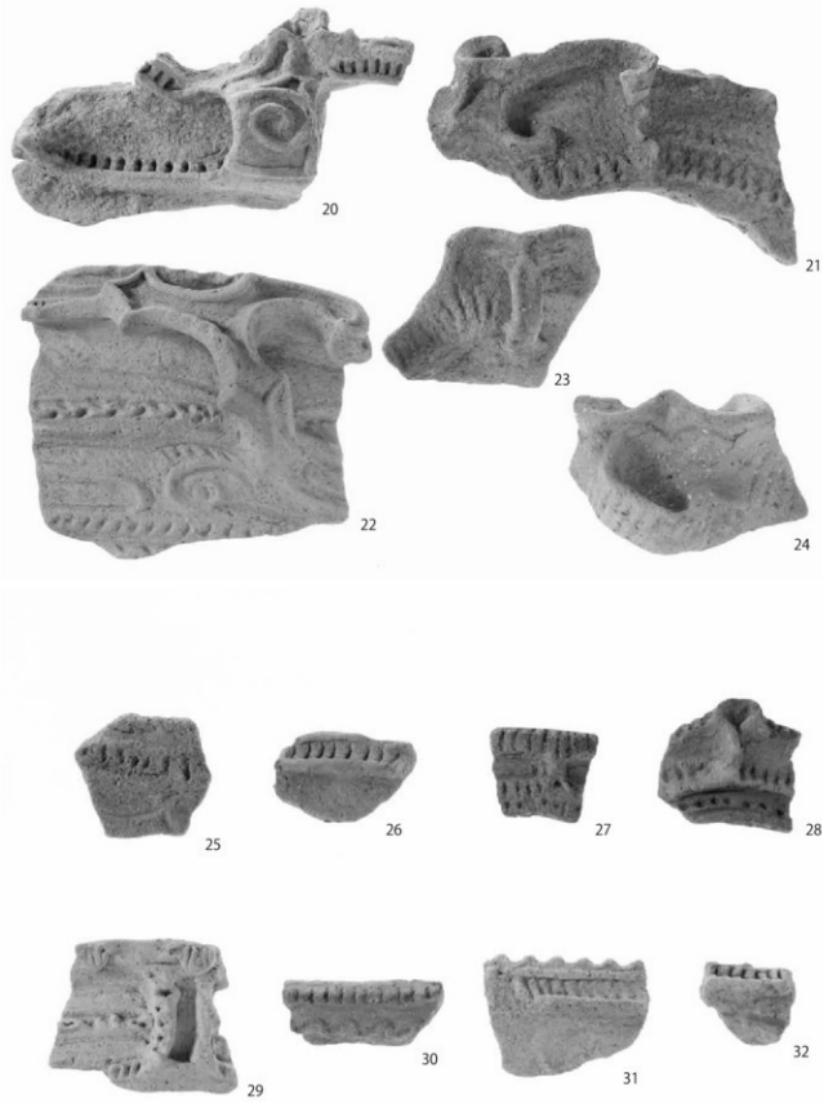


18

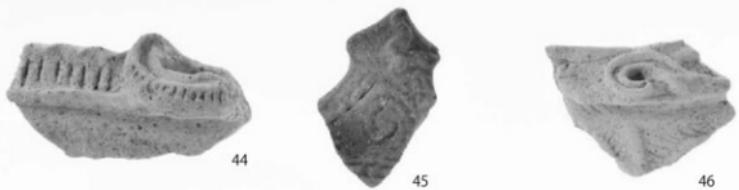
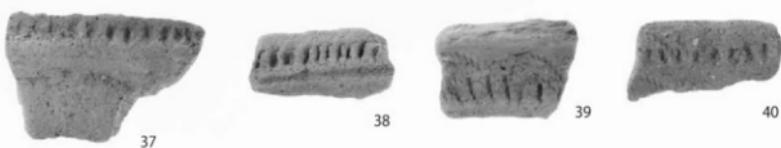


19

長岡山遺跡出土 繩文土器 (10)



長岡山遺跡出土 繩文土器 (11)



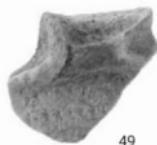
長岡山遺跡出土 繩文土器 (12)



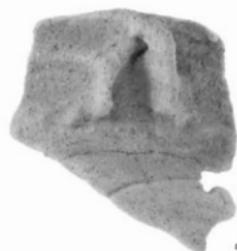
47



48



49



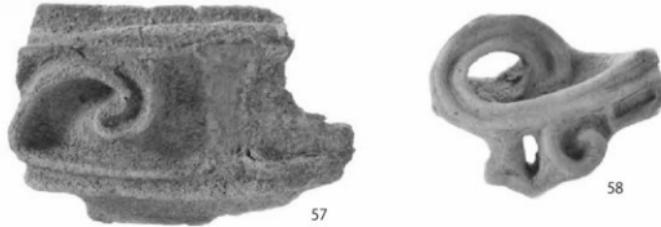
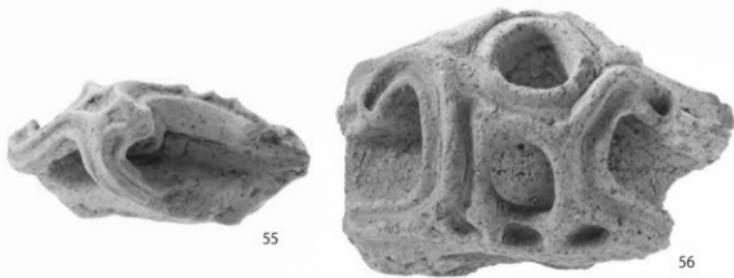
50



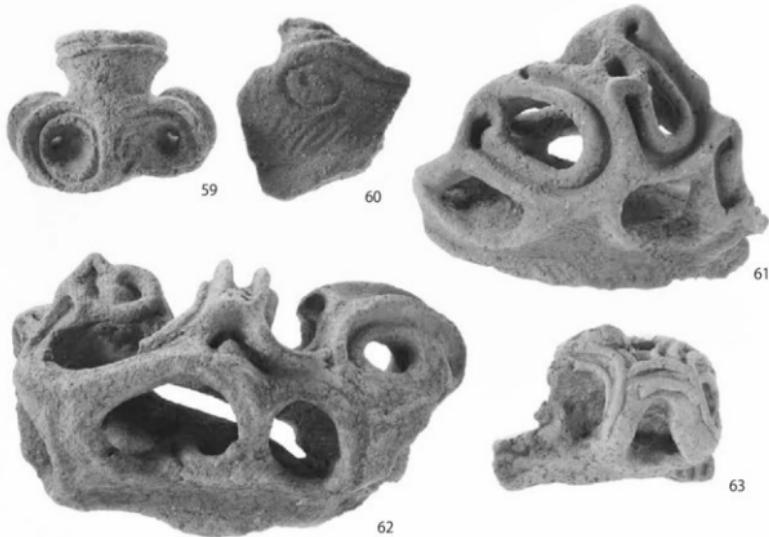
51



長岡山遺跡出土 繩文土器 (13)



長岡山遺跡出土 繩文土器 (14)



長岡山遺跡出土 繩文土器 (15)



64



65



66



67



長岡山遺跡出土 繩文土器（16）



68

69



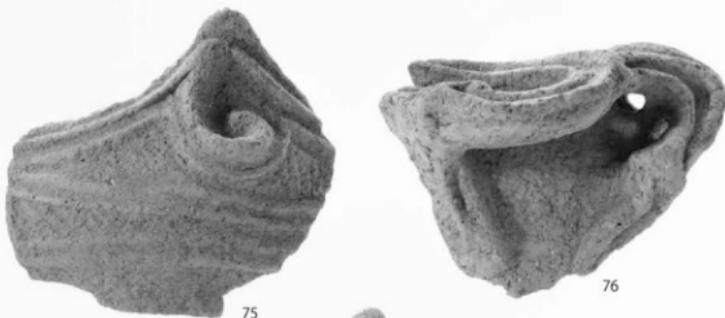
70



長岡山遺跡出土 繩文土器 (17)



長岡山遺跡出土 繩文土器 (18)



75

76



77



長岡山遺跡出土 繩文土器 (19)



79



80



81



82



83



84



85

長岡山遺跡出土 繩文土器 (20)



87



88



89



90



92



94



93

長岡山遺跡出土 繩文土器 (21)



95



96



97



98

長岡山遺跡出土 繩文土器 (22)



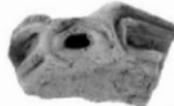
103



104



105



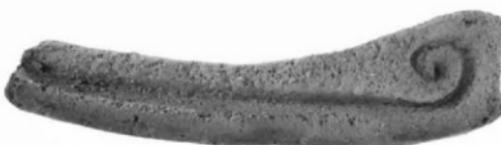
106



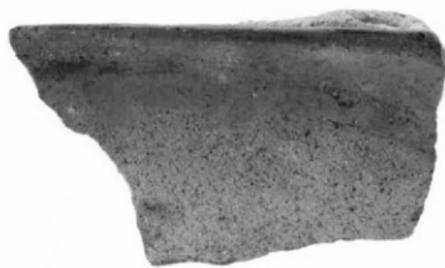
107



111



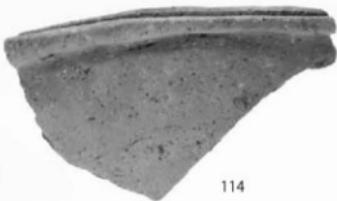
112



長岡山遺跡出土 繩文土器 (24)



113



114



116



長岡山遺跡出土 繩文土器 (25)



117



118



121



122



123



124

長岡山遺跡出土 繩文土器 (26)



125



126



127



128



129



130



131



132

長岡山遺跡出土 繩文土器 (27)



133



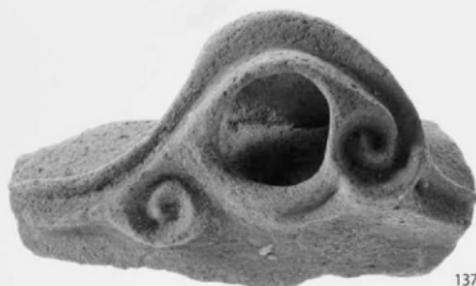
134



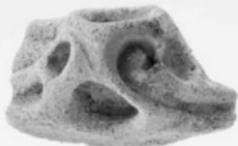
135



136



137



138



139

長岡山遺跡出土 繩文土器 (28)



140



141



142



143



144

長岡山遺跡出土 繩文土器 (29)



146



147

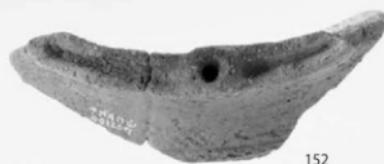
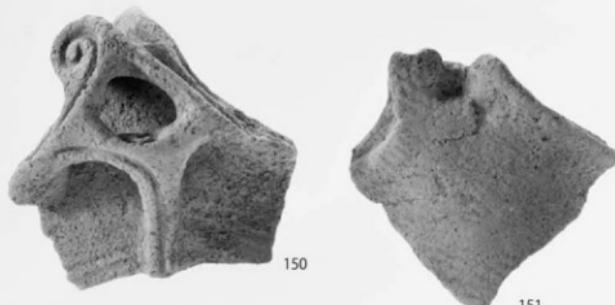


148

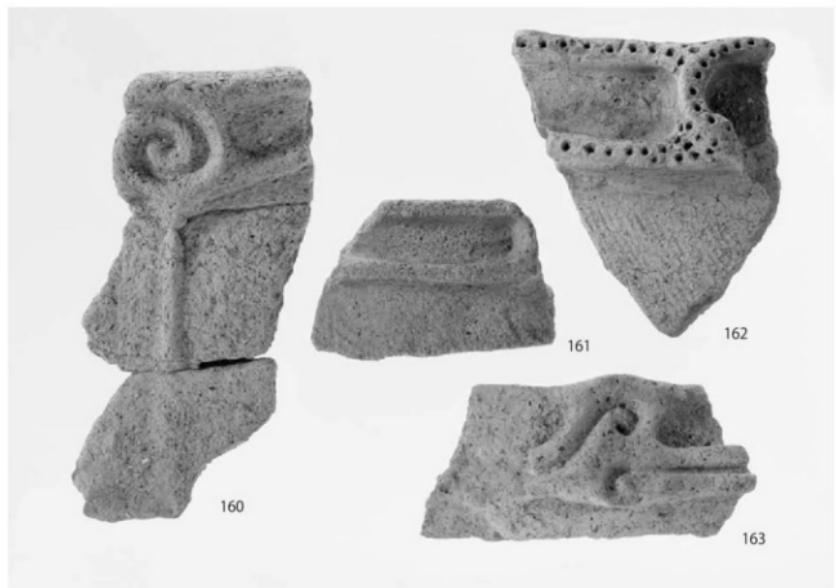


149

長岡山遺跡出土 繩文土器 (30)



長岡山遺跡出土 繩文土器 (31)

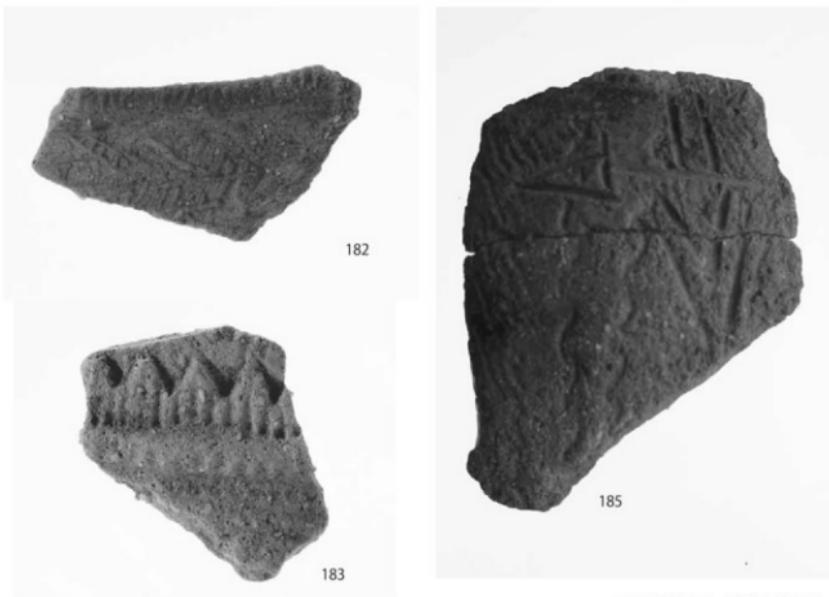


長岡山遺跡出土 繩文土器 (32)



179

180



182

183

185

長岡山遺跡出土 繩文土器 (33)



178



184

長岡山遺跡出土 繩文土器 (34)



186



187



188



189

190



191



191 底部

長岡山遺跡出土 土師器・須恵器



192



193



194



195



長岡山遺跡出土 土偶



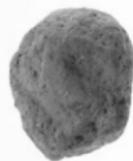
196



197



198



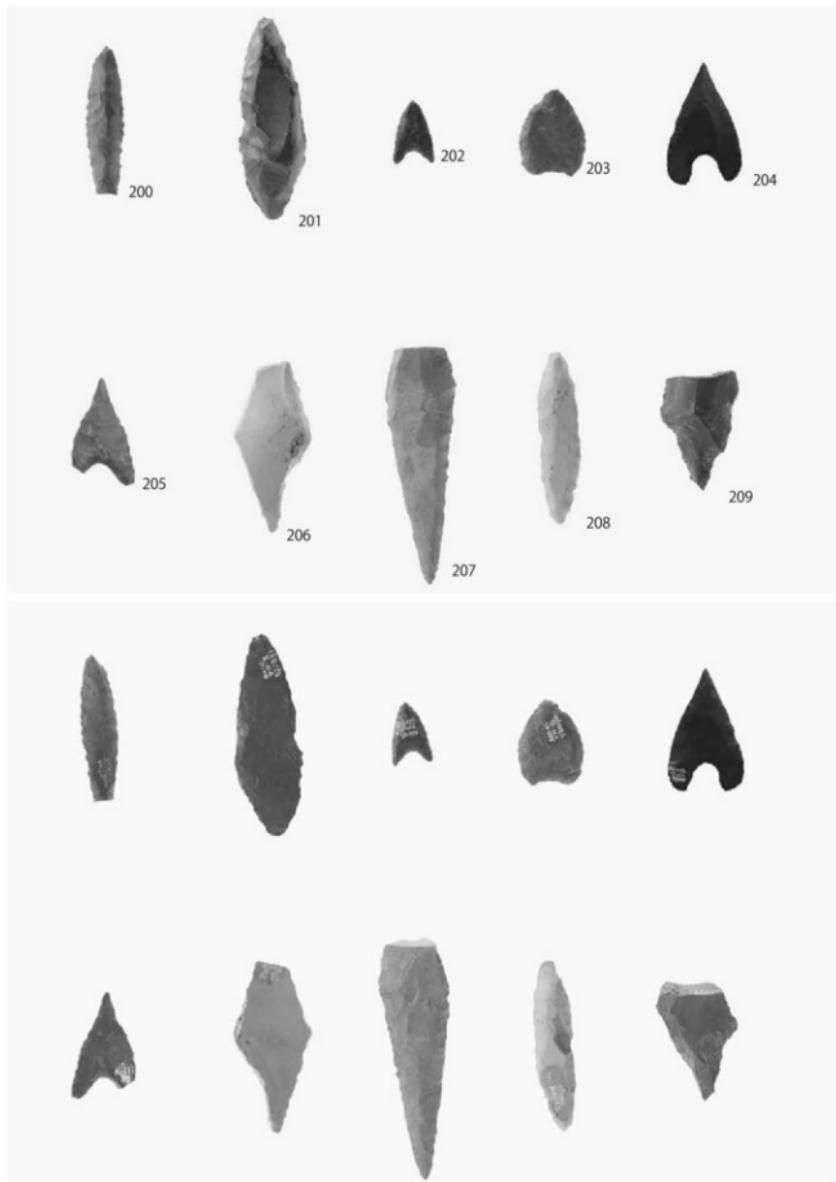
199



参考 4



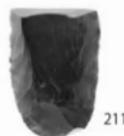
長岡山遺跡出土 土偶・土製品



長岡山遺跡出土 石器（1）



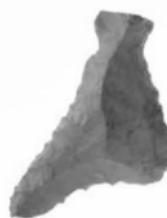
210



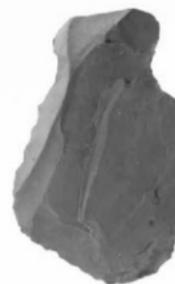
211



212



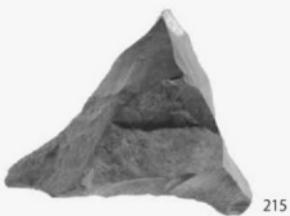
213



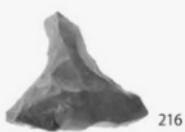
214



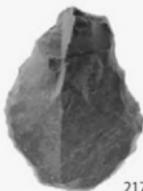
長岡山遺跡出土 石器（2）



215



216



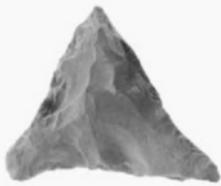
217



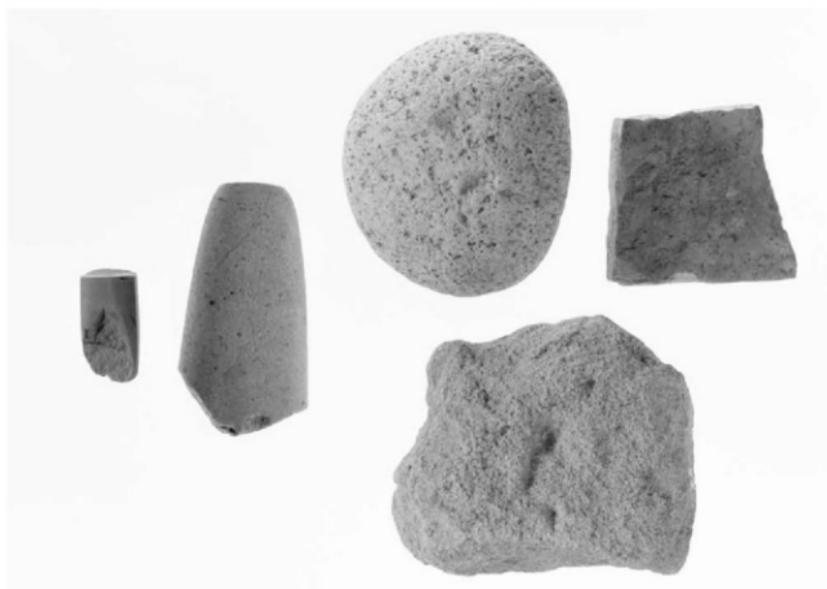
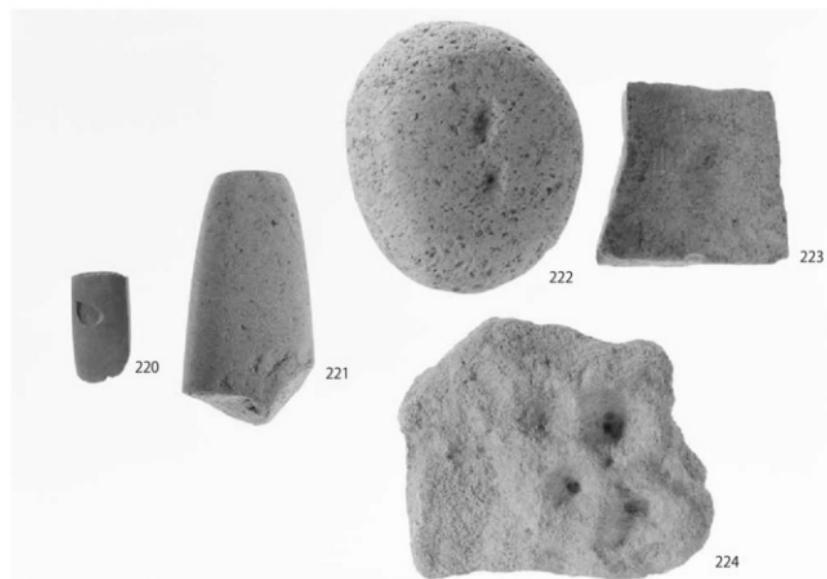
218



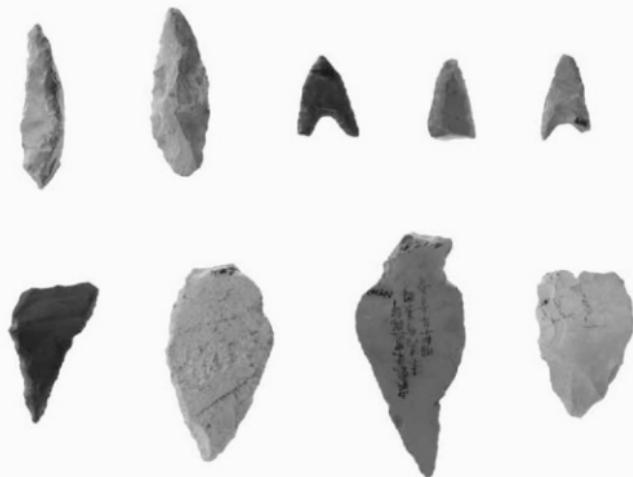
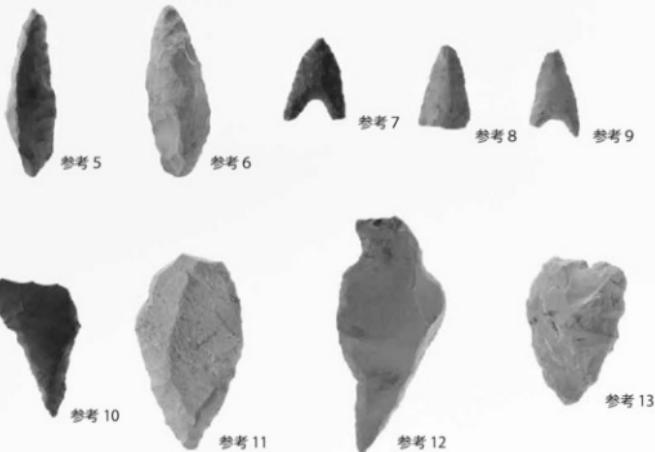
219



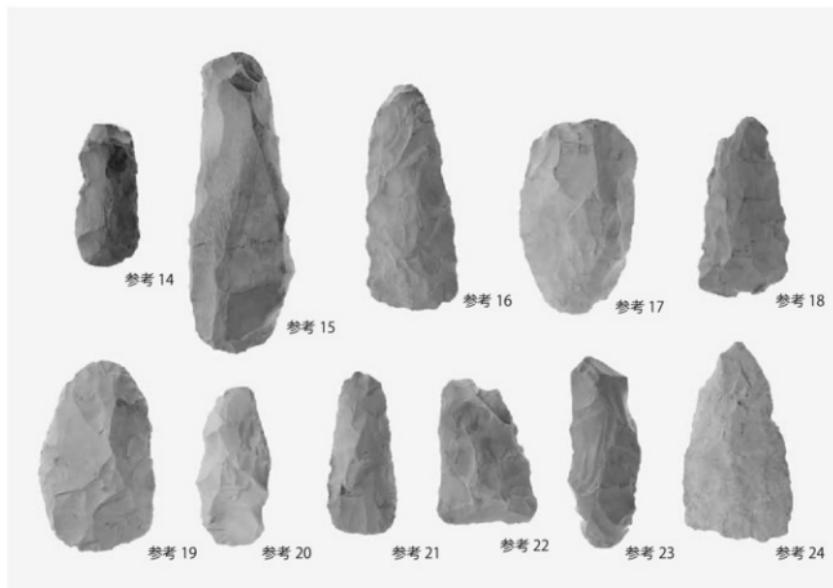
長岡山遺跡出土 石器（3）



長岡山遺跡出土 石器 (4)



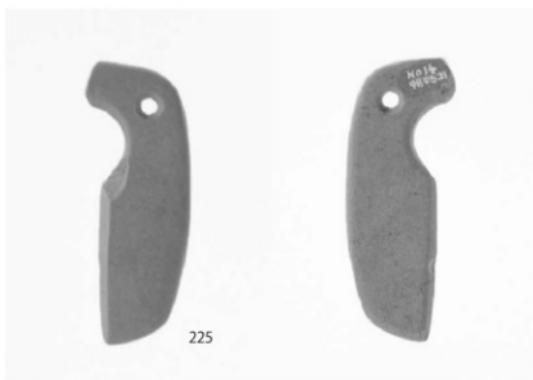
長岡山遺跡出土 石器（5）



長岡山遺跡出土 石器（6）



長岡山遺跡出土 石器（7）



225



226

長岡山遺跡出土 石製品



227



228



229



230

長岡山遺跡出土 鉄釘・古銭



長岡山遺跡第4次調査 SX1 出土遺物



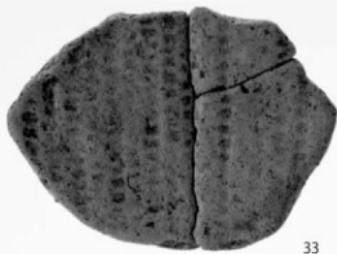
1



10



13



33



7



41

長岡山東遺跡出土 繩文土器（1）



2



3



4



5



6

長岡山東遺跡出土 繩文土器（2）



8



9



11



12

長岡山東遺跡出土 繩文土器（3）



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24

長岡山東遺跡出土 織文土器（4）



25



26



27



28



29



30



31



32

長岡山東遺跡出土 繩文土器（5）



34



35



36



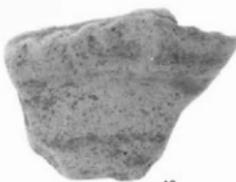
37



38



39

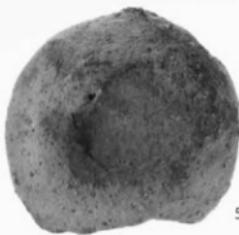


40

長岡山東遺跡出土 繩文土器（6）



長岡山東遺跡出土 土師器



58



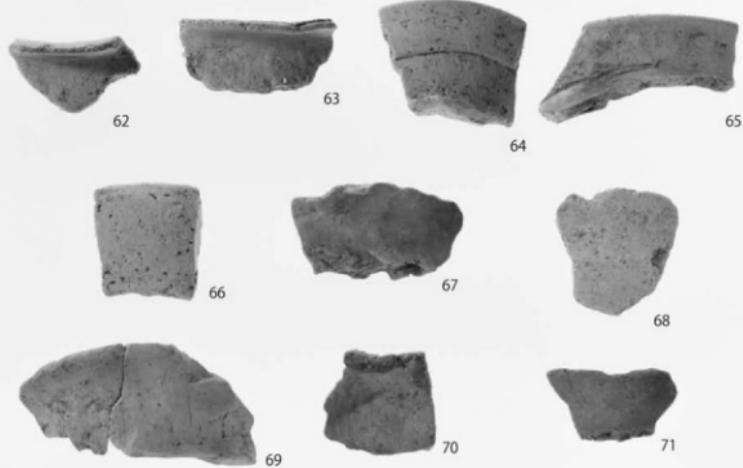
59



60

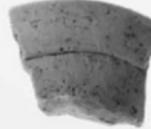


61



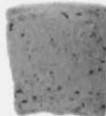
62

63



64

65



66



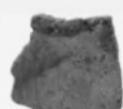
67



68



69



70



71

長岡山東遺跡出土 土師器



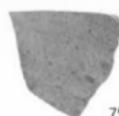
72



73



74



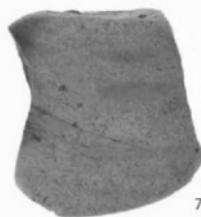
75



76



77

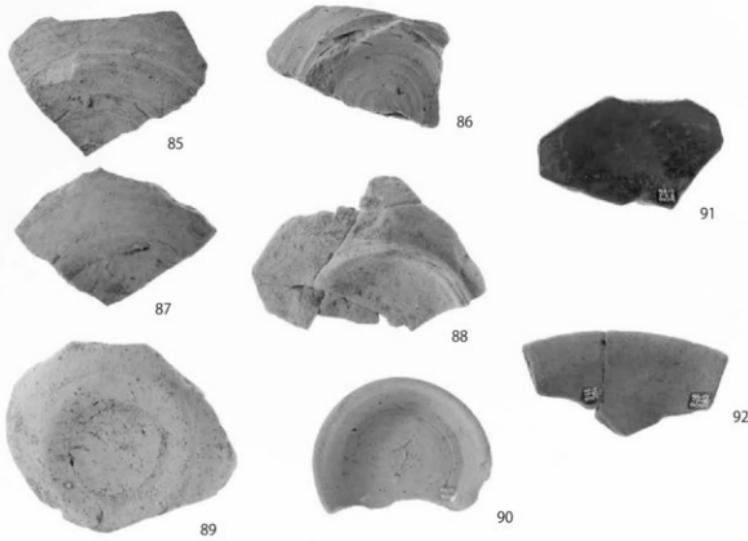
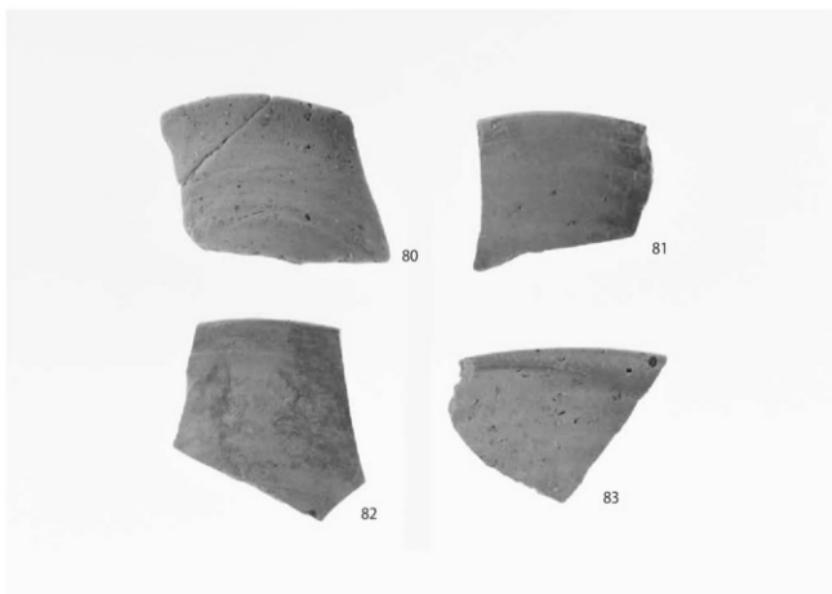


79

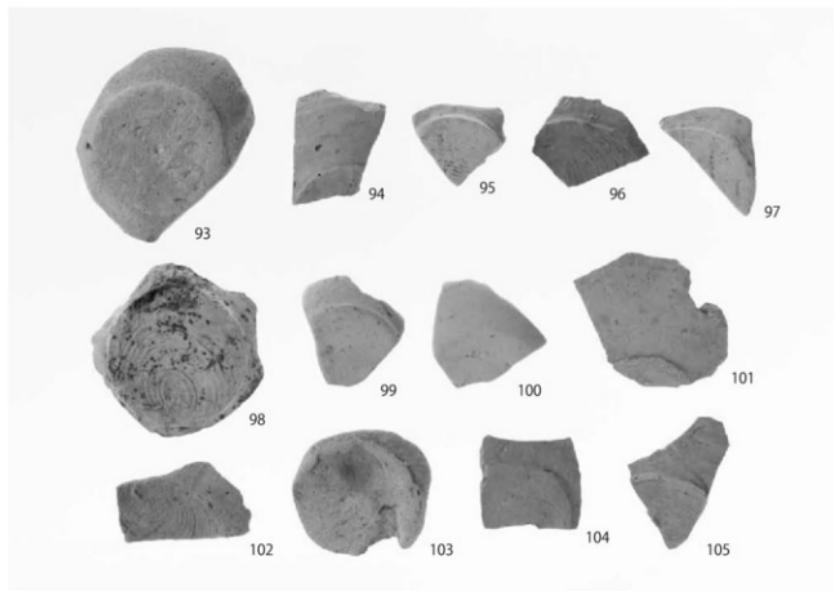


78

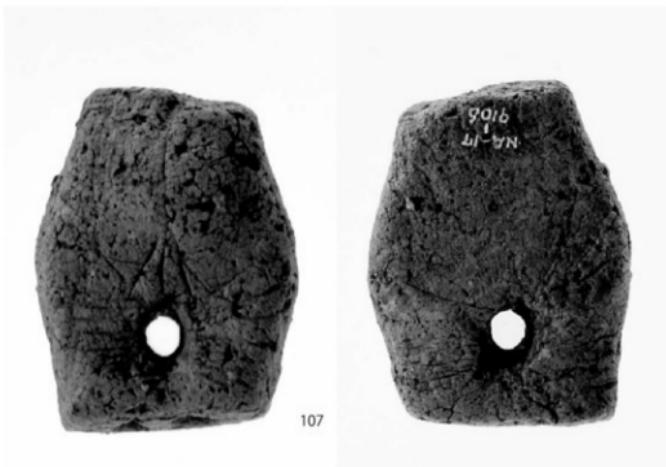
長岡山東遺跡出土 須恵器



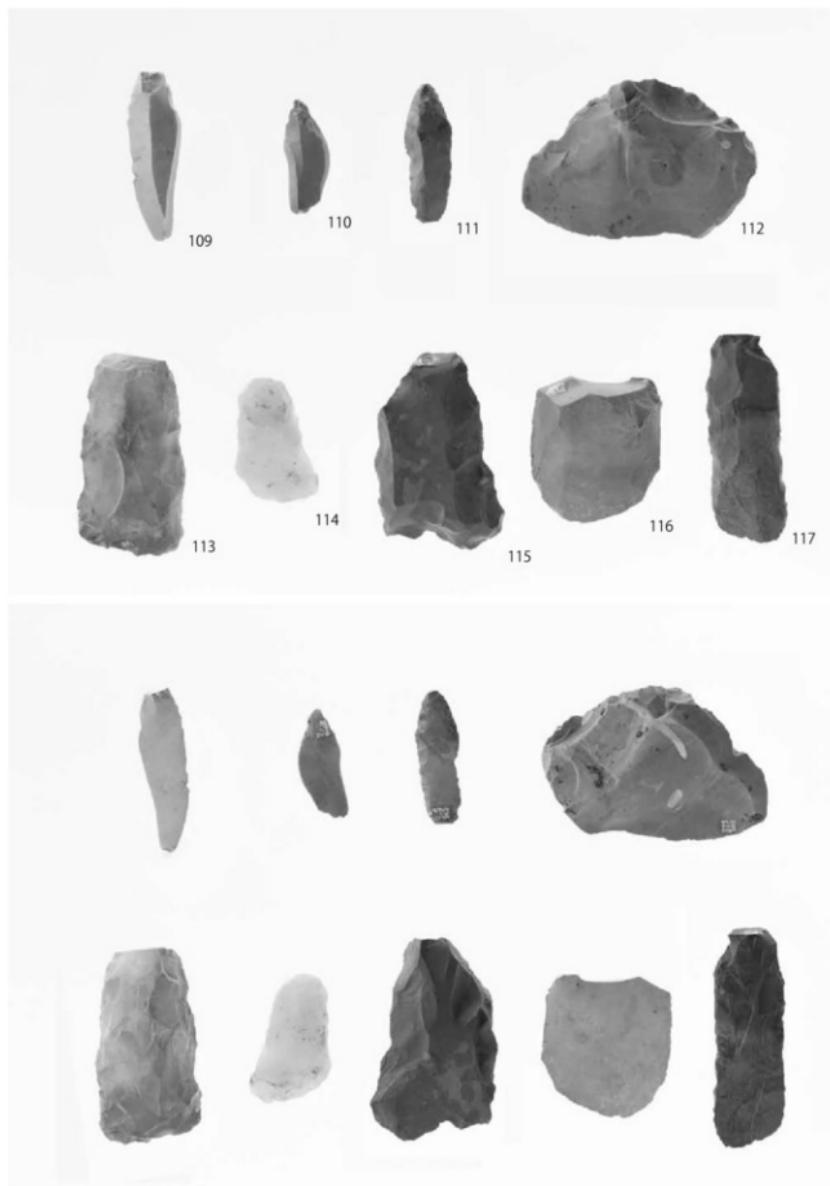
長岡山東遺跡出土 土師器・須恵器



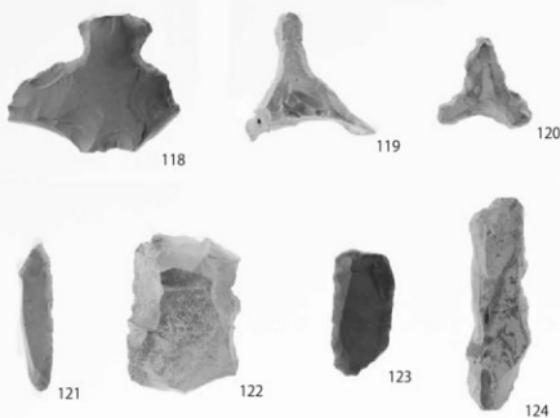
長岡山東遺跡出土 土師器・須恵器



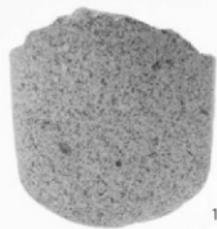
長岡山東遺跡出土 土偶・土製品



長岡山東遺跡出土 石器（1）



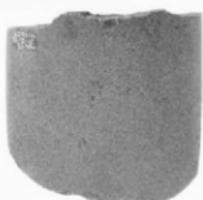
長岡山東遺跡出土 石器（2）



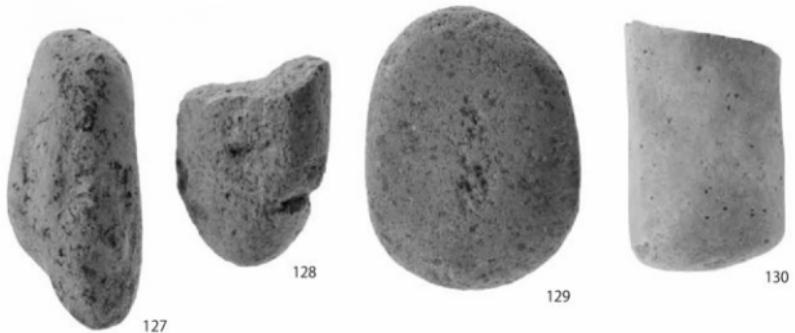
125



126



長岡山東遺跡出土 石器（3）



長岡山東遺跡出土 石器（4）

付 編

南陽市長岡山遺跡出土鉄製品

白井 久美子（日本考古学協会会員）

長岡山遺跡の木棺直葬墓と考えられる遺構から出土した鉄製品は、鉄劍 2 以上、鉄鎌 4 の武器類と、鉄斧 1、刀子 1 以上、ヤリガンナ 1、鑿 1 の工具類である（表 1）。全体に遺存が良く、特に鉄斧・鑿はほぼ原形を保っている。また、有機質の柄部や鞘も鉄分の吸着によってかなりの部分が遺存している。劍・刀子については、その一部が出土したものも見られ、遺構全体ではさらに相当数の副葬品が存在する可能性がある。

詳細な計測値は表 1 にまとめ、個々の特徴等について以下に記すことにする。

鉄劍（第 1 図-1～5）

切先から茎までほぼ遺存する 1 振り（1）のほか、切先部の破片（2）、劍身部の破片 3 点（3～5）がある。

1 は刃部長 17.8 cm の短劍である。茎は鍛造した木製の柄の中に遺存しており、X 線写真によると 5.1 cm 前後の長さをもつ。木製の柄を含む全長は 23.6 cm あまりである。関は片方を欠失し、残る一方も鞘と柄の隙間（5.05～5.45 mm）にわずかに見える状況であり、X 線写真によって緩やかな曲線を描いて茎に平行する形態を確認した。茎には孔径 3.3～3.4 mm の目釘孔が 2 つある。劍身には表裏とも鞘の木質が誘導しており、鞘口を確認できる。鞘は切先側にずれており、柄との間に上記の隙間を生じている。切先は尖った先端が遺存しており、実用に供さなかったことがうかがえる。刃部の錆は確認できない。

2 は先端部を欠く切先の破片である。割れ口が新しく、未調査の遺構内に残りが遺存するものと見られる。表裏に鞘木が付着する。3 は上下の破断面で形状が異なり、上端は両刃の劍身、下端は鍛ぶくれた 2 枚の鉄板が付着したように見える。劍身とヤリガンナの茎が付着したものかと推定される。4・5 はいずれも鞘木の付着した劍身の破片である。

鉄鎌（第 1 図-6～9）

6～8 は深い逆刺をもつ広身の鉄鎌である。いずれも根抜みによって矢柄に装着された無茎鎌であるが、8 が短い舌をもつのにに対し、6・7 には舌がない。

6 は切先にやや丸みをもつ形態で、表裏には根抜みの上に梢、あるいは箱と見られる木質が付着しているため、X 線写真によって根抜みの輪郭を確認した。根抜みの頭部は方形につくられ、根抜み下に径 4.0×4.08 mm の孔がある。抜き込み部は X 線写真では二重に映っており、表裏の輪郭なのか、段がついているのか判然としないが、半円に近い弧状に取り出されている。

7 は切先・肩部の角張った形態で、抜き込みも直線的である。根抜み下に径 4.06×4.12 mm の孔をもつ。刃部（図の裏面）には 6 と同様の木質が付着する。

8 の切先・肩部はやや丸みを帯び、長さ 7 mm ほどの舌をもつ。舌は根抜みの中にあって、X 線で輪郭を確認したが、端部の形状は不明瞭である。3 点の中で逆刺の遺存が最も良く、現状で 20.6 mm の長さがある。本来は 25 mm 前後の長さであったと推定できる。7・8 の根抜み頭部は紡錘形につくられている。根抜み下の孔径は 4.01×4.07 mm である。

9 は劍身形の細身有茎鎌である。細長い茎を根抜みで矢柄に固定する型式である。根抜みの頭部はやや片

寄って装着され、両の切り込みも左右非対称である。この両の非対称な形態は、X線写真によってより明瞭に確認できる。片側がほぼ直角に短く切り込まれるのに対し、他方は鈍角に茎にとりついている。この不自然な形態は、広身の鎌を転用して製作されたためであろうか。いずれにしても希有な例といえよう。

鉄斧（第1図-10）

袋状の柄装着部をもつ鉄斧である。刃部に刃こぼれ状の欠損が見られるほかは、ほぼ完存している。袋部の断面は梢円形で、縁は2.42～3.23mmの厚さがあり、刃部の分厚い（18.5mm以上）重量感のあるつくりである。刃部の先端には不明瞭ながら研ぎ出し部が認められる。袋部には木製の柄が装着されている。

ヤリガンナ・刀子・鑿（第2図-1～7）

鍛して出土した3種の工具とそれ对付隨する破片を第2図に示した。鑿は完形で出土しているが、刀子・ヤリガンナは切先と茎を破損している。

ヤリガンナは約13cmに及ぶ柄部（5）が他の2点に鍛着し、刃部と茎が割れて遊離している。柄部には木製の柄が装着されていると見られるが、皮紐によるくつ巻きと見える部分があり、それらの材質についてはさらに顯微鏡観察等による検討が必要である。茎（1）はちょうど目釘孔のある箇所で割れており、茎尻部分に相当する。柄部とは接合しないが幅や厚みから見て同一個体と考えられる。切先（7）は先端部を欠くうえ、鍛化が著しく形状は不明瞭である。わずかな反りと破断面の形状から切先部と判断した。木質の付着状況から木柄が刃部の直下まで及んでいることがうかがえる。

刀子は鍛着部の刃部長さが9.2cm以上の大型品で、刃部幅は2.2cmに及ぶ。把は鹿角製である。間部はヤリガンナ・鑿が鍛着する上、別物の木質が付着するため、X線写真によてもその形状を確認することができなかった。また、茎は現存する鹿角の把の中に納まるのかどうか現状では確認できない。3は、鍛化による歪みが著しいが破断面の形状やX線写真から刀子と考えた。図の上下で断面形が異なり、部位は不明である。鹿角装の刀子とは別個体の可能性が高い。2は厚さ5mmほどの小片で、図の上部は剥落している。原形は不明であるが、これらの工具の中では刀子の一部である可能性が考えられる。

鑿（6）は17.5mm四方の隅丸方形の頭部をもつ大型品である。全長は11.7cmに及び、棒状部の最も大きい部位では鍛ぶくれを差し引いても厚さが16mm以上ある。刃部に向かって先細りとなるが、研ぎ出し部の厚さは7.07mmあり、切先幅は12.27mmである。かなり厚い金属板等の切断に用いられるものであろう。

今回報告した本遺構の出土遺物は、短剣・鉄鎌と木工具と推定される鉄製品（袋部をもつ斧＝袋斧・ヤリガンナ・刀子・鑿）で構成されている。上記のように、未調査部にも副葬品が存在する可能性があるため、全体の評価は将来にゆだね、報告した遺物群の特色に触ることにしたい。

深い逆刺をもつ広身の鉄鎌は、鎌身上部に肩部をもつ特徴的な形態で、両側の刃の開きや切先頂部の刃の角度など全く同じ例は見当たらない。切先の角度が少ないものを含めると、前期前半から中期中葉の例までが検討の対象となる。それらの中で、前期前半の山口県国森古墳の出土例が近似する。国森古墳の副葬品は、梢外の鉄鋸を除くと、短剣・鎌・斧2種（短冊形・袋斧）・鑿（有袋）・ヤリガンナ・ヤス・針から成る鉄製品と小型の連弧文鏡である。短剣・鎌・木工具を主体とした副葬品が本例と共に通し、漁具が加わっている。国森古墳の鉄鎌は、定角式を主体に多種多様な広身鎌で構成され、深い逆刺をもつ広身鎌のほかに大型で多様な広身短頭鎌が見られる。

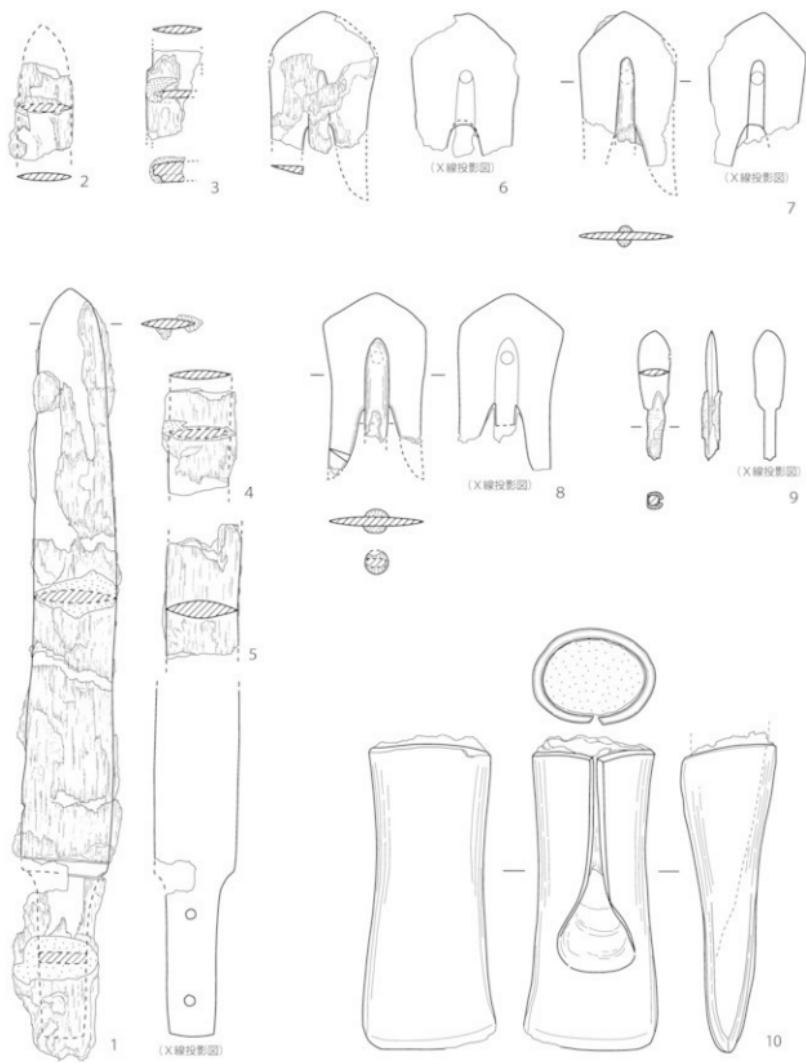
広身鎌の類例は、前期の例として神奈川県池子遺跡No.2地点の住居跡出土例があるが、逆刺の形状や切先に丸味のない点が異なる。また、中期初頭～前半古段階の例には、山口県天神山1号墳の出土例が挙げら

れる。天神山1号墳の副葬品には、大刀・剣・鎌・袋斧のほか、長方板革縫短甲と鎧先・鎧などの鉄製農具があり、袋斧の鉄製模造品が見られるなど、中期になって加わる新しい要素をもつことが明らかである。

本例の副葬品の構成は、袋斧・ヤリ・ガナ・盤という木工具のセットと鎌・短剣から成る武器が伴う前期の特徴を備えており、前期前葉～中葉に北限最大の前方後円墳として本遺構の至近距離に築かれた、稻荷森古墳の出現に連動した動きを示すものと考えられる。これらが副葬品として一括出土していることは、東北南部の前期古墳文化を解明する上で極めて貴重な資料を提供しているといえよう。

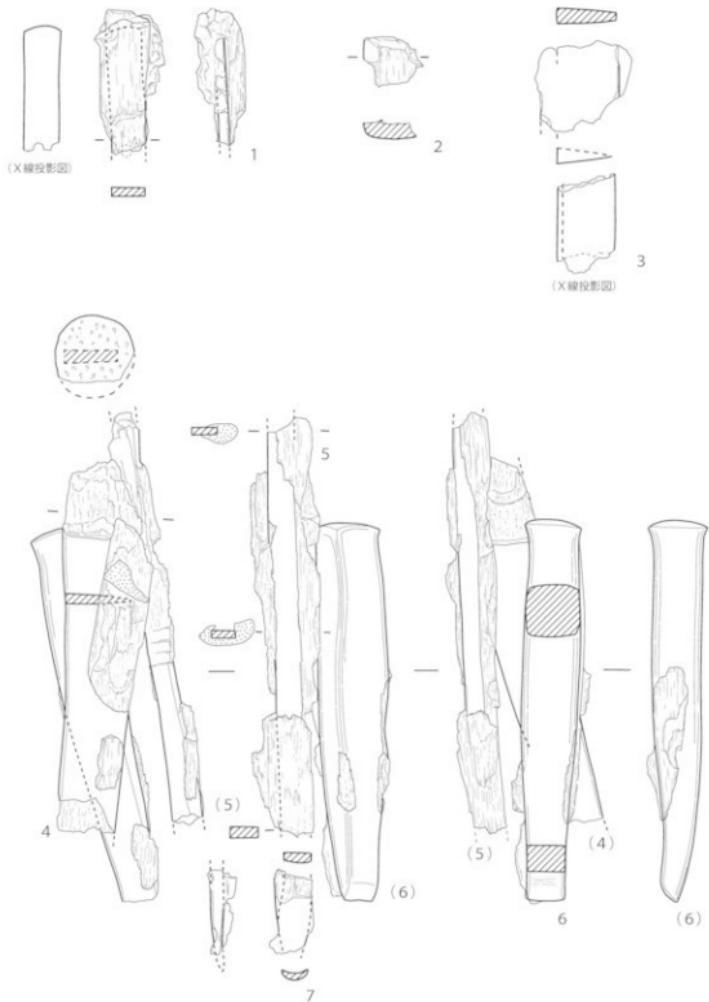
参考文献

- 五條猫塚古墳研究会 2010 「奈良国立博物館所蔵五條猫塚古墳出土資料の再整理とその新知見」 『鹿園雑集－奈良国立博物館研究紀要－』第12号 奈良国立博物館
 杉山秀宏 1988 「古墳時代の鐵器について」 『櫛原考古学研究所論集』第八 吉川弘文館
 高村公之 1994 「池子遺跡群1」 神奈川県立埋蔵文化財センター
 田中新史 1999 「古墳時代中期前半の鐵器（2）－東国の事例分析－」 『土筆』第5号 土筆舎
 田中新史 2004 「古墳時代中期前半の鐵器（3）－中都城の事例分析－」 『土筆』第8号 土筆舎
 中村徹也ほか 1979 「天神山古墳」 山口市埋蔵文化財調査報告第8集 山口市教育委員会
 乗安和二三編 1998 「国森古墳」 田布施町教育委員会
 松木武彦 2003 「古墳出現期の鐵器の一様相」 一關扶三角形鐵劍について－ 『初期古墳と大和の考古学』 学生社



0 5cm
(2 : 3)

第1図 剣・鐵・斧



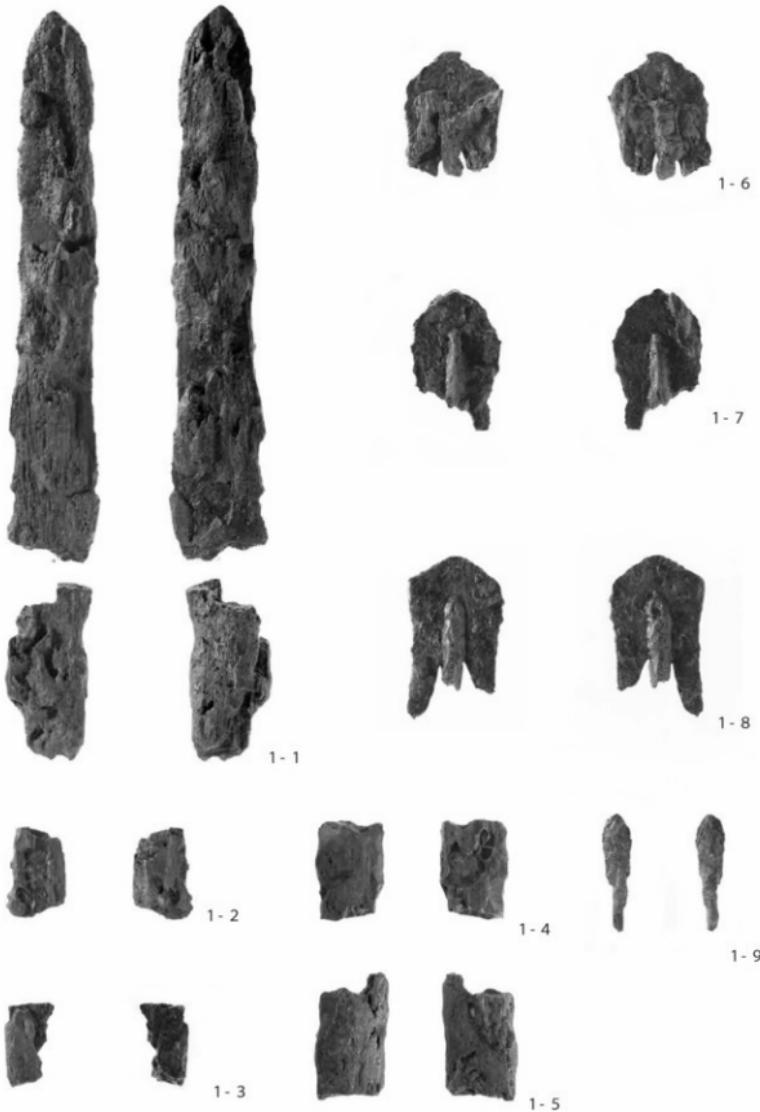
第2図 ヤリガンナ・刀子・鑿
(2 : 3)

表 1 南陽市長岡山遺跡出土鐵製品

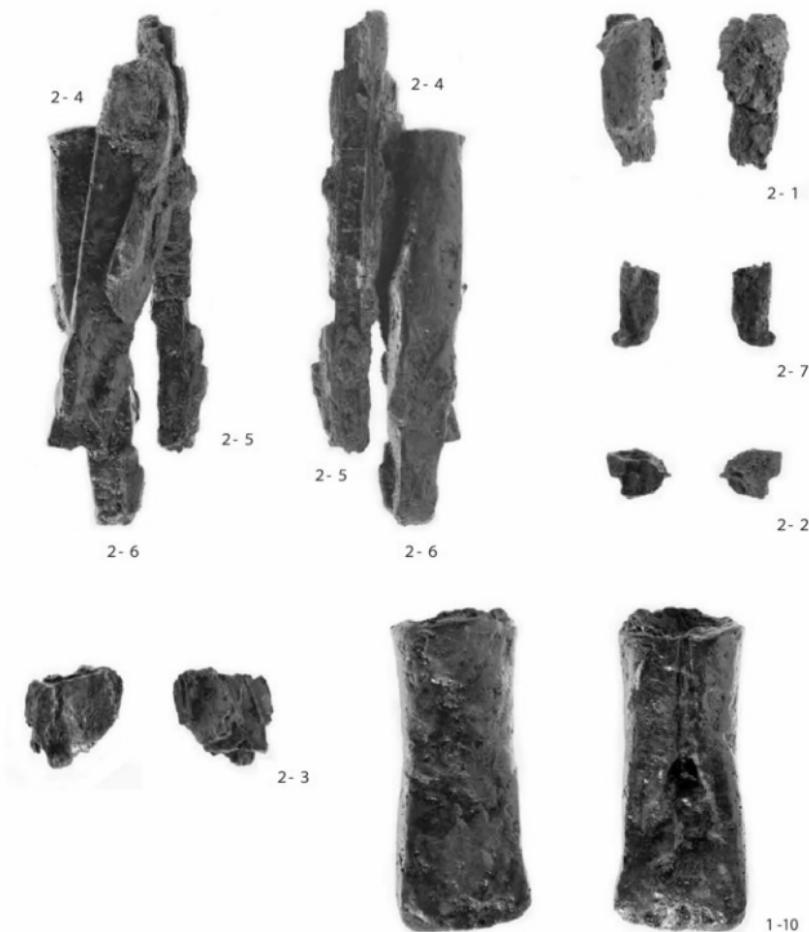
| 名称 | 椭圆 番号 (現存番) | 全長 (木質) | 刃部長 | 柄長 (木質) | 刃部幅 (切先) | 同左厚 (24.63) | 刃部幅 (中央) | 茎厚 (中央) | 柄部幅 | 柄部厚 | 目打孔至 茎端 | 重量 g | 備考 | | |
|---------|-------------------|------------|---------|------------|-------------|----------------|-------------|------------|--------|-------|------------|---------|--------|-------------|-----|
| 鉢削 | 1-1 | 236.23 | 178.4 ± | 57.83 | 56.37 | 3.55 | 24.63 | 15.41 ± | 27.24 | 1.5 ± | 3.0 ± | 25.62 | 15.2 | 3.3 ~ 3.4 | |
| 鉢削(刀部) | 1-2 | 30.21 | 30.21 ± | - | - | 14.24 | - | 17.31 | 2.42 | - | - | - | - | 3.2 | |
| 鉢削? | 1-3 | 27.31 | - | - | - | - | - | 15.48 | 2.2 ± | - | - | - | (7.67) | 2枚の付着? | |
| 鉢削(刀部) | 1-4 | 32.98 | 32.98 ± | - | - | - | - | 18.97 | 2.83 | - | - | - | - | 6.2 | |
| 鉢削(刀部) | 1-5 | 42.41 | 42.41 ± | - | - | - | - | 23.49 | 5.26 - | - | - | - | - | 9.0 | |
| 鉢削(刀身) | 1-6 | 43.63 | 43.63 ± | - | 25.5 ± | 3.86 | 2.2 ± | 29.47 | 2.75 ± | - | - | 7.53 | 6.5 ± | 4.0 ~ 4.08 | |
| 鉢削(刀身) | 1-7 | 47.69 | 47.69 ± | - | 26.2 ± | 29.27 | 2.1 ± | 29.09 | 2.17 | - | - | 6.0 ± | 5.56 | 4.06 ~ 4.12 | |
| 放散(刀身) | 1-8 | 54.26 | 54.26 ± | 7.0 ± | 32.0 ± | 31.21 | 2.55 | 28.35 | 2.69 | 6.0 ± | 5.5 ± | 2.0 ± | 7.07 | 7.26 | |
| 鉢削(刀身) | 1-9 | 39.72 | 23.92 | 15.80 | 21.5 ± | 10.05 | 2.7 ± | 9.04 | 2.75 | 5.2 ± | 3.5 ± | 3.0 ± | 3.61 | 5.18 | |
| 鉢削 | 1.10 | 95.26 | 4.0 ± | - | 8.0 ± | 39.63 | 6.01 | 33.16 | 18.5 ± | - | - | 37.26 | 30.17 | - | |
| ヤリガンナ基 | 2-1 | 44.46 | - | 39.1 ± | 44.46 ± | - | - | - | - | 10.38 | 2.82 | 14.48 | 15.0 ± | - | |
| 刃? | 2-2 | 14.83 | - | - | - | - | - | 18.5 ± | - | - | - | - | - | 1.8 | |
| 刃? | 2-3 | 31.78 | 31.78 ± | - | - | 16.94 | 5.0 ± | - | 18.28 | 5.41 | - | - | - | 8.9 | |
| 刀子(鉗内装) | 2-4 | 125.97 | 92.57 ± | ? | 33.33 | - | - | 18.33 | 3.5 ± | 22.06 | 16.0 ± | 4.0 ± | 22.95 | 20.80 | - |
| ヤリガンナ柄部 | 2-5 | 129.16 | - | - | 129.16 | - | + | - | - | 9.08 | 7.82 | 2.52 | 20.5 + | 7.96 | - |
| 鉤 | 2-6 | 117.05 | 7.47 | - | 110.98 | 12.27 | 7.07 | 12.07 | 8.03 | 17.53 | 16.20 | 14.50 | 16.47 | 15.93 | - |
| ヤリガンナ切先 | 2-7 | 25.78 | ? | - | 10.2 ± | 8.43 ± | 2.2 ± | 10.05 ± | 4.0 ± | 8.71 | - | - | - | - | 2.5 |



写真図版1 鉄製品X線写真



写真図版 2



写真図版 3

報告書抄録

南陽市埋蔵文化財調査報告書第7集

長岡山遺跡・長岡山東遺跡発掘調査報告書

2013年3月31日発行

発行 山形県南陽市教育委員会
〒999-2292 山形県南陽市三間通436番地1
電話 0238-40-3211
印刷 有限会社あづまプリント
〒999-2251 山形県南陽市高梨415番地
電話 0238-43-2909